

第4章 都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況(地域特性)

「事業実施区域及びその周囲」(以下、「調査区域」といいます。) とは、環境要素に係る環境影響を受ける恐れがある地域と考えられる都市計画対象道路事業実施区域から概ね片側約 3km(環境項目の中で、地域特性の把握範囲が最も広い景観項目の範囲「道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)(平成 25 年 3 月、国土交通省国土技術政策総合研究所)」を参考に設定しました。) を含む図 4-1 の範囲とし、地域特性を把握する範囲としました。

なお、統計資料等の行政単位による文献調査の場合は、「調査区域に含まれる静岡県浜松市及び湖西市」(以下、「調査区域内の市町」といいます。) で行いました。

これらの調査区域内の市町は、表 4-1 に示すとおりです。

表 4-1 調査区域内の市町

県名	市町名
静岡県	浜松市
	湖西市
計	2 市

愛知県側の事業実施区域及びその周囲の状況については、愛知県区間の方法書を参照してください。

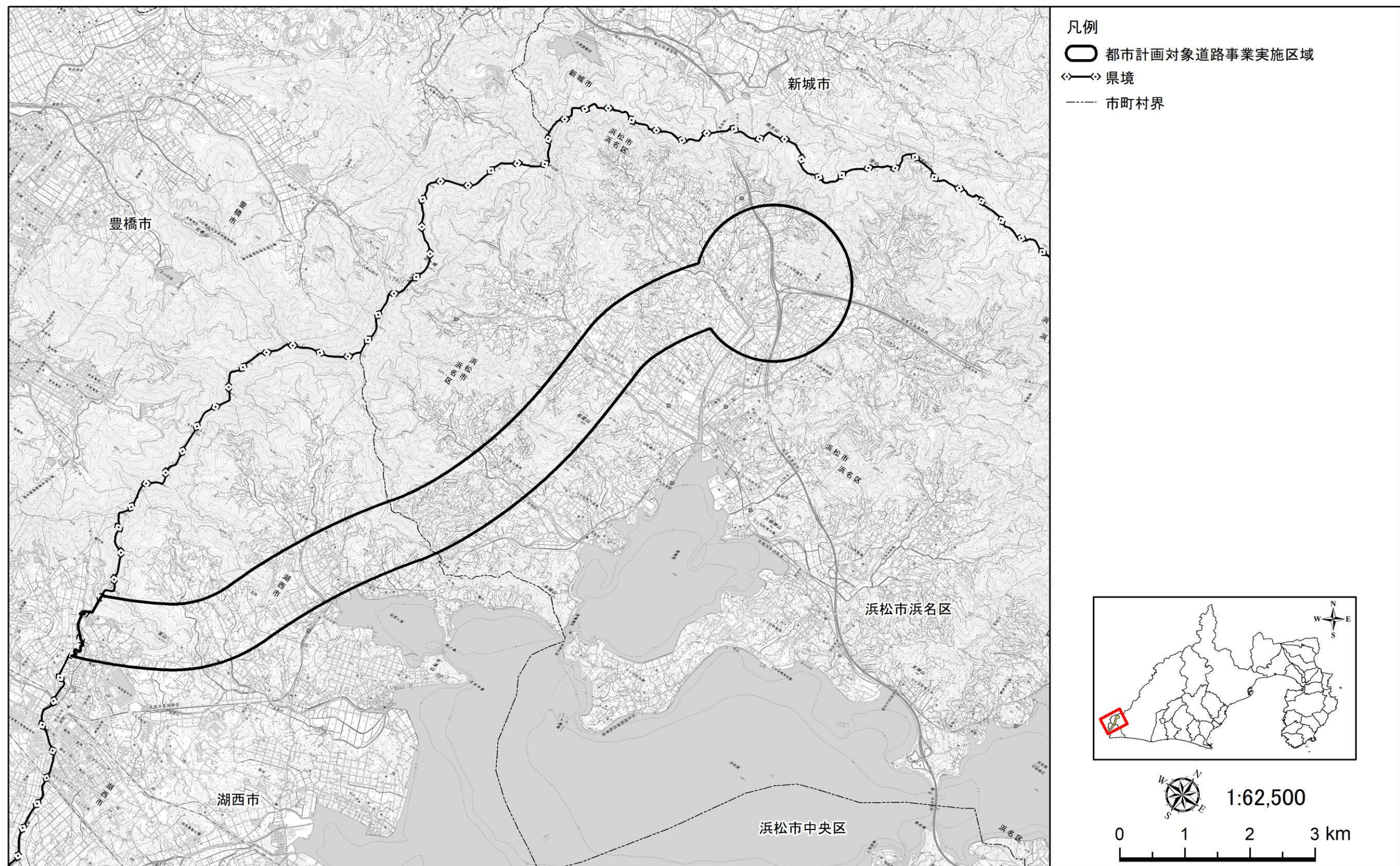


図 4-1 事業実施区域及びその周囲

第1節 自然的状況

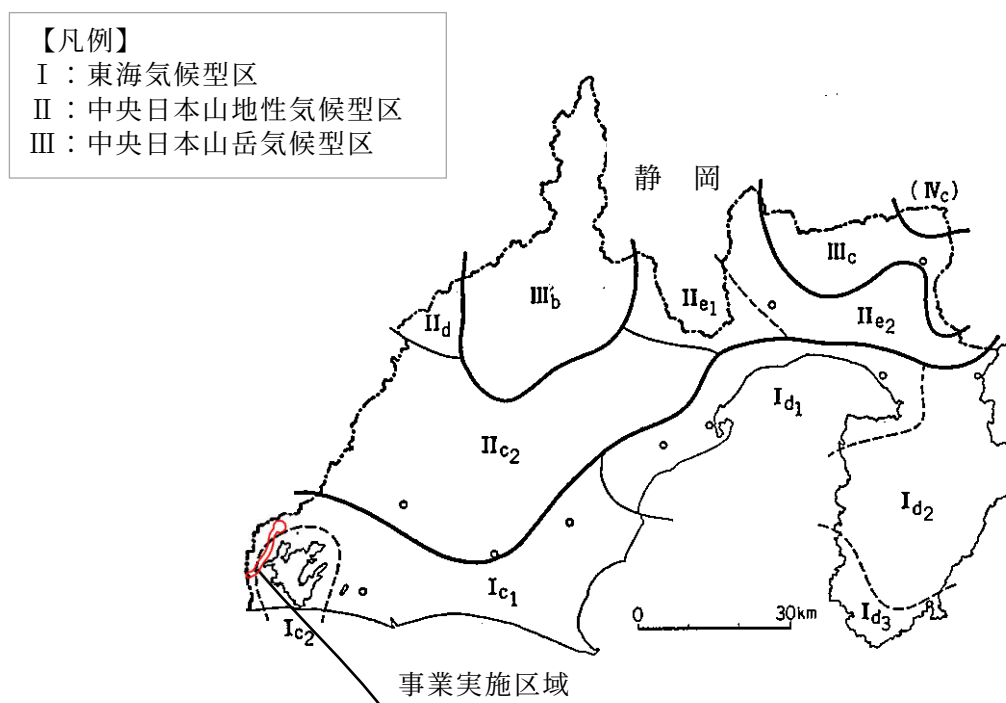
1.1.気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

(1) 気象の状況

1) 気象の概況

「日本地誌第11巻 長野県・山梨県・静岡県」（昭和47年2月、日本地誌研究所）、によると、調査区域は図4-1-1に示すとおり、東海気候型区の東海気候地域（I_{c1}）に属し、浜名湖とその周辺地域は（I_{c2}）に属するとされています。東海気候地域（I_{c1}）は、特に静岡県に特色のある気候地域で、冬季は温暖、夏季はかなり高温になります。海岸部は冬季に西よりの風が卓越します。

浜名湖とその周辺地域（I_{c2}）は、年間を通じて気温が高くなる傾向があります。冬季は浜名湖の影響で暖かく、夏季は豊橋平野の高温域に連続した東端地域として高温になります。



<事業実施区域の気候による地域区分>

I_{c1}: 東海気候地域。もっとも静岡県の特色ある気候地域で、冬は温暖、夏はかなり高温になる。海岸部は冬に西風が強い。

I_{c2}: 浜名湖とその周辺地域で、年間を通じて気温が高い。冬は湖の影響で暖かく、夏は豊橋平野の高温域に連続した東端地域として高温である。

図 4-1-1 静岡県の気候区分

出典：「日本地誌第11巻 長野県・山梨県・静岡県」（昭和47年、日本地誌研究所）

2) 気象の状況

調査区域では、静岡県に位置する三ヶ日地域雨量観測所（浜松市）において、降水量の観測が行われています。観測所の位置は図 4-1-3 に示すとおりです。また、調査区域外に位置する浜松特別地域気象観測所では平均気温、降水量、日照時間、風向・風速等の気象観測が行われています。

三ヶ日地域雨量観測所及び浜松特別地域気象観測所における過去 10 年間の気象の概況は表 4-1-1 に、過去 10 年間の月別気象概況は表 4-1-2(1)～(2)及び図 4-1-2 に示すとおりです。

三ヶ日地域雨量観測所の年間の総降水量は 1,690.5～2,369.5mm となっています。また浜松特別地域気象観測所の年間の平均気温は 16.5～17.9℃、年間の総降水量は 1,771.0～2,522.5mm、年間の日照時間は 2,156.7～2,509.1 時間、年間の平均風速は 3.4～3.6m/s、年間の最多風向は西北西となっています。

また、気温は 6～9 月、降水量は 6～9 月、平均風速は 12～4 月、日照時間は 12 月～5 月、8 月に卓越する傾向があります。

**表 4-1-1 三ヶ日地域雨量観測所及び浜松特別地域気象観測所における気象概況
(平成 26 年～令和 5 年)**

項目 年	平均気温 (℃)	総降水量(mm)		日照時間 (h)	平均風速 (m/s)	最多風向
		三ヶ日	浜松			
平成 26 年	16.5	1743.5	1830.5	2324.3	3.5	西北西
平成 27 年	17.0	2180.5	2522.5	2156.7	3.4	西北西
平成 28 年	17.5	1945.5	2050.5	2243.5	3.4	西北西
平成 29 年	16.5	1690.5	1771.0	2368.7	3.6	西北西
平成 30 年	17.4	2273.0	2153.5	2362.6	3.6	西北西
令和元年	17.5	1910.5	2143.0	2246.1	3.5	西北西
令和 2 年	17.5	2249.5	2244.5	2317.9	3.5	西北西
令和 3 年	17.4	2360.5	2330.0	2327.7	3.6	西北西
令和 4 年	17.2	2176.0	2392.5	2345.1	3.5	西北西
令和 5 年	17.9	2369.5	2363.5	2509.1	3.4	南南西
平均	17.2	2089.9	2180.2	2320.2	3.5	-

注1)「三ヶ日」は三ヶ日地域雨量観測所、「浜松」は浜松特別地域気象観測所の観測結果を示す。

注2)平均気温、日照時間、平均風速、最多風向は、浜松特別地域気象観測所の観測結果を示す。

出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）

表 4-1-2(1) 月別気象概況（三ヶ日雨量観測所：平成 26 年～令和 5 年）

項目 月	降水量（mm）	
	合計	日最大
1 月	58.10	26.30
2 月	65.95	27.45
3 月	176.10	60.15
4 月	201.90	66.30
5 月	207.00	68.15
6 月	226.45	102.00
7 月	315.40	96.30
8 月	224.20	59.45
9 月	269.15	74.70
10 月	196.50	66.30
11 月	81.00	29.75
12 月	68.15	30.35

注1) 降水量は月合計降水量の10年間平均値を示す。

出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）

表 4-1-2(2) 月別気象概況（浜松特別地域気象観測所：平成 26 年～令和 5 年）

項目 月	気温(℃)			降水量(mm)		風向・風速(m/s)		日照 時間(h)
	平均	最高	最低	合計	日最大	最多風向	平均風速	
1 月	6.5	15.4	-1.4	62.4	28.3	西北西	4.2	210.1
2 月	7.4	18.1	-0.4	70.9	28.5	西北西	4.1	192.3
3 月	11.5	22.0	2.1	195.5	65.1	西北西	3.8	212.2
4 月	15.6	25.0	6.5	208.7	66.2	南南西	3.8	205.2
5 月	19.9	29.3	11.3	223.4	71.5	南南西	3.3	222.6
6 月	22.8	31.8	16.5	233.3	94.6	南南西	3.2	168.1
7 月	26.6	35.1	20.8	329.2	96.1	南	3.1	187.8
8 月	28.1	36.6	22.0	197.0	50.2	東南東	3.2	209.3
9 月	24.9	33.2	18.1	282.3	98.1	南南西	3.0	156.2
10 月	19.7	29.5	10.7	217.0	72.8	北西	3.0	168.2
11 月	14.8	23.5	5.6	93.0	29.6	南南西	3.1	183.3
12 月	9.0	18.9	0.5	67.7	28.4	西北西	4.0	204.7

注1) 気温は月最高気温、月最低気温の10年間平均値を示す。

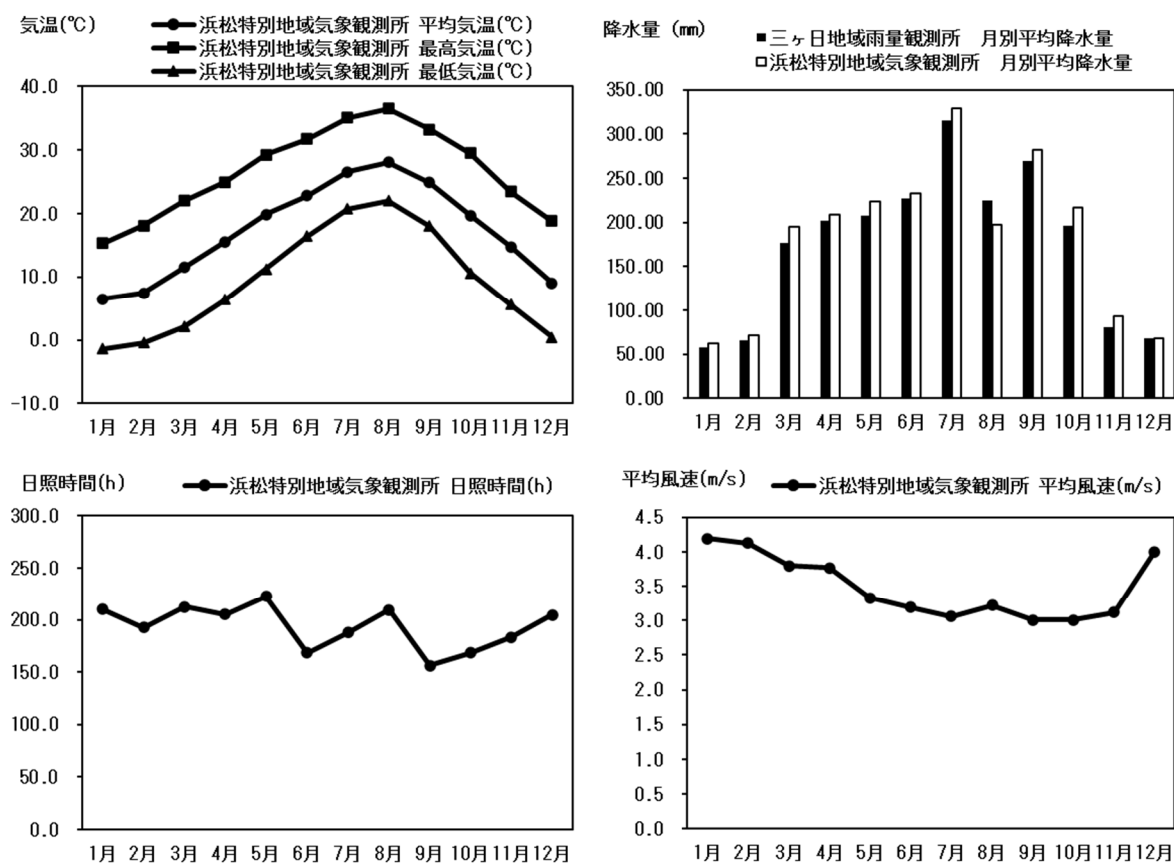
注2) 降水量は月合計降水量の10年間平均値を示す。

注3) 最多風向は10年間における当該月の最多となる風向を示す。

注4) 平均風速は月平均風速の10年間平均値を示す。

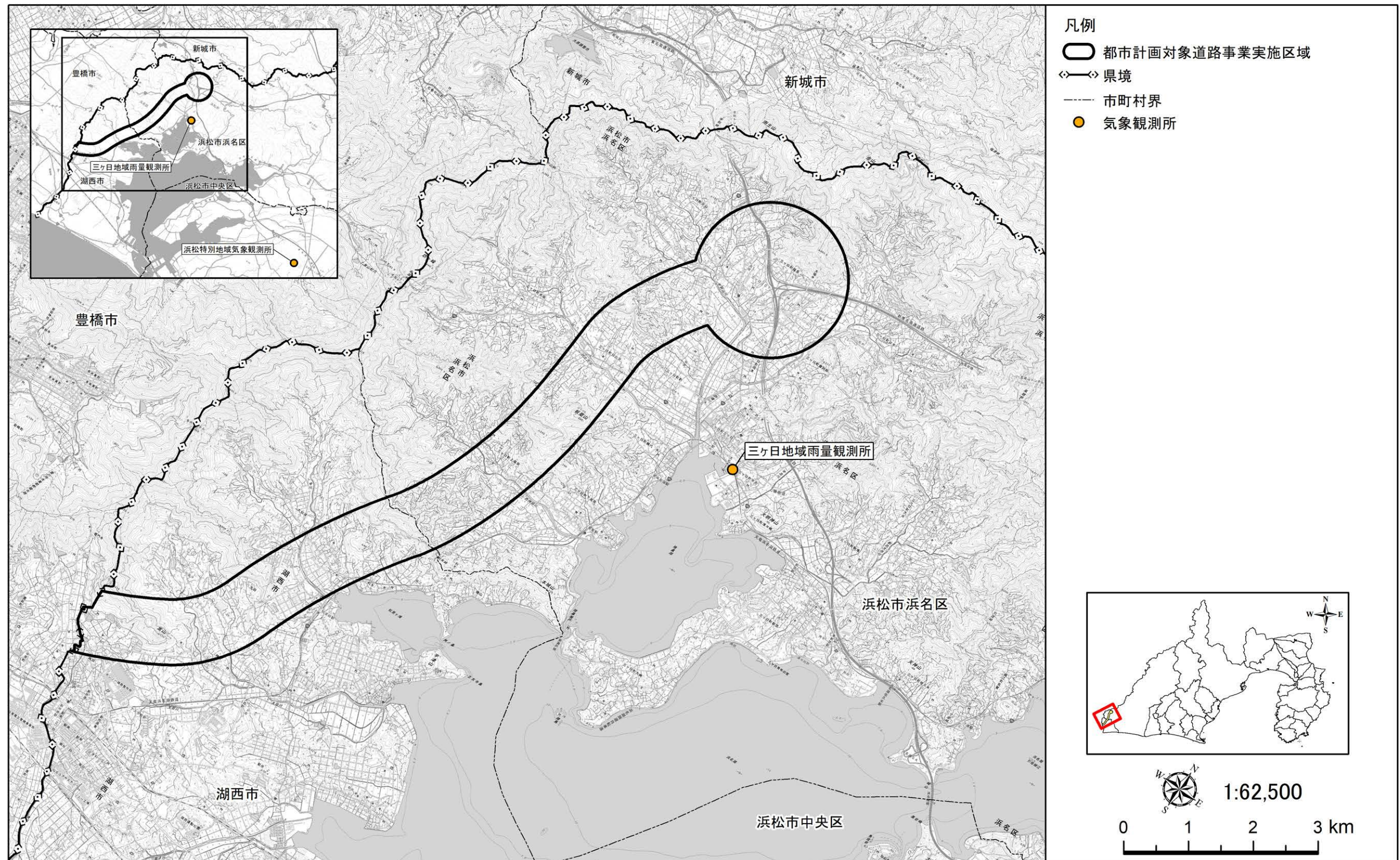
注5) 日照時間は月合計時間の10年間平均値を示す。

出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）



出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）

図 4-1-2 ミカタ地域雨量観測所及び浜松特別地域気象観測所における気象概況
（平成 26 年～令和 5 年）



出典：「地域気象観測所一覧」（気象庁ホームページ）

図 4-1-3 気象観測所位置図

(2) 大気質の状況

1) 測定局の状況

調査区域に位置する令和４年度の大気汚染常時監視測定局及び測定項目は、表 4-1-3 及び図 4-1-4 に示すとおりです。調査区域及びその周辺には、一般環境大気測定局（一般局）は２局存在します。自動車排出ガス測定局（自排局）は、調査地域内には存在しません。

表 4-1-3 一般局、自排局及び測定項目（令和４年度）

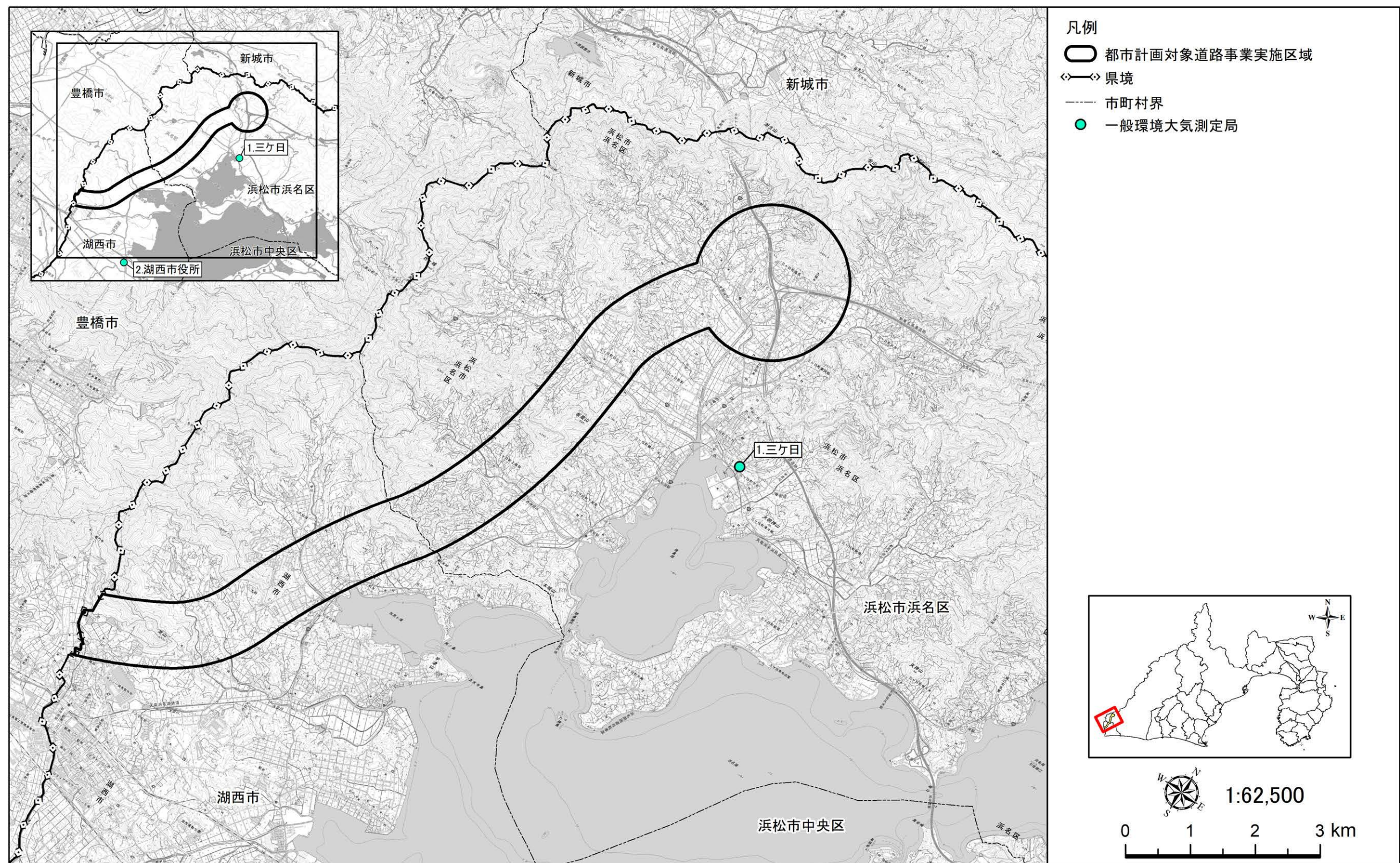
No	測定局	所在地	測定項目								管理主体	種別
			二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	一酸化炭素	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類		
1	三ヶ日	浜松市浜名区 三ヶ日町三ヶ日 500 番地の 1		○	○	○		○			静岡県	一般局
2	湖西市役所	湖西市吉美 3268	○	○	○	○		○				

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 「○」は当該測定局において当該項目の測定を行っていることを示す。

出典：「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和４年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）



出典：「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）
「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

図 4-1-4 大気質測定箇所

2) 二酸化硫黄 (SO₂)

令和4年度の測定結果は表4-1-4に、過去5年間（平成30年度～令和4年度）の経年変化は、表4-1-5及び図4-1-5に示すとおりです。

令和4年度において1時間値が0.1ppmを超過した時間はなく、また1日平均値の2%除外値は0.001ppmとなっており、環境基準を達成しています。

過去5年間の年平均値は、平成30年度から令和元年度(平成31年度)にかけて減少後、横ばい傾向にあります。

表 4-1-4 二酸化硫黄の測定結果（令和4年度）

No.	種別	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数	日平均値が0.04ppmを超えた日数	環境基準との比較(短期的)	1日平均値の2%除外値	1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準との比較(長期的)
			日	時間	ppm	時間	日	達成・非達成	ppm		達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2		湖西市役所	-	6,000以上	0.000	-	-	-	0.001	無	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

注3) 環境基準との比較は、以下に示す評価による。(○：達成 ×：非達成)

短期的評価：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

長期的評価：1日平均値の年間2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-5 二酸化硫黄の経年変化（1 日平均値の 2%除外値）

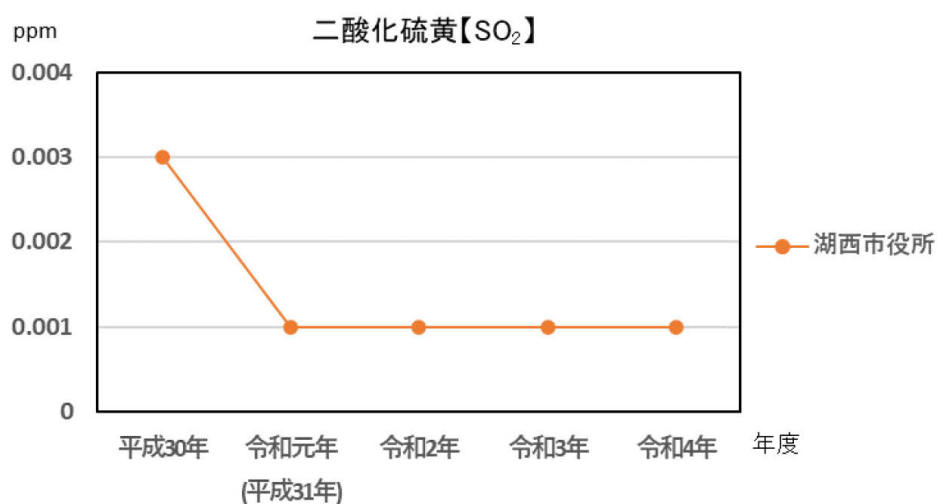
単位：ppm

No.	測定局	年度				
		平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	三ヶ日	-	-	-	-	-
2	湖西市役所	0.003	0.001	0.001	0.001	0.001

注1)地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示す。

出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）
「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）
「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

図 4-1-5 二酸化硫黄の経年変化（1 日平均値の 2%除外値）

3) 二酸化窒素 (NO₂)

令和 4 年度の測定結果は表 4-1-6 に、過去 5 年間（平成 30 年度～令和 4 年度）の経年変化は、表 4-1-7 及び図 4-1-6 に示すとおりです。

令和 4 年度における 1 日平均値の年間 98%値は 0.013ppm となっており、環境基準を達成しています。過去 5 年間の 1 日平均値の年間 98%値は、概ね横ばい傾向にあります。

表 4-1-6 二酸化窒素の測定結果（令和 4 年度）

No.	種別	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	1 日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数	1 日平均値の年間 98%値	環境基準との比較
			日	時間	ppm	ppm	日	ppm	達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	6,000 以上	0.006	-	-	0.013	○
2		湖西市役所	-	6,000 以上	0.005	-	-	0.013	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppm から0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

注3) 環境基準との比較は、以下に示す評価による。(○：達成 ×：非達成)

長期的評価：1日平均値の年間98%値が0.06ppm を超えないこと。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示す。

出典：「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-7 二酸化窒素の経年変化（1 日平均値の年間 98%値）

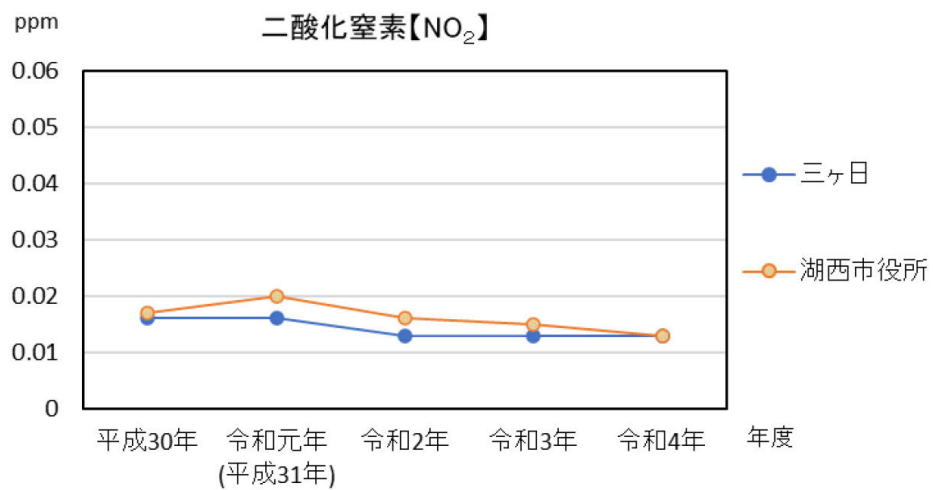
No.	測定局	年度				
		平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	三ヶ日	0.016	0.016	0.013	0.013	0.013
2	湖西市役所	0.017	0.020	0.016	0.015	0.013

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）

「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)
「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」(浜松市環境部環境保全課)
「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-6 二酸化窒素の経年変化 (1 日平均値の年間 98%値)

4) 浮遊粒子状物質 (SPM)

令和4年度の測定結果は表4-1-8に、過去5年間（平成30年度～令和4年度）の経年変化は表4-1-9及び図4-1-7に示すとおりです

令和4年度において1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超過した時間及び1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日はなく、1日平均値の2%除外値は三ヶ日観測局が $0.022\text{mg}/\text{m}^3$ 、湖西市役所測定局が $0.027\text{mg}/\text{m}^3$ となっており、環境基準を達成しています。

過去5年間の1日平均値の2%除外値は、減少傾向にあります。

表 4-1-8 浮遊粒子状物質の測定結果（令和4年度）

No.	種別	測定局	有効測定日数	測定時間	年度平均値	1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数	1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	環境基準との比較（短期的）	日平均値の2%除外値	1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準との比較（長期的）
			日	時間	mg/m^3	時間	日	達成・非達成	mg/m^3		達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	6,000以上	0.009	-	-	-	0.022	-	○
2		湖西市役所	-	6,000以上	0.013	-	-	-	0.027	-	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 環境基準は、1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。

注3) 環境基準との比較は、以下に示す評価による。（○：達成 ×：非達成）

短期的評価：1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下あり、かつ、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期的評価：1日平均値の年間2%除外値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。ただし、1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続しないこと。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-9 浮遊粒子状物質の経年変化（1 日平均値の 2%除外値）

単位：mg/m³

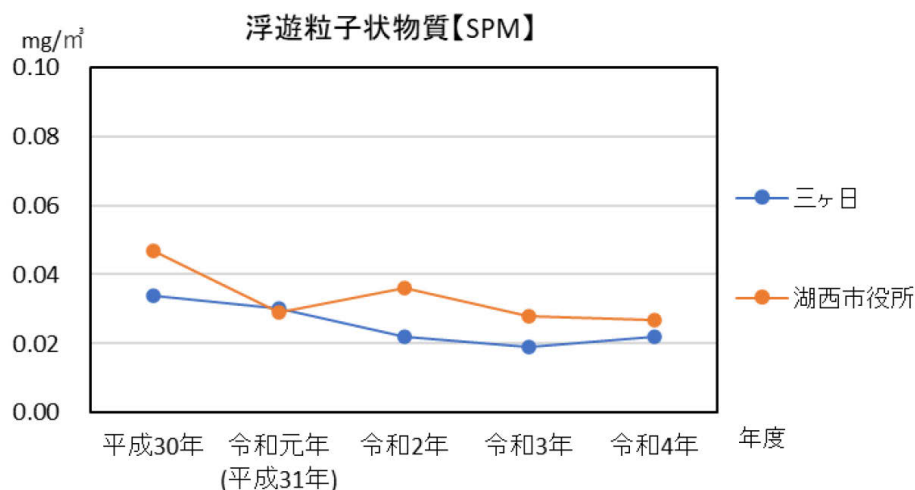
No.	測定局	年度				
		平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	三ヶ日	0.034	0.030	0.022	0.019	0.022
2	湖西市役所	0.047	0.029	0.036	0.028	0.027

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）

「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）

「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

図 4-1-7 浮遊粒子状物質の経年変化（1 日平均値の 2%除外値）

5) 光化学オキシダント (Ox)

令和4年度の測定結果は表4-1-10に、過去5年間（平成30年度～令和4年度）の経年変化は表4-1-11及び図4-1-8に示すとおりです。

令和4年度における昼間の1時間値の最高値は0.099ppmであり、環境基準を達成していません。過去5年間の昼間の1時間値の最高値は、概ね横ばい傾向にあります。

表 4-1-10 光化学オキシダントの測定結果（令和4年度）

No.	種別	測定局	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間年度平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数	昼間の1時間値が0.12ppm以上の時間数	昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数	昼間の1時間値の最高値	環境基準との比較
			日	時間	ppm	時間	日	時間	日	ppm	達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	6,000以上	-	-	98	-	0	0.099	×
2		湖西市役所	-	6,000以上	-	-	74	-	0	-	×

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 環境基準は1時間値が0.06ppm以下であること。

注3) 環境基準との比較は、以下に示す評価による。(○：達成 ×：非達成)

短期的評価：昼間（5時から20時まで）の1時間値が0.06ppm以下であること。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-11 光化学オキシダントの経年変化（昼間の1時間値の最高値）

単位：ppm

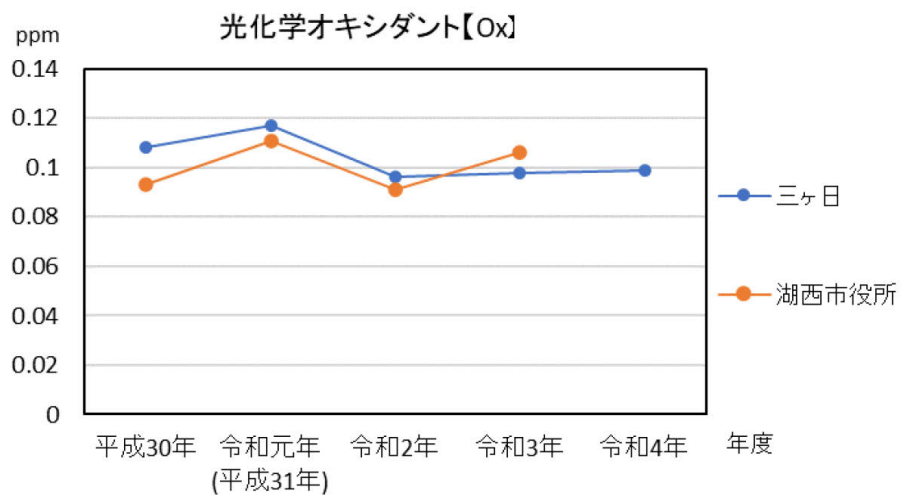
No.	測定局	年度				
		平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	三ヶ日	0.108	0.117	0.096	0.098	0.099
2	湖西市役所	0.093	0.111	0.091	0.106	-

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 表中の「-」は、データが公表されていないことを示す。

出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）

「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）



出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)
「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」(浜松市環境部環境保全課)

図 4-1-8 光化学オキシダントの経年変化（昼間の 1 時間値の最高値）

6) 一酸化炭素 (CO)

調査区域において、一酸化炭素に関する測定は行われていません。

7) 微小粒子状物質（PM2.5）

令和4年度の測定結果は表4-1-12に、過去5年間（平成30年度～令和4年度）の経年変化は表4-1-13及び図4-1-9に示すとおりです。

令和4年度における1日平均値の年間98%値は三ヶ日観測局が15.9 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、湖西市役所測定局が20.7 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、年平均値は三ヶ日観測局が7.1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、湖西市役所測定局が8.3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、環境基準を達成しています。過去5年間の年平均値は、概ね減少もしくは横ばい傾向にあります。

表 4-1-12 微小粒子状物質の測定結果（令和4年度）

No.	種別	測定局	有効測定日数	1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数	1日平均値の年間98%値	環境基準との比較（短期基準）	年平均値	環境基準との比較（長期基準）
			日	日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	達成・非達成	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	-	15.9	○	7.1	○
2		湖西市役所	-	-	20.7	○	8.3	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

注2) 環境基準は1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

注3) 環境基準との比較は、以下に示す評価による。（達成：○ 非達成：×）

長期的評価：

（短期基準）年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの（1日平均値の年間98%値）が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

（長期基準）1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-13 微小粒子状物質の経年変化（年平均値）

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

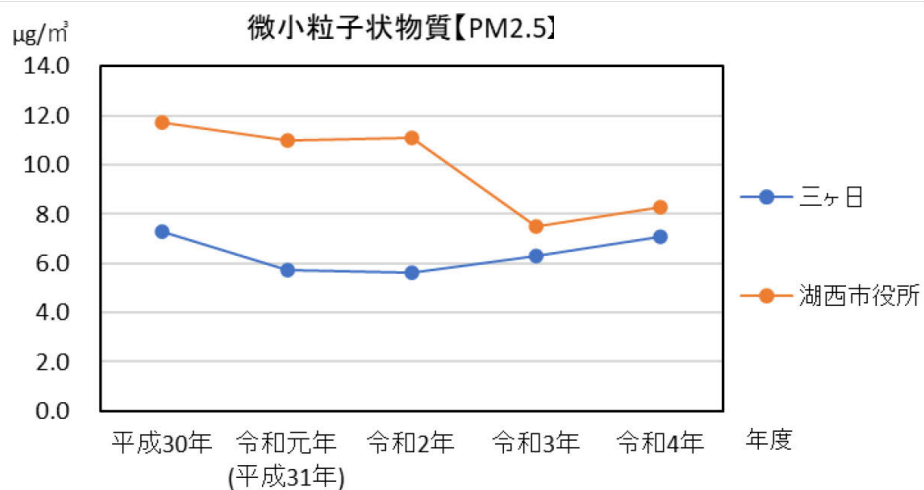
No.	測定局	年度				
		平成30年度	令和元年度（平成31年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	三ヶ日	7.3	5.7	5.6	6.3	7.1
2	湖西市役所	11.7	11.0	11.1	7.5	8.3

注1) 地点番号は図4-1-4に対応する。

出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）

「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



出典：「環境展望台 大気汚染常時監視データ」（国立環境研究所 環境情報メディアホームページ）
「令和 4 年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）
「令和 4 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和 5 年 8 月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

図 4-1-9 微小粒子状物質の経年変化（年平均値）

8) 有害大気汚染物質

調査区域において、有害大気汚染物質に関する測定は行われていません。

9) ダイオキシン類

調査区域において、ダイオキシン類に関する測定は行われていません。

(3) 騒音の状況

1) 一般環境騒音

調査区域における、一般環境騒音の測定結果は表 4-1-14 に示すとおりです。

調査結果は環境基準を達成しています。

表 4-1-14 一般環境騒音測定結果（令和 2 年度）

No.	市	測定地点	地域 類型	時間 区分	測定値 (dB)	環境 基準 (dB)	環境基準 達成状況
							達成・非達成
1	浜松市	三ヶ日浄化センター	B	昼間	44	55	○
				夜間	40	45	○

注1) 地点番号は図4-1-10に対応する。

注2) 令和3,4年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和2年度の測定結果を示した。

注3) 地域類型A：専ら住居の用に供される地域

地域類型B：主として住居の用に供される地域

地域類型C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

注4) 測定値は昼間2時間帯の測定結果のうち、値の高い方を記載した

出典：「令和2年度環境騒音測定結果(一般地域)」(浜松市ホームページ)

2) 道路交通騒音

調査区域における道路交通騒音の測定結果は表 4-1-15 に示すとおりです。

測定を実施しているすべての地点で環境基準を下回っています。

表 4-1-15 道路交通騒音調査（令和 4 年度）

No.	市	道路名	測定地点	時間 区分	測定値 (dB)	環境 基準
2	湖西市	一般国道 301 号	吉美	昼間	69	○
夜間				62	○	
3		3 号豊橋湖西線	新所原	昼間	65	○
				夜間	60	○

注1) 地点番号は図4-1-10に対応する。

注2) 環境基準は「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日環境庁告示第64号、最終改正：平成24年3月30日環境省告示第54号）に基づく「幹線交通を担う道路に近接する空間」における基準値（昼間70dB 以下、夜間65dB 以下）により評価する。

注3) 昼間：6～22時、夜間：22～6時

注4) 環境基準 [○：超過していない ×：超過している]

出典：「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

(4) 振動の状況

1) 一般環境振動

調査区域において、一般環境振動の測定は行われていません。

2) 道路交通振動

調査区域において、道路交通振動の測定は行われていません。

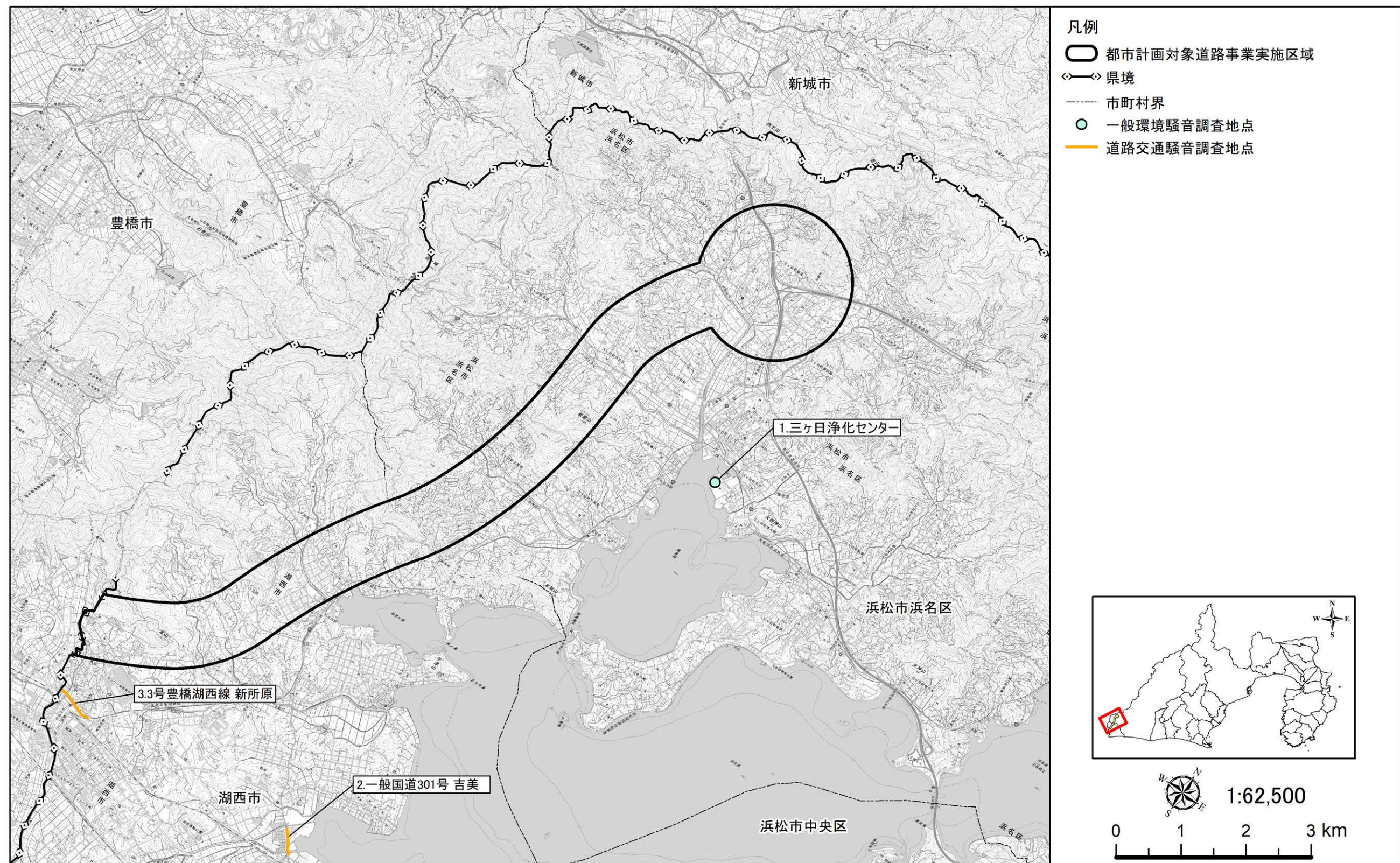
(5) その他の大気の状態

1) 低周波音

調査区域において、低周波音の測定は行われていません。

2) 悪臭

調査区域において、悪臭に関する測定は行われていません。



注1) 3号豊橋湖西線の No.2吉美及び一般国道301号の No.3新所原の地点は、詳細な測定位置が不明であるため、該当する区間を図示した。

出典：「令和2年度浜松市環境騒音測定結果（一般地域）」（浜松市ホームページ）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

図 4-1-10 騒音・振動測定地点位置図

1.2.水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

(1) 水象の概況

調査区域における主な河川は表 4-1-16 及び図 4-1-11 に示すとおりであり、都田川水系の河川が浜名湖に、梅田川水系の河川が三河湾に向かって流下しています。主要な河川として、宇利山川、日比沢川、西神田川、今川、入出太田川等があります。また、調査区域における海域としては、浜名湖があります。

各水系の概要は、表 4-1-17 に示すとおりです。

表 4-1-16 河川一覧

No.	水系	河川名	延長 (km)	等級
1	都田川水系	都筑大谷川	3.72	二級河川
2		宇志川	1.12	二級河川
3		川名宮川	2.05	二級河川
4		釣橋川	5.77	二級河川
5		平山川	3.05	二級河川
6		宇利山川	3.35	二級河川
7		日比沢川	4.42	二級河川
8		南川	1.35	二級河川
9		西神田川	3.12	二級河川
10		今川	3.73	二級河川
11		入出太田川	3.10	二級河川
12		笠子川	3.02	二級河川
13		坊瀬川	2.80	二級河川
14	梅田川水系	梅田川	14.40	二級河川

注1) 地点番号は図4-1-11に対応する。

出典：「国土数値情報 河川データ（平成20年度版）」（国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ）

「都田川水系河川整備計画」（平成 28 年 6 月、静岡県・浜松市）

「二級河川梅田川水系河川整備計画」（令和元年 5 月 17 日、愛知県・静岡県）

表 4-1-17 水系の概要

水系	区分	水系の位置	河川延長	流域面積	下流部の 川幅
都田川	二級河川	都田川水系は、静岡県西部に位置し、都田川や新川等の浜名湖に流入する河川と浜名湖及び猪鼻湖や松見ヶ浦等の支湖から成り、今切口から遠州灘に注ぐ。	166km	524km ²	200m (今切口)
梅田川	二級河川	梅田川は、愛知県豊橋市雲谷町地先に源を発し、愛知県と静岡県の県境を南に流下し、途中、境川、精進川、落合川、坪口川、浜田川、西ノ川、内張川を合流し、三河湾に注ぐ。	14.4km	89km ²	約 80～200m

出典：「都田川水系河川整備計画」（平成28年6月、静岡県・浜松市）

「二級河川梅田川水系河川整備計画」（令和元年5月17日、愛知県・静岡県）

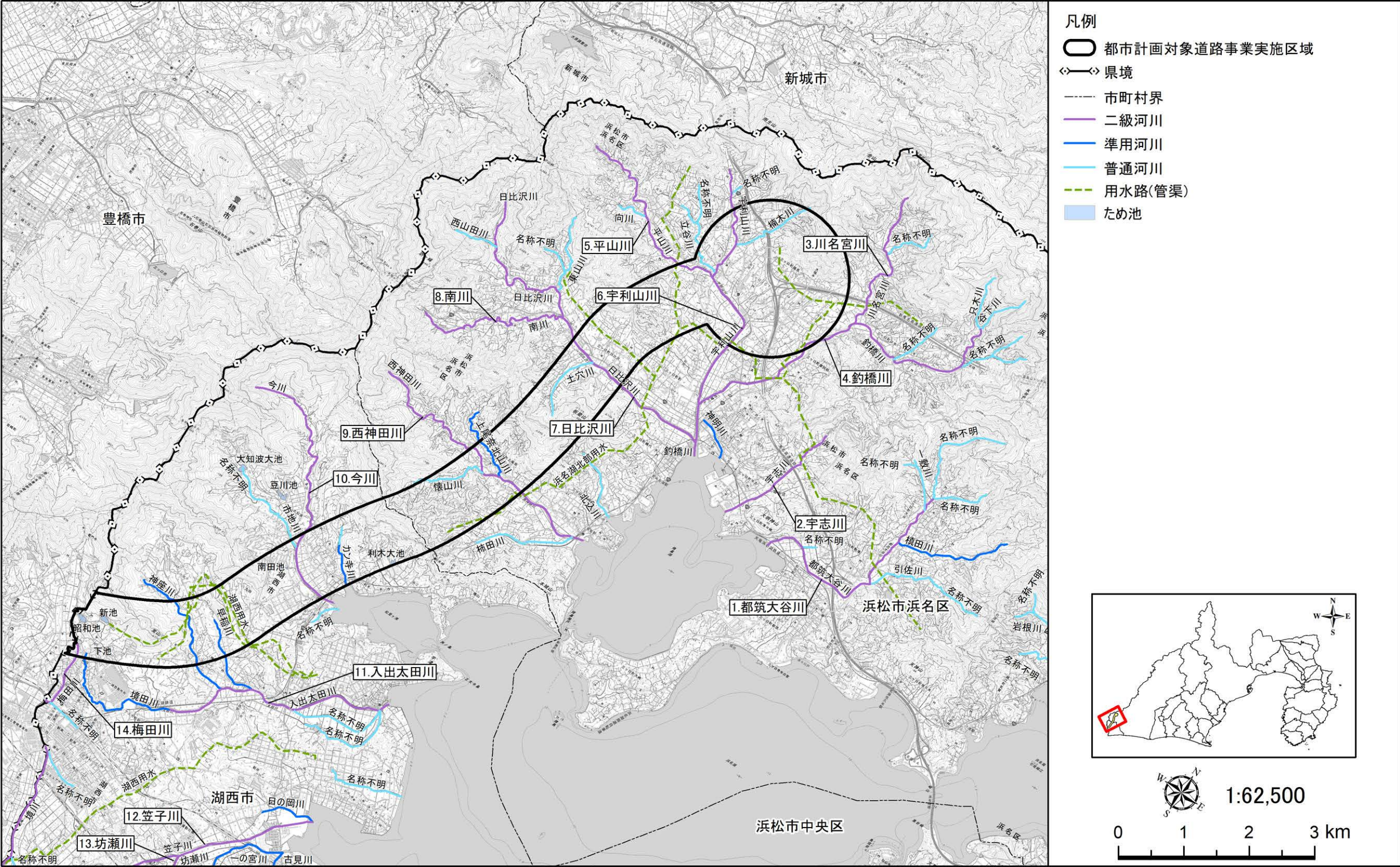


図 4-1-11 河川位置図

(2) 水質の状況

1) 河川

① 生活環境項目

調査区域における令和4年度の公共用水域水質（生活環境項目）測定地点は図4-1-12に、調査結果は表4-1-18(1)～(3)に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は、表4-1-19(1)～(4)、表4-1-20(1)～(3)、表4-1-21(1)～(2)に示すとおりです。

調査区域の河川には、水域の類型区分の指定はなされていませんが、参考として各類型区分の環境基準値を示しました。なお、大腸菌数は調査区域の河川では調査されていません。

表 4-1-18(1) 水質（河川・生活環境項目）測定結果（令和4年度）

No	水域名	測定地点	類型 (河川)	pH	DO	BOD	SS	大腸菌数
					(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(CFU/100mL)
1	都筑大谷川	末端		7.6～7.9	8.9	0.9	2	-
2	宇志川	東宇志橋		7.5～8.2	9.0	0.8	4	-
3	神明川	栄橋		7.4～8.4	9.3	2.2	3	-
4	宇利山川	宇利山川橋		8.1～8.6	10	0.6	2	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川		8.0～8.7	11	0.7	1	-
6	釣橋川	三代橋		7.2～7.8	8.3	0.9	2	-
7	西神田川	堀切橋		7.6～8.3	9.4	0.7	1	-
8	今川	末端		7.1～7.8	8.9	0.5	2	-
9	入出太田川	末端		7.2～8.7	11	0.9	3	-
10	笠子川	末端		7.4～8.1	8.6	2.3	7	-
11	梅田川	末端		7.3～7.5	8.5	3.0	6	-
環境基準			AA	6.5～8.5	7.5 以上	1.0 以下	25 以下	20 以下
			A	6.5～8.5	7.5 以上	2.0 以下	25 以下	300 以下
			B	6.5～8.5	5.0 以上	3.0 以下	25 以下	1,000 以下
			C	6.5～8.5	5.0 以上	5.0 以下	50 以下	-
			D	6.0～8.5	2.0 以上	8.0 以下	100 以下	-
			E	6.0～8.5	2.0 以上	10.0 以下	ゴミ等の 浮遊が認め られないこと。	-

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) pH は最小～最大、BOD は年間75%値、大腸菌数は90%水質値、その他の項目は年平均値を示す。

注3) 類型欄に斜線で示した河川は、環境基準の類型指定がされていない。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（令和5年9月、浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-18(2) 水質(河川・水生生物の保全に係る環境基準項目)測定結果 (令和 4 年度)

No	水域名	測定地点	類型 (河川)	全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩 (LAS)
				(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
1	都筑大谷川	末端		0.003	-	-
2	宇志川	東宇志橋		-	-	-
3	神明川	栄橋		-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋		-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川		-	-	-
6	釣橋川	三代橋		0.002	-	-
7	西神田川	堀切橋		0.001	-	-
8	今川	末端		-	-	0.0009
9	入出太田川	末端		-	-	0.0026
10	笠子川	末端		-	-	0.0020
11	梅田川	末端		0.013	<0.00006	0.0012
環境基準			生物 A	0.03 以下	0.0010 以下	0.03 以下
			生物特 A	0.03 以下	0.0006 以下	0.02 以下
			生物 B	0.03 以下	0.0020 以下	0.05 以下
			生物特 B	0.03 以下	0.0020 以下	0.04 以下

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 年平均値を示す。

注3) 類型欄に斜線で示した河川は、環境基準の類型指定がされていないことを示す。

注4) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注5) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典:「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-18(3) 水質（河川・全窒素・全磷）測定結果（令和 4 年度）

No.	水域名	測定地点	全窒素	全磷
			(mg/L)	(mg/L)
1	都筑大谷川	末端	2.8	0.075
2	宇志川	-	-	-
3	神明川	-	-	-
4	宇利山川	-	-	-
5	日比沢川	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	2.5	0.053
7	西神田川	堀切橋	2.9	0.063
8	今川	末端	1.3	0.020
9	入出太田川	末端	3.6	0.130
10	笠子川	末端	3.0	0.260
11	梅田川	末端	4.0	0.600

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県
くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-19(1) 水質（河川・生活環境項目：pH）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	8.0	8.0	8.0	7.9	7.8
2	宇志川	東宇志橋	-	7.7	7.8	7.7	7.8
3	神明川	栄橋	-	7.9	7.9	7.9	8.0
4	宇利山川	宇利山川橋	-	8.0	8.0	8.1	8.3
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	7.9	8.0	8.1	8.3
6	釣橋川	三代橋	7.6	7.7	7.5	7.6	7.5
7	西神田川	堀切橋	7.7	7.8	7.6	7.8	8.0
8	今川	末端	7.2	7.2	7.3	7.1	7.3
9	入出太田川	末端	7.7	7.9	7.6	7.4	7.7
10	笠子川	末端	7.8	7.8	7.5	7.4	7.6
11	梅田川	末端	7.4	7.4	7.4	7.3	7.4

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-19(2) 水質（河川・生活環境項目：D0）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年 度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	9.5	9.5	9.2	9.8	8.9
2	宇志川	東宇志橋	-	9.0	8.8	9.9	9.0
3	神明川	栄橋	-	7.4	8.4	9.5	9.3
4	宇利山川	宇利山川橋	-	9.6	9.9	10.0	10.0
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	9.9	9.7	10.0	11.0
6	釣橋川	三代橋	8.4	8.1	8.0	9.2	8.3
7	西神田川	堀切橋	8.7	8.8	8.6	9.1	9.4
8	今川	末端	9.1	9.2	9.3	9.5	8.9
9	入出太田川	末端	10.0	11.0	9.9	9.4	11.0
10	笠子川	末端	10.0	8.7	8.6	8.0	8.6
11	梅田川	末端	8.5	8.3	8.8	8.8	8.5

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-19(3) 水質（河川・生活環境項目：BOD）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	0.9	1.5	1.3	0.8	0.9
2	宇志川	東宇志橋	-	1.2	1.5	0.9	0.8
3	神明川	栄橋	-	3.1	3.8	2.2	2.2
4	宇利山川	宇利山川橋	-	1.7	1.1	0.9	0.6
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	1.2	0.8	0.5	0.7
6	釣橋川	三代橋	1.3	2.2	2.3	1.5	0.9
7	西神田川	堀切橋	3.0	1.5	2.2	3.8	0.7
8	今川	末端	0.5	0.8	0.7	0.6	0.5
9	入出太田川	末端	1.1	1.3	1.0	1.1	0.9
10	笠子川	末端	1.0	1.5	1.5	2.1	2.3
11	梅田川	末端	3.5	3.6	3.6	2.2	3.0

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/Lである。

注3) 年間75%値を示す。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-19(4) 水質（河川・生活環境項目：SS）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	2	4	2	2	2
2	宇志川	東宇志橋	-	6	3	3	4
3	神明川	栄橋	-	10	5	2	3
4	宇利山川	宇利山川橋	-	8	4	2	2
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	5	3	1	1
6	釣橋川	三代橋	2	5	6	2	2
7	西神田川	堀切橋	2	6	3	1	1
8	今川	末端	2	2	3	1	2
9	入出太田川	末端	2	7	3	3	3
10	笠子川	末端	6	7	6	6	7
11	梅田川	末端	5	6	3	4	6

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/Lである。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-20(1) 水質（河川・水生生物の保全に係る環境基準項目：全亜鉛）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	0.001	0.004	0.003	0.003	0.003
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	0.003	0.006	0.008	0.007	0.002
7	西神田川	堀切橋	0.002	0.005	0.003	0.003	0.001
8	今川	末端	-	-	-	-	-
9	入出太田川	末端	-	-	-	-	-
10	笠子川	末端	-	-	-	-	-
11	梅田川	末端	0.016	0.026	0.018	0.018	0.013

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/Lである。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-20(2) 水質（河川・水生生物の保全に係る環境基準項目：ノニフェノール）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	-	-	-	-	-
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	-	-	-	-	-
7	西神田川	堀切橋	-	-	-	-	-
8	今川	末端	-	-	-	-	-
9	入出太田川	末端	-	-	-	-	-
10	笠子川	末端	-	-	-	-	-
11	梅田川	末端	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/Lである。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-20(3) 水質（河川・水生生物の保全に係る環境基準項目：LAS）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	-	-	-	-	-
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	-	-	-	-	-
7	西神田川	堀切橋	-	-	-	-	-
8	今川	末端	0.0018	-	0.0006	<0.0006	0.0009
9	入出太田川	末端	0.0110	-	0.0100	0.0050	0.0026
10	笠子川	末端	0.0009	-	0.0016	0.0026	0.0020
11	梅田川	末端	0.0240	0.0046	0.0021	0.0011	0.0012

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-21(1) 水質（河川・全窒素）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	2.8	3.0	2.7	2.8	2.8
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	2.2	2.5	2.2	2.3	2.5
7	西神田川	堀切橋	3.0	3.3	2.7	2.8	2.9
8	今川	末端	1.4	1.6	1.4	1.1	1.3
9	入出太田川	末端	4.1	3.7	5.1	3.7	3.6
10	笠子川	末端	4.3	3.9	4.7	3.7	3.0
11	梅田川	末端	4.0	5.0	5.2	4.8	4.0

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/Lである。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-21(2) 水質（河川・全燐）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	都筑大谷川	末端	0.097	0.110	0.092	0.076	0.075
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	0.056	0.099	0.100	0.048	0.053
7	西神田川	堀切橋	0.057	0.080	0.160	0.062	0.063
8	今川	末端	0.017	0.019	0.023	0.017	0.020
9	入出太田川	末端	0.160	0.190	0.190	0.130	0.130
10	笠子川	末端	0.200	0.300	0.220	0.230	0.260
11	梅田川	末端	0.500	1.000	0.970	0.630	0.600

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

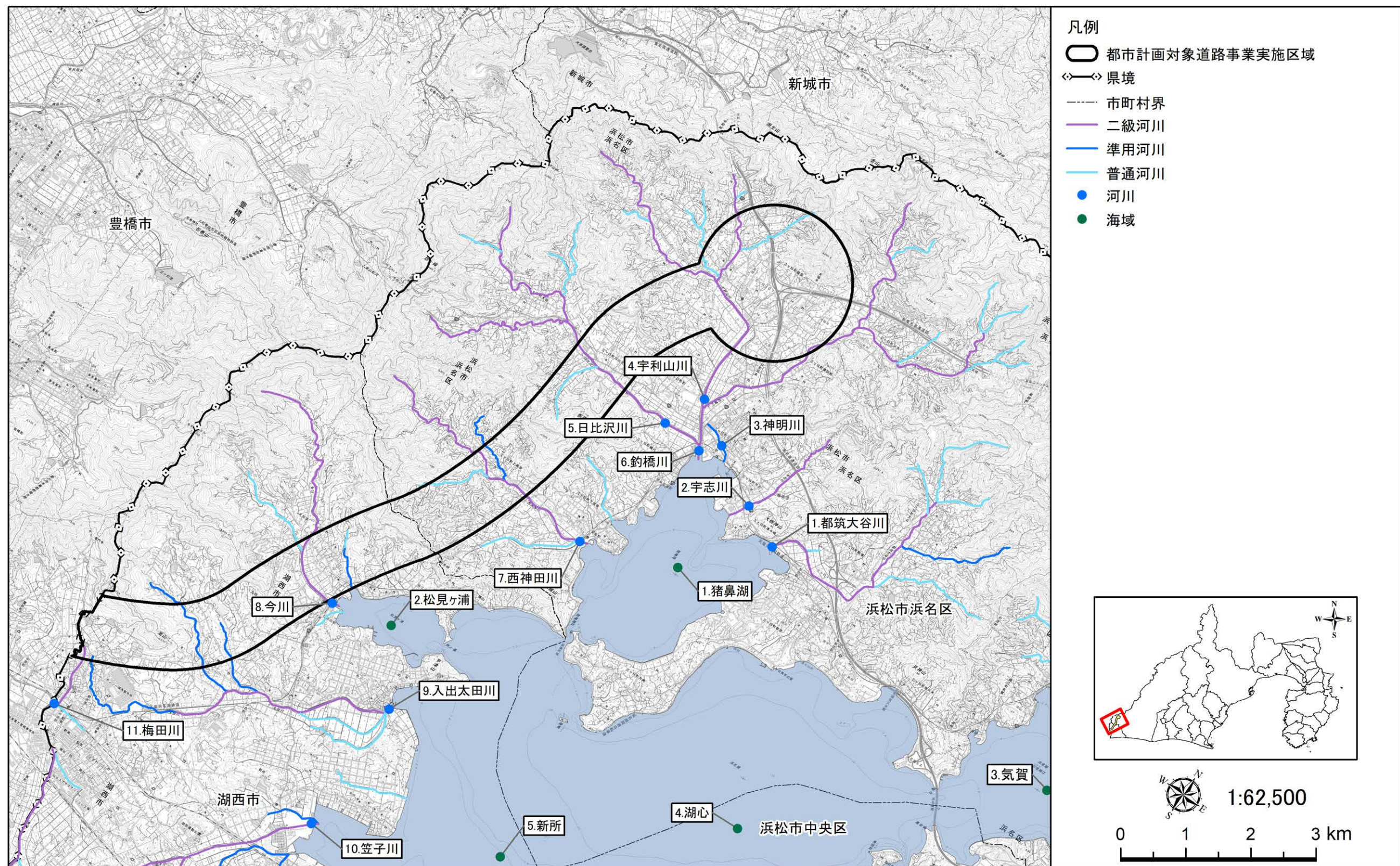
出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



出典：「国土数値情報 河川データ（平成20年度版）」（国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ）
「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）
「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）
「浜松市川づくり計画（平成25年7月）」（浜松市土木部河川課）
「湖西市地域防災計画 資料編（令和4年2月修正）」（湖西市ホームページ）

図 4-1-12 水質測定地点位置図

② 健康項目

調査区域における令和 4 年度の公共用水域水質（健康項目）測定地点は前掲の図 4-1-12 に、測定結果は表 4-1-22(1)～(2)に示すとおりです。

令和 4 年度測定結果では、釣橋川三代橋及び笠子川末端のほう素が環境基準を達成していませんが、それ以外の地点では全項目で環境基準を達成しています。

表 4-1-22(1) 水質（河川・健康項目）測定結果（令和 4 年度）

No.		1	6	7	8	環境基準	環境基準 達成状況
水域名		都筑 大谷川	釣橋川	西神田川	今川		
測定地点		末端	三代橋	堀切橋	末端		達成・非達成
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	-	0.003mg/L 以下	○
全シアン	mg/L	ND	ND	ND	-	検出されないこと	
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	-	0.01mg/L 以下	
六価クロム	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	-	0.02mg/L 以下	
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	-	0.01mg/L 以下	
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	-	0.0005mg/L 以下	
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-
PCB	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1mg/L 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下	
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	2.8	2.2	2.8	1.1	10mg/L 以下	
ふっ素	mg/L	0.12	0.54	0.14	0.09	0.8mg/L 以下	
ほう素	mg/L	0.2	1.5	0.3	0.8	1mg/L 以下	×
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	<0.005	0.05mg/L 以下	○

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 全シアンは年最大値を、その他の項目は年平均値を示す。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の「ND」は不検出を示す。

注5) 表中の「-」は未測定を示す。

出典：「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-22(2) 水質（河川・健康項目）測定結果（令和 4 年度）

No.		9	10	11	環境基準	環境基準 達成状況
水域名		入出太 田川	笠子川	梅田川		達成・非達成
測定地点		末端	末端	末端		
カドミウム	mg/L	-	-	<0.0003	0.003mg/L 以下	○
全シアン	mg/L	-	-	-	検出されないこと	-
鉛	mg/L	-	-	<0.005	0.01mg/L 以下	○
六価クロム	mg/L	-	-	-	0.05mg/L 以下	-
砒素	mg/L	-	-	-	0.01mg/L 以下	-
総水銀	mg/L	-	-	<0.0005	0.0005mg/L 以下	○
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	検出されないこと	-
PCB	mg/L	-	-	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	0.1mg/L 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下	
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	3.1	2.3	2.4	10mg/L 以下	
ふっ素	mg/L	<0.08	0.48	0.08	0.8mg/L 以下	
ほう素	mg/L	<0.1	1.6	<0.1	1mg/L 以下	×
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下	○

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 年平均値を示す。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の「-」未測定を示す。

出典:「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年4月、静岡県くらし・環境部
環境局生活環境課)

③ ダイオキシン類

調査区域において公共用水域水質（ダイオキシン類）測定は行われていません。

2) 湖沼及び海域

調査区域には公共用水域水質測定が行われている湖沼が存在しないため、海域についてのみ記述します。なお、浜名湖については、海域の区分として扱います。

① 生活環境項目

調査区域における令和4年度の公共用水域水質（生活環境項目）測定地点は前掲の図4-1-12に、測定結果は表4-1-23(1)～(3)に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は、表4-1-24(1)～(4)、表4-1-25(1)～(2)、表4-1-26(1)～(3)に示すとおりです。

調査区域の海域には、海域の類型区分の指定がされています。令和4年度測定結果では、全地点のpH、気質及び湖心のCOD、猪鼻湖の全窒素が環境基準を達成していませんが、それ以外の地点では全項目で環境基準を達成しています。

表 4-1-23(1) 水質（海域・生活環境項目）測定結果（令和4年度）

No.	水域名	測定地点	類型 (海域)	pH	DO	COD	大腸菌 数	n-ヘキサン 抽出物質 (油分等)	環境基準 達成状況
					(mg/L)	(mg/L)	(CFU/ 100mL)	(mg/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	B	8.1～9.0	9.6	2.9	2	-	× (pH)(COD)
2	浜名湖	松見ヶ浦	B	8.1～8.7	8.9	2.2	-	-	
3	浜名湖	気質	B	8.0～8.8	8.8	3.8	-	-	
4	浜名湖	湖心	A	8.1～9.1	8.7	4.1	14	-	
5	浜名湖	新所	A	8.0～8.8	8.6	1.5	-	-	
環境基準			A	7.8～8.3	7.5 以上	2.0 以下	300 以下	検出されな いこと	
			B	7.8～8.3	5.0 以上	3.0 以下		検出されな いこと	
			C	7.0～8.3	2.0 以上	8.0 以下			

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) pHは最小～最大、CODは年間75%値、大腸菌数は90%水質値、その他の項目は年平均値を示す。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示す。

注4) 表中の斜線で示した類型区分は、環境基準値が設定されていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-23(2) 水質（海域・全窒素・全磷）測定結果（令和 4 年度）

No.	水域名	測定地点	類型 (海域)	全窒素	全磷	環境基準 達成状況	
				(mg/L)	(mg/L)	達成・非達成	
						全窒素	全磷
1	浜名湖	猪鼻湖	Ⅲ	0.66	0.035	×	○
2	浜名湖	松見ヶ浦		0.29	0.030		
3	浜名湖	気賀		0.43	0.035		
4	浜名湖	湖心	Ⅲ	0.32	0.030	○	○
5	浜名湖	新所	Ⅲ	0.25	0.026	○	○
環境基準			Ⅰ	0.2 以下	0.02 以下		
			Ⅱ	0.3 以下	0.03 以下		
			Ⅲ	0.6 以下	0.05 以下		
			Ⅳ	1.0 以下	0.09 以下		

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 表中の斜線で示した水域は、類型設定がされていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-23(3) 水質(海域・水生生物の保全に係る環境基準項目)測定結果（令和 4 年度）

No.	水域名	測定地点	類型 (海域)	全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキルベ ンゼンスルホン 酸及びその塩 (LAS)	環境基準 達成状況
				(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	生物 A	0.007	<0.00006	0.0008	○
2	浜名湖	松見ヶ浦	生物 A	0.004	<0.00006	<0.0006	○
3	浜名湖	気賀	生物 A	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	生物 A	0.003	<0.00006	0.0007	○
5	浜名湖	新所	生物特 A	0.004	<0.00006	<0.0006	○
環境基準			生物 A	0.02 以下	0.0010 以下	0.010 以下	
			生物特 A	0.01 以下	0.0007 以下	0.006 以下	

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 年平均値を示す。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の「-」は未測定を示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-24(1) 水質（海域・生活環境項目：pH）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	8.3	8.4	8.4	8.6	8.5
2	浜名湖	松見ヶ浦	8.3	8.3	8.3	8.5	8.3
3	浜名湖	気賀	8.2	8.2	8.3	8.6	8.4
4	浜名湖	湖心	8.2	8.3	8.3	8.5	8.5
5	浜名湖	新所	8.3	8.3	8.3	8.5	8.3

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-24(2) 水質（海域・生活環境項目：D0）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	9.0	9.8	9.7	9.8	9.6
2	浜名湖	松見ヶ浦	9.4	8.9	8.4	9.0	8.9
3	浜名湖	気賀	9.1	8.9	9.2	9.1	8.8
4	浜名湖	湖心	9.1	8.9	8.8	9.0	8.7
5	浜名湖	新所	9.1	8.7	8.9	9.1	8.6

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-24(3) 水質（海域・生活環境項目：COD）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	2.7	2.6	2.5	2.7	2.9
2	浜名湖	松見ヶ浦	2.3	2.3	2.1	2.2	2.2
3	浜名湖	気賀	1.8	2.1	2.0	2.1	3.8
4	浜名湖	湖心	1.9	1.9	1.8	1.9	4.1
5	浜名湖	新所	1.8	1.8	1.8	1.8	1.5

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 年間75%値を示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-24(4) 水質（海域・生活環境項目：大腸菌群数・大腸菌数）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度 ^{注2)}	令和元年度 (平成 31 年度) ^{注2)}	令和 2 年度 ^{注2)}	令和 3 年度 ^{注2)}	令和 4 年度 ^{注3)}
1	浜名湖	猪鼻湖	750	17	47	5700	2
2	浜名湖	松見ヶ浦	-	-	-	-	-
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	76	0	1	170	14
5	浜名湖	新所	-	-	-	-	-

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、MPN/100m で平均値である。

注3) 単位は、CFU/100mL で90%水質値である。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-25(1) 水質（海域・全窒素）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	0.86	0.81	0.84	0.79	0.66
2	浜名湖	松見ヶ浦	0.40	0.34	0.36	0.31	0.29
3	浜名湖	気賀	0.56	0.47	0.41	0.31	0.43
4	浜名湖	湖心	0.30	0.28	0.29	0.22	0.32
5	浜名湖	新所	0.28	0.26	0.31	0.24	0.25

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-25(2) 水質（海域・全磷）の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	0.041	0.040	0.043	0.039	0.035
2	浜名湖	松見ヶ浦	0.036	0.026	0.034	0.026	0.030
3	浜名湖	気賀	0.033	0.033	0.032	0.029	0.035
4	浜名湖	湖心	0.026	0.022	0.023	0.023	0.030
5	浜名湖	新所	0.022	0.021	0.024	0.022	0.026

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-26(1) 水質（海域・水生生物の保全に係る環境基準項目：全亜鉛）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	0.003	0.003	0.007	0.006	0.007
2	浜名湖	松見ヶ浦	0.003	0.003	0.004	0.003	0.004
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	0.003	0.003	0.007	0.006	0.003
5	浜名湖	新所	0.004	0.003	0.004	0.003	0.004

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-26(2) 水質（海域・水生生物の保全に係る環境基準項目：ニルフェノール）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006
2	浜名湖	松見ヶ浦	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006
5	浜名湖	新所	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の記号「-」は未測定を示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-26(3) 水質（海域・水生生物の保全に係る環境基準項目：LAS）の経年変化

No	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.0008
2	浜名湖	松見ヶ浦	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.0007
5	浜名湖	新所	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 単位は、mg/L である。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の記号「-」は未測定を示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和2年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和元年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

② 健康項目

調査区域における令和 4 年度の公共用水域水質（健康項目）測定地点は前掲の図 4-1-12 に、測定結果は表 4-1-27 に示すとおりです。

測定された全項目について、全地点で環境基準を達成しています。

表 4-1-27 水質（海域・健康項目）測定結果（令和 4 年度）

No		1	2	3	4	5	環境基準	環境基準達成状況
水域名		浜名湖	浜名湖	浜名湖	浜名湖	浜名湖		達成・非達成
測定地点		猪鼻湖	松見ヶ浦	気賀	湖心	新所		
カドミウム	mg/L	<0.0003	-	-	<0.0003	-	0.003 mg/L 以下	○
全シアン	mg/L	ND	-	-	ND	-	検出されないこと	
鉛	mg/L	<0.005	-	-	<0.005	-	0.01mg/L 以下	
六価クロム	mg/L	<0.01	-	-	<0.01	-	0.02mg/L 以下	
砒素	mg/L	<0.005	-	-	<0.005	-	0.01mg/L 以下	
総水銀	mg/L	<0.0005	-	-	<0.0005	-	0.0005mg/L 以下	
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	-	-	検出されないこと	-
PCB	mg/L	-	-	-	-	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	-	-	<0.002	-	0.02mg/L 以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	-	-	<0.0002	-	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	-	-	<0.0004	-	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	-	-	<0.01	-	0.1mg/L 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	-	-	<0.004	-	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	-	<0.0005	-	1mg/L 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	-	-	<0.0006	-	0.006mg/L 以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	-	-	<0.001	-	0.01mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	-	-	<0.0005	-	0.01mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	-	-	<0.0002	-	0.002mg/L 以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	-	-	<0.0006	-	0.006mg/L 以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	-	-	<0.0003	-	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	-	-	<0.002	-	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	-	-	<0.001	-	0.01mg/L 以下	
セレン	mg/L	<0.002	-	-	<0.002	-	0.01mg/L 以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.27	0.04	0.1	0.05	0.03	10mg/L 以下	
ふっ素	mg/L	-	-	-	-	-	0.8mg/L 以下	-
ほう素	mg/L	-	-	-	-	-	1mg/L 以下	-
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	-	-	<0.005	-	0.05mg/L 以下	○

注1) 地点番号は図4-1-12に対応する。

注2) 全シアンは年最大値を、その他の項目は年平均値を示す。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注4) 表中の記号「ND」は不検出を示す。

注5) 表中の記号「-」未測定を示す。

出典:「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年4月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

③ ダイオキシン類

調査区域における令和 4 年度の公共用水域水質（ダイオキシン類）測定地点は図 4-1-13、測定結果は表 4-1-28 に示すとおりです。また、過去 5 年間の測定結果の推移は表 4-1-29 に示すとおりです。

測定結果は、環境基準を達成しています。

表 4-1-28 水質（海域・ダイオキシン類）測定結果（令和 4 年度）

No.	水域名	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/L)	(pg-TEQ/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	0.084	1	○
2	浜名湖	湖心	0.062		○

注1) 地点番号は図4-1-13に対応する。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表 4-1-29 水質（海域・ダイオキシン類）測定結果の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成 30 年度	令和元年度 (平成 31 年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	-	0.069	-	-	0.084
2	浜名湖	湖心	-	0.040	0.089	-	0.062

注1) 地点番号は図4-1-13に対応する。

注2) 単位は pg-TEQ/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

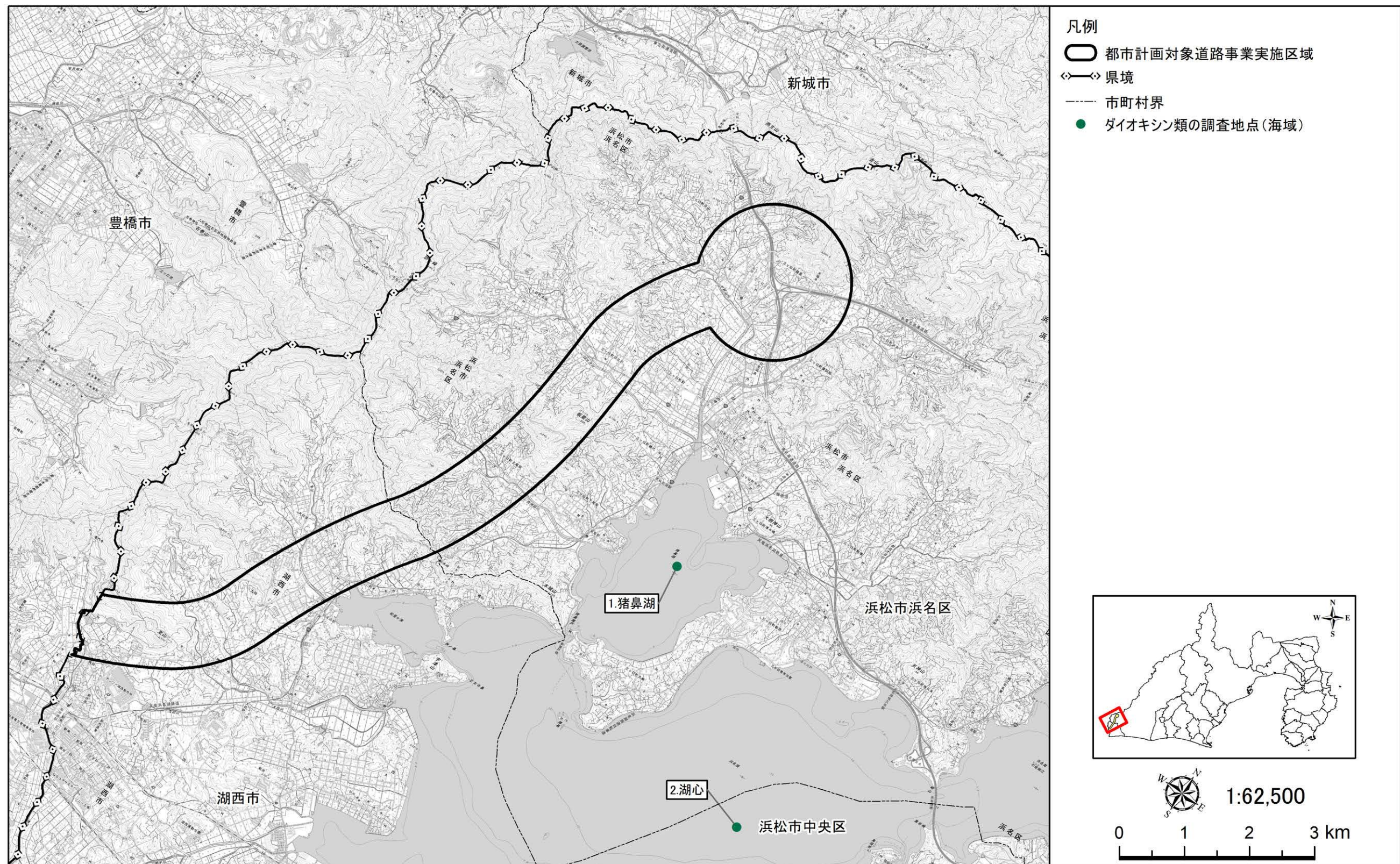
「令和3年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和4年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」（浜松市環境部環境保全課）



出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

図 4-1-13 ダイオキシン類調査地点位置図

(3) 水底の底質

1) 河川

調査区域の河川では、水底の底質(ダイオキシン類)の測定は行われていません。

2) 湖沼及び海域

調査区域には水底の底質（ダイオキシン）の測定が行われている湖沼が存在しないため、海域についてのみ記述します。

調査区域の海域における令和4年度の水底の底質（ダイオキシン類）測定地点は前掲の図4-1-13に、測定結果は表4-1-30に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は表4-1-31に示すとおりです。

測定結果は、全地点で環境基準を達成しています。

表4-1-30 水底の底質（海域・ダイオキシン類）測定結果（令和4年度）

No.	水域名	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/L)	(pg-TEQ/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	12	150	○
2	浜名湖	湖心	6.1		○

注1) 地点番号は図4-1-13に対応する。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

表4-1-31 水底の底質（海域・ダイオキシン類）測定結果の経年変化

No.	水域名	測定地点	年度				
			平成30 年度	令和元年度 (平成 31年度)	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	-	2.2	-	-	12
2	浜名湖	湖心	-	17	6.4	-	6.1

注1) 地点番号は図4-1-13に対応する。

注2) 単位は pg-TEQ/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示す。

出典：「令和4年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和4年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和元年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「平成30年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

(4) その他の水に係る環境（地下水水質）

1) 環境基準項目

調査区域における令和3年度の地下水水質測定地点は図4-1-14に、測定結果は表4-1-32に示すとおりです。

測定された全項目について、全地点で環境基準を達成しています。

表 4-1-32 地下水水質測定結果（令和3年度）

No.		1	2		環境基準 達成状況
市町村名		浜松市	湖西市		
地区名		三ヶ日町 鶴代	吉美	環境基準	達成・ 非達成
使用用途		生活用	生活用		
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下	○
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	検出されないこと ^{注5)}	
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下	
六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	0.02mg/L 以下	
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下	
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下	
アルキル水銀	mg/L	-	-	検出されないこと	-
PCB	mg/L	-	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下	
クロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	0.1mg/L 以下	
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	0.001	1mg/L 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.0087	0.01mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	3.0	2.6	10mg/L 以下	
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下	
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	1mg/L 以下	
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下	

注1) 地点番号は図4-1-14に対応するが、測定位置は非公開のため、地点が位置する行政区画の範囲全域を図示している。

注2) 令和4年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和3年度の測定結果を示した。

注3) 年平均値を示す。

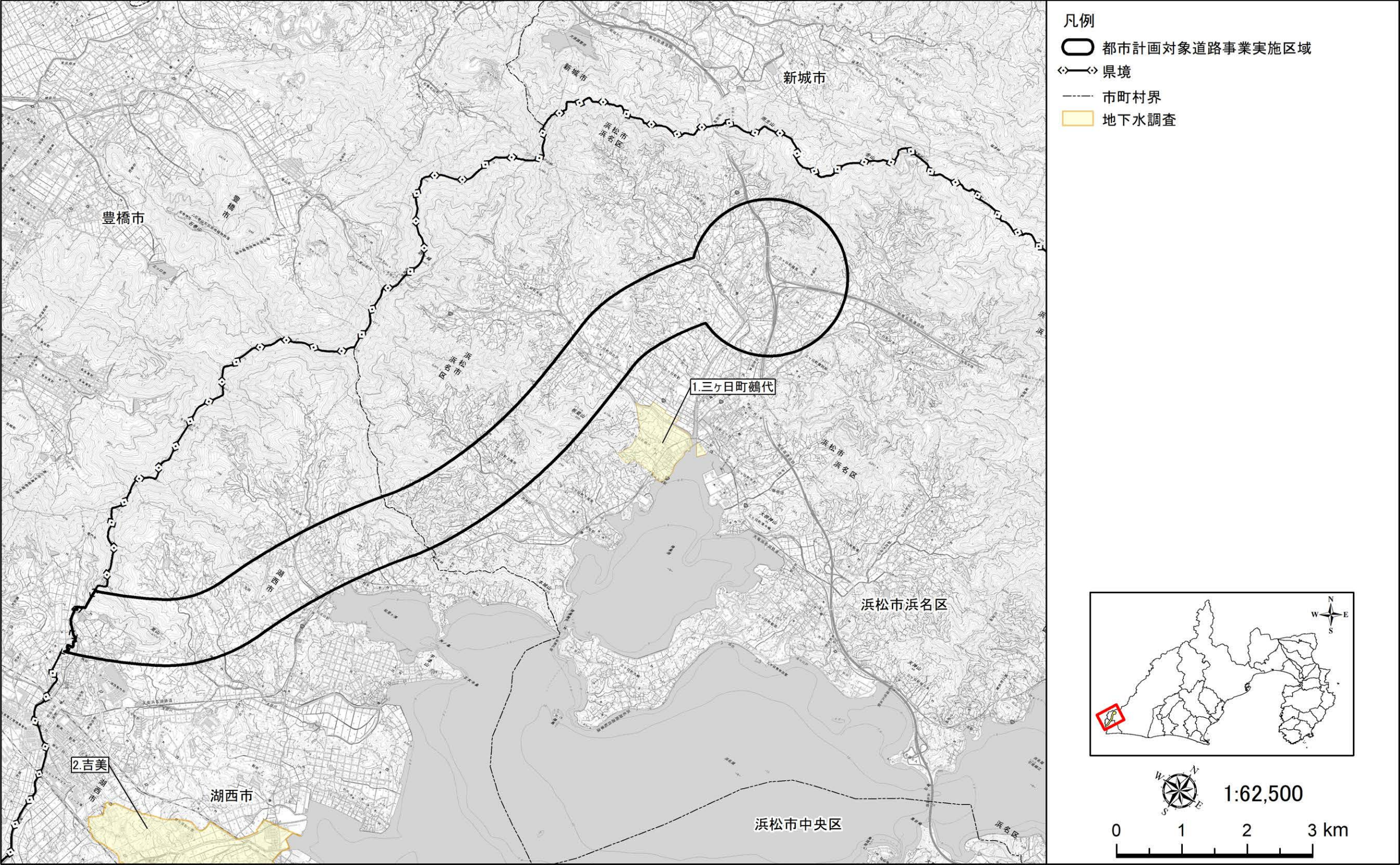
注4) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示す。

注5) 表中の「-」は未測定または未公表を示す。

注6) 全シアンについては、測定点における年間の総検体の測定値の最高値により評価する。測定値の最高値は公表されていないが、環境基準は達成されている。

注7) 令和4年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和3年度の測定結果を示した。

出典:「令和3年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和4年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)
「令和3年度浜松市の環境測定結果」(浜松市環境部環境保全課)



注1) No.1浜松市浜名区三ヶ日町三ヶ日鶴代及びNo.2湖西市吉美の測定位置は非公開のため、地点が位置する行政区画の範囲全域を図示している。
出典：「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）
「令和3年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

図 4-1-14 地下水水質測定地点位置図

2) ダイオキシン類

調査区域における地下水水質（ダイオキシン類）測定地点は図 4-1-15 に、測定結果は表 4-1-33 に示すとおりです。調査区域では、令和元年度(平成 31 年度)に測定が行われ、その結果は環境基準を達成しています。

表 4-1-33 地下水水質測定結果（ダイオキシン類）測定結果（令和元年度）

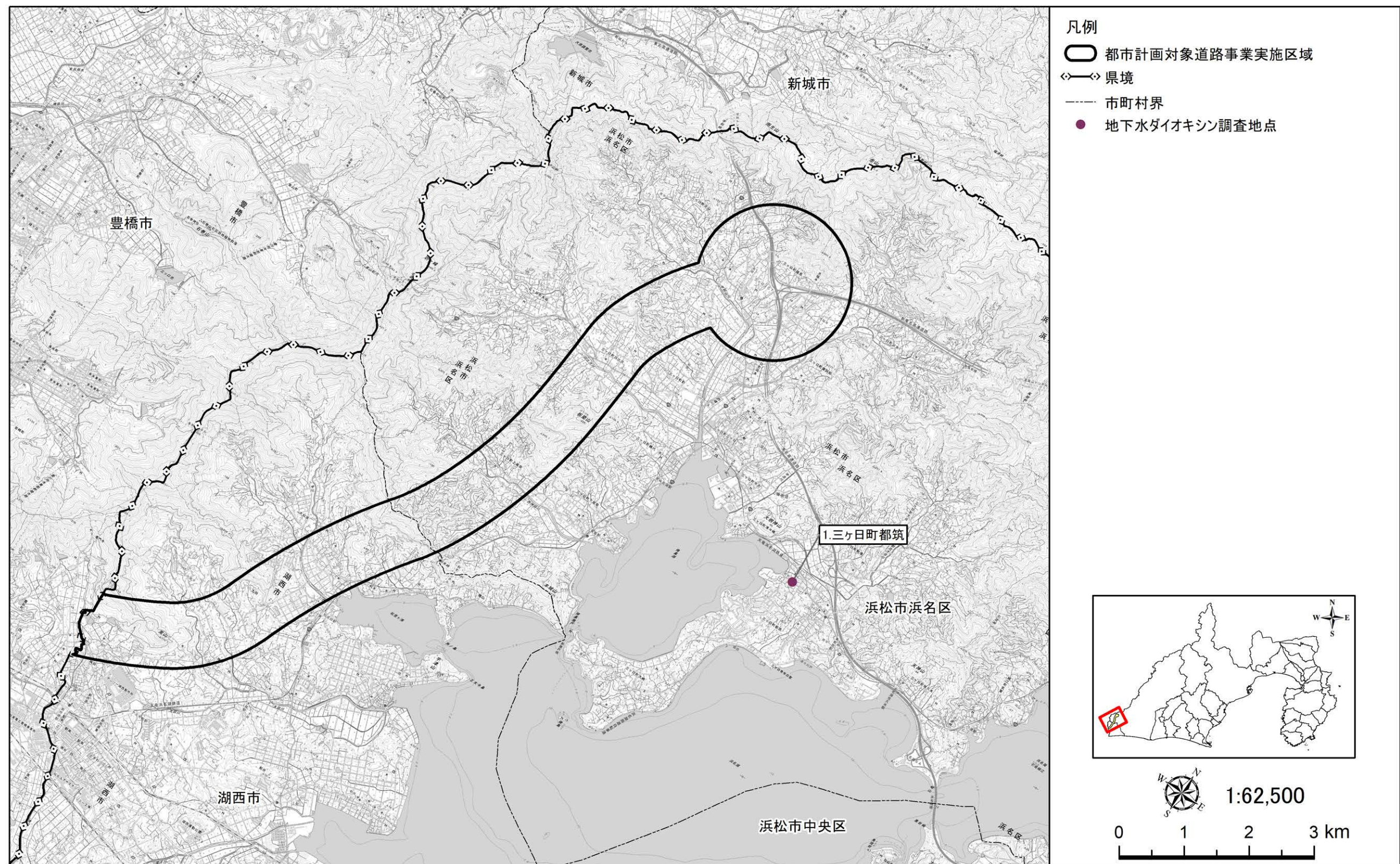
No.	市	測定地点	測定結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/L)	(pg-TEQ/L)	達成・非達成
1	浜松市	浜名区三ヶ日町都筑	0.021	1	○

注1) 地点番号は図4-1-15に対応する。

注2) 令和2～4年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和元年（平成31年度）の測定結果を示した。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示す。

出典：「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(浜松市環境部環境保全課)



出典：「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(浜松市環境部環境保全課)

図 4-1-15 地下水水質測定地点位置図(ダイオキシン)

1.3. 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌の状況

1) 土壌の区分及び分布状況

調査区域における土壌の状況は、図 4-1-16 に示すとおりです。

調査区域には、山地部を中心として乾性褐色森林土壌（赤褐色系）や褐色森林土壌（赤褐色系）、赤色土壌が分布しています。その他の台地・低地部では、主に黄色土壌、細粒グライ土壌が分布しています。

2) 土壌汚染の状況

調査区域における土壌中ダイオキシン類濃度の測定地点は図 4-1-17 に、測定結果は表 4-1-34 に示すとおりです。

測定は 1 地点で行われており、測定結果は環境基準を達成しています。

また、調査区域には「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」（昭和 45 年 12 月 25 日法律第 139 号）に基づき指定された農用地土壌汚染対策地域はありません。

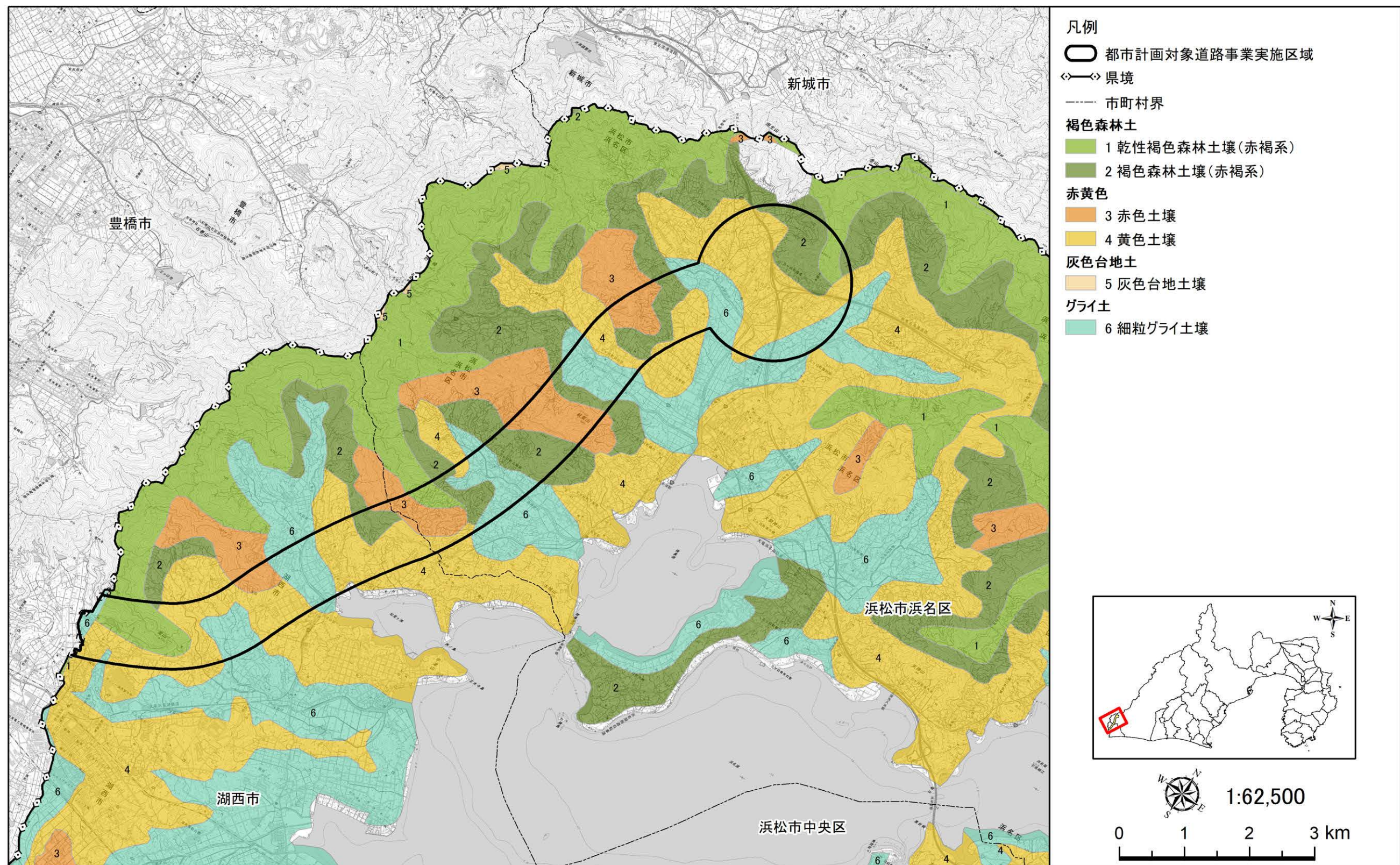
表 4-1-34 土壌中ダイオキシン類濃度測定結果(令和 2 年度)

No.	市	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/g)	(pg-TEQ/g)	達成・非達成
1	浜松市	浜松市立三ヶ日西小学校	0.0049	1,000	○

注1) 地点番号は図4-1-17に対応する。

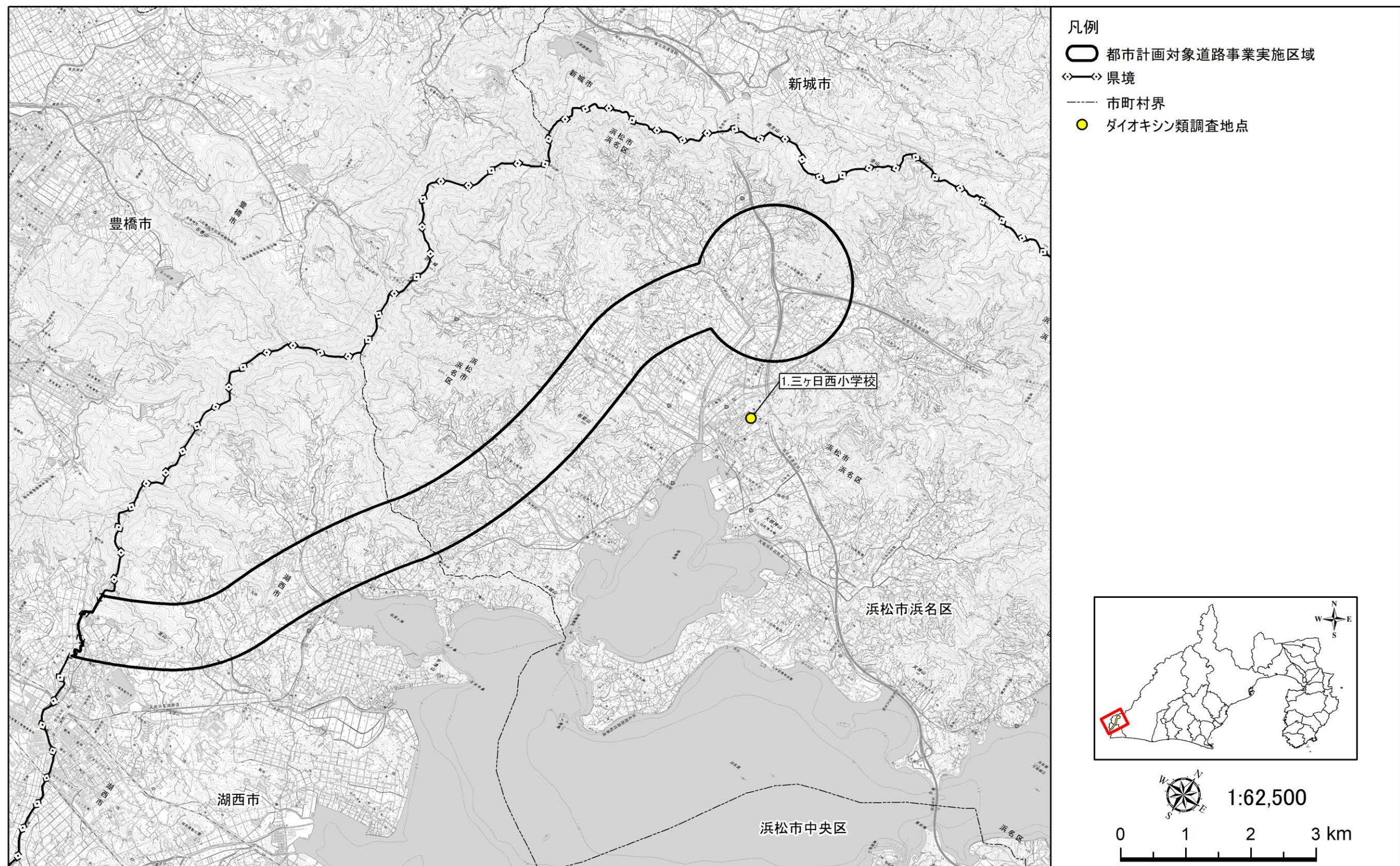
注2) 令和3、4年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和2年度の測定結果を示した。

出典：「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）



出典：「20万分の1都道府県土地分類基本調査 土壌図」（国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ）

図 4-1-16 土壌の状況



出典：「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

図 4-1-17 土壤中ダイオキシン類濃度の測定地点位置図

(2) 地盤の状況

1) 地盤の状況

「平成 29 年版 環境白書（詳細版）」（平成 29 年 12 月、静岡県）によると、静岡県で平成 28 年度に実施した西遠地域における地盤沈下調査の結果、最大沈下量は 0.9mm/年であり、地盤沈下はほとんど見られていません。

2) 地盤沈下の状況

調査区域において、地盤沈下の調査は行われていません。

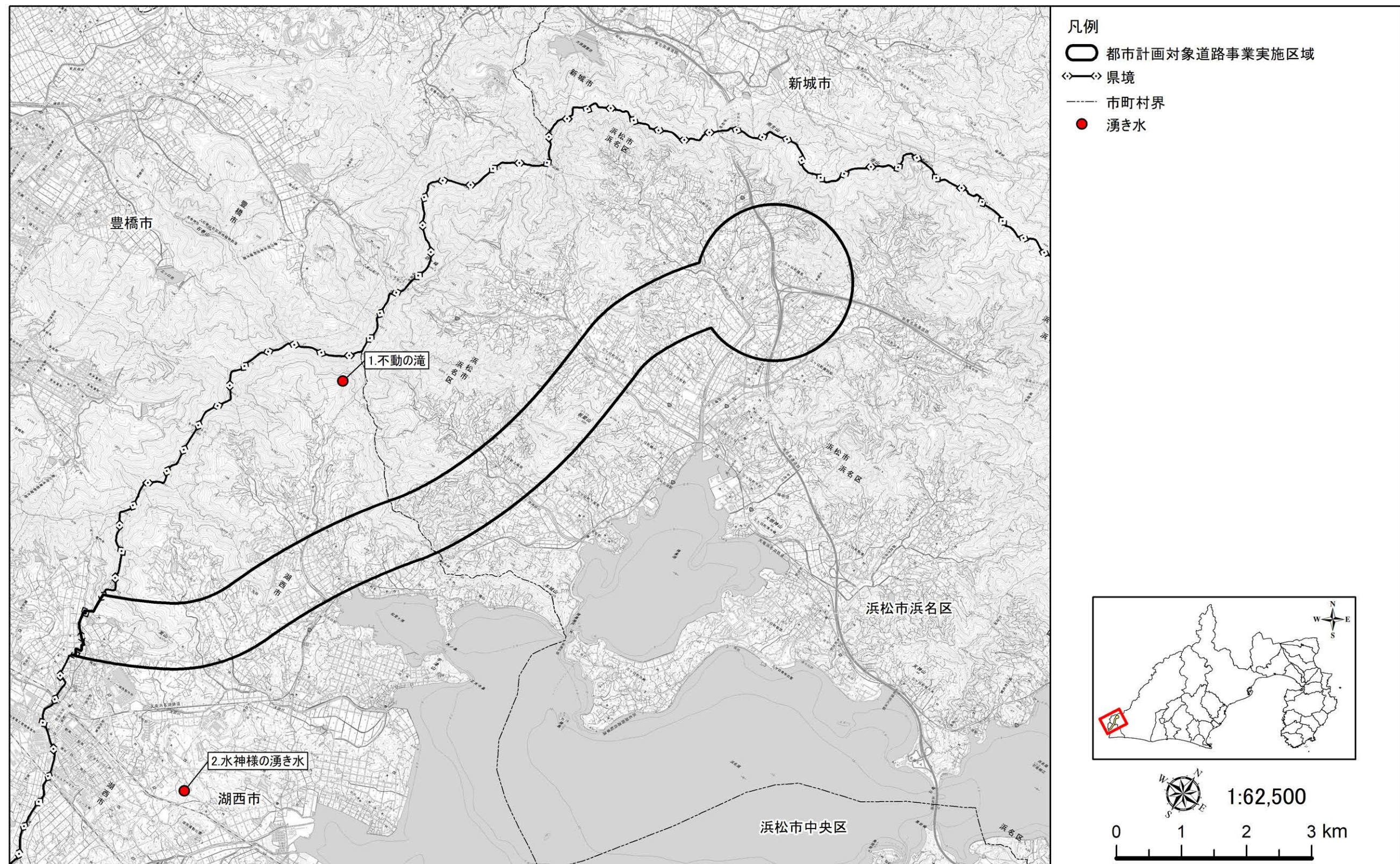
3) 地下水の分布

調査区域における湧き水の分布状況は、表 4-1-35 及び図 4-1-18 に示すとおりです。調査区域において 2 箇所の湧き水が確認されています。

表 4-1-35 湧き水一覧

No.	河川名	所在地
1	不動の滝	静岡県湖西市大知波
2	水神様の湧き水	静岡県湖西市岡崎

出典：「静岡県の湧き水」（閲覧：令和5年9月、静岡県ホームページ）



出典：「静岡県の湧き水」（閲覧：R5年9月、静岡県ホームページ）

図 4-1-18 湧き水分布図

4) 地下水位の状況

調査区域における地下水位の調査地点は図 4-1-19 に、調査結果は表 4-1-36 に示すとおりです。

平成 19 年度から令和元年度にかけて 9 地点で調査が行われており、自然水位は 2.33 ～32.30m となっています。

調査区域には、「工業用水法」（昭和 31 年法律第 146 号、最終改正：平成 26 年 6 月 13 日法律第 69 号）に基づく指定地域及び「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」（昭和 37 年 5 月 1 日法律第 100 号、最終改正：平成 12 年 5 月 31 日法律第 91 号）に基づく指定地域に含まれる市町は存在しません。

なお、浜松市の一部は「静岡県地下水の採取に関する条例」（昭和 52 年 8 月 1 日条例第 25 号、最終改正：平成 30 年 3 月 28 日条例第 17 号）に基づく規制区域等に該当します。また、浜松市では「浜松市旧細江地域自治区及び旧三ヶ日地域自治区地下水の採取の適正化に関する条例」（平成 17 年 6 月 1 日浜松市条例第 141 号、最終改正：平成 24 年 3 月 23 日浜松市条例第 6 号）を定めており、調査区域の一部は同条例に基づく適正化地域に該当します。湖西市は「静岡県地下水の採取に関する条例（昭和 52 年 8 月 1 日条例第 25 号）」に基づく規制区域等には該当しませんが、自主規制区域（浜名湖西岸）として、揚水設備設置の届出や取水基準の遵守等、県条例区域とほぼ同様の規制が行われています。

表 4-1-36 地下水位調査結果

No.	市	井戸の所在地 ^{注1)}	使用目的 ^{注2)}	地盤標高 (m)	自然水位 (m)	調査年度
1	浜松市	三ヶ日津々崎	工業用	3.00	2.33	H20 ^{注3)}
2		細江町	工業用	4.00	2.82	H19 ^{注3)}
3	湖西市	アスモ 1 号	工業用	87.00 ^{注5)}	8.83 ^{注6)}	R1 ^{注4)}
4		アスモ 3 号	生活用	78.00 ^{注5)}	7.86 ^{注6)}	R1 ^{注4)}
5		岡崎	農業用	37.10	32.30	H24 ^{注3)}
6		利木	その他	75.00	16.83	H20 ^{注3)}
7		白須賀	生活用	3.00	7.05	H20 ^{注3)}
8		太田	その他	2.00	2.68	H19 ^{注3)}
9		梅田	農業用	31.00	25.60	H19 ^{注3)}

注1) 井戸の所在地が公表されているアスモ1号、アスモ3号について、図4-1-19に位置を図示した。その他の井戸については、非公表のため図示していない。

注2) 使用目的の「その他」は、生活用、都市用、工業用、農業用以外の使用目的を指す。

注3) 調査年度は「全国地下水資料台帳」に記載の調査年度とした。

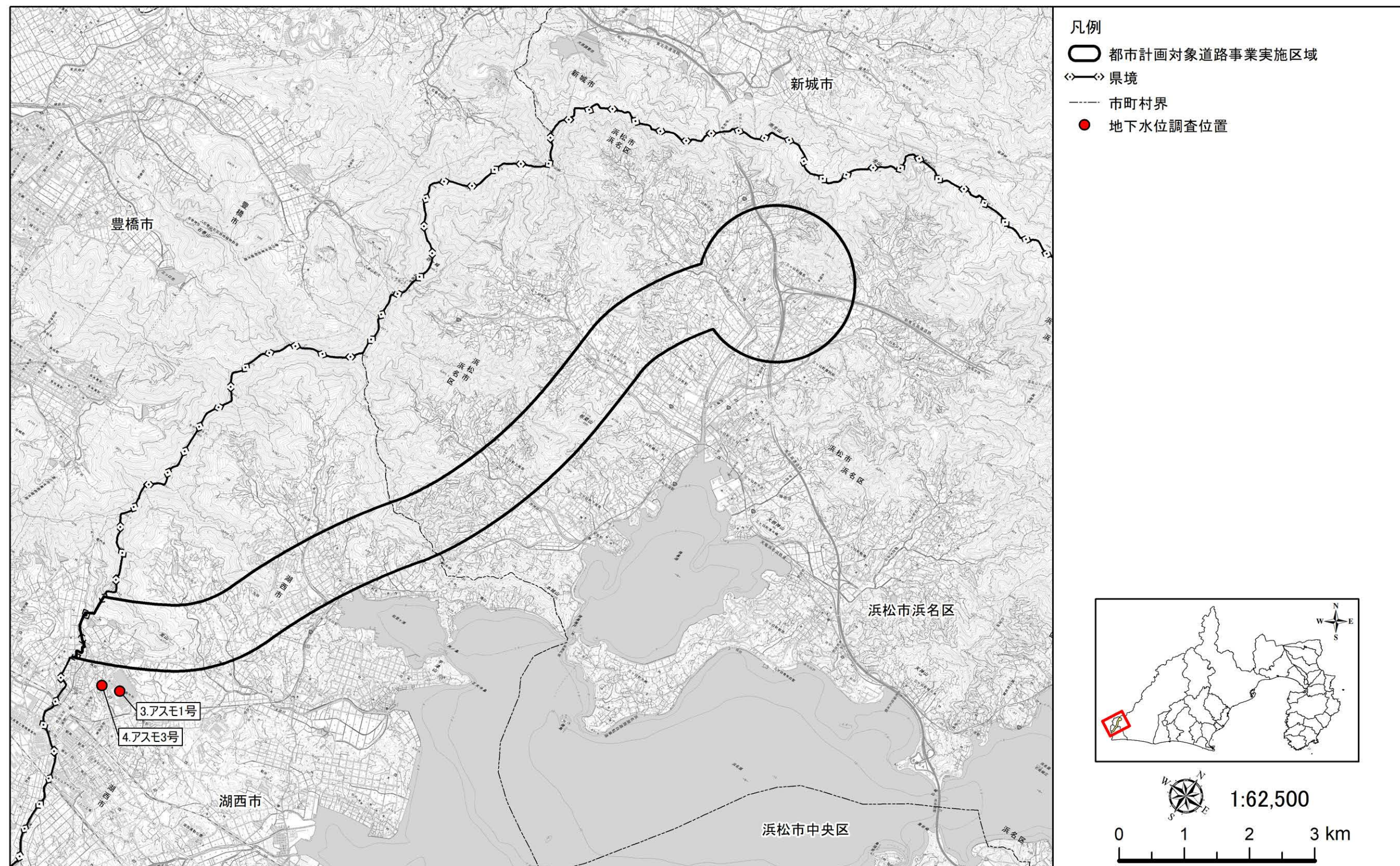
注4) 調査年度は「地下水調査」（静岡県ホームページ）に記載の調査年度とした。

注5) 管頭標高

注6) ポンプ停止後1時間以上経過後に観測

出典：「全国地下水資料台帳」（国土交通省国土政策局国土情報課ホームページ）

「地下水調査」（静岡県ホームページ）



注1) 井戸の所在地が公表されている No.3 アスモ1号及び No.4 アスモ3号について位置を図示した。その他の井戸については、非公表のため図示していない
 出典：「地下水調査」（静岡県ホームページ）

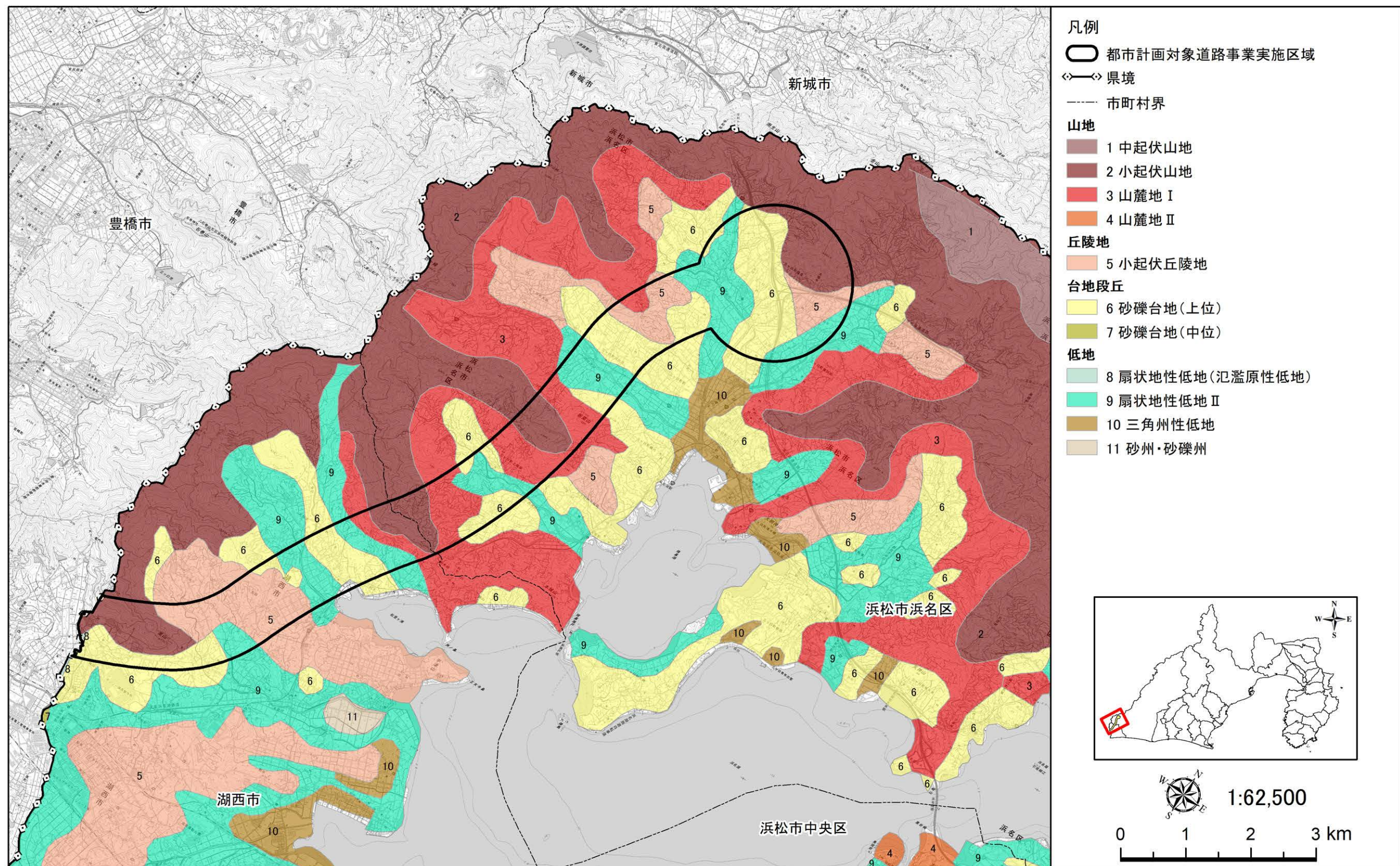
図 4-1-19 地下水位調査位置図

1.4.地形及び地質の状況

(1) 地形及び地質の状況

調査区域における地形の状況は、図 4-1-20 に示すとおりです。事業実施区域の西側、静岡県と愛知県の県境付近には弓張山地が存在し、その周囲は主に小起伏山地、山麓地Ⅰ、小起伏丘陵地が広く分布します。浜名湖に注ぐ河川周辺には扇状地性低地Ⅱ、三角州性低地が分布します。

調査区域における地質の状況は、図 4-1-21 に示すとおりです。調査区域の基盤岩類は硬質な中～古生層で、付加帯に属する秩父帯コンプレックス(混成岩類(砂岩、泥岩、チャート、石灰岩など)：凡例Ⅱl、Ⅳv、Ⅰc等)で構成され、基本的に東北東-西南西方向の帯状の地質分布を示します。事業実施区域の北東側には秩父帯と断層で接して付加帯の三波川変成岩類(御荷鉾緑色岩類：凡例 Gm)が分布します。浜名湖に近い山裾や湖西市側の台地や扇状地では砂礫を中心とした更新世の地層(凡例 Nh、Mg)が分布しています。河川沿いには軟弱地盤とされる完新世の地層(沖積層：凡例 a 等)が分布しています。



出典：「20万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図」（国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ）

図 4-1-20 地形分類図

＜各図福の地層対比＞

○浜松図福

地質年代

凡例

地層・岩相

完新世

ds

砂丘砂

a

沖積層

td

段丘堆積物

更新世

Mg

三方ヶ原礫層

Hm

浜松累層

Nh

西浜名累層

中～古生代

Gm

緑色岩類

ペルム紀(古生代)

lv

井伊谷層

ls

lc

ll

Mi

都田層

Ms

Mc

○豊橋・原田図福

地質年代

凡例

地層・岩相

完新世

a

沖積層

tl

低位段丘堆積物

fy

新期扇状地堆積物

更新世

Ty1-5

豊橋層

白亜紀

三波川
変成コン
プレック
ス

御荷鉾ユニット
(御荷鉾緑色岩
類)

Ms

珪質片岩

Mm

変成玄武岩

Mg

変成斑レイ岩

Mu

変成かんらん岩

ペルム紀(古生代)～
三疊紀・
ジュラ紀(中
生代)

秩父帯
ジュラ紀
付加コン
プレック
ス

多米ユニット

Tx

混在岩

Ta

石灰岩

Tm

チャートおよび粘板岩

Tc

チャート、粘板岩および砂岩

Ux

混在岩

Us

砂岩

Uc

チャート

雲谷ユニット

NC

チャート、珪岩、粘板岩

○三河大野図福

地質年代

凡例

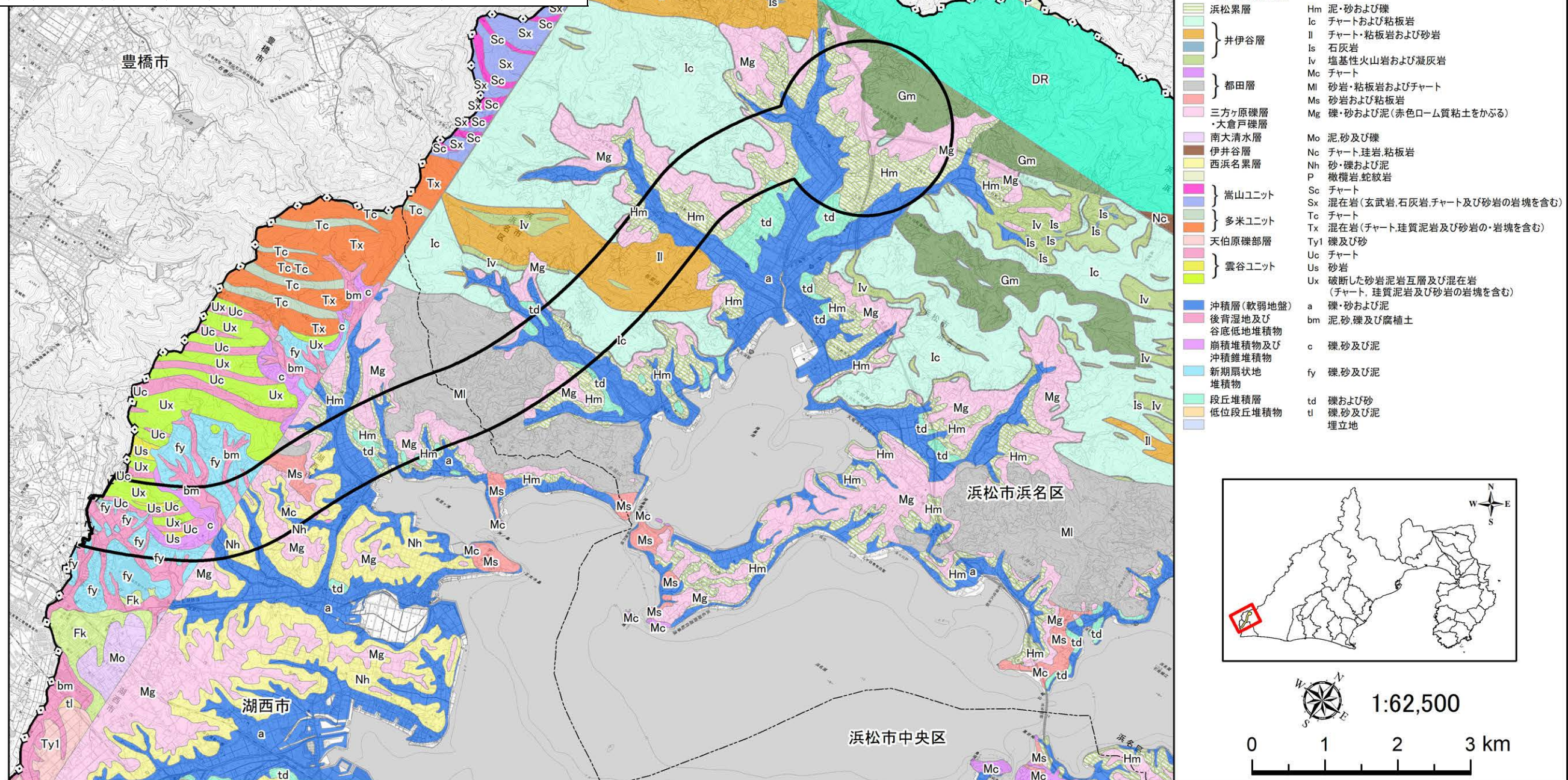
地層・岩相

DR

輝緑岩、斑れい岩等

P

蛇紋岩等



出典：5万分の1地質図幅(国立研究開発法人 産業技術総合研究所ホームページ)

注1)隣接する3つの図幅（西端「豊橋および田原」、浜名湖周辺「浜松」、東端「三河大野」）の情報を元に記載した。各図幅は作成した研究者や年代が異なるため、解釈や表現方法が異なり、境界界が不連続となっている。

圖 4-1-21 表層地質圖

(2) 重要な地形及び地質の状況

重要な地形及び地質の概要は表 4-1-37 に、位置は図 4-1-22 に示すとおりです。

調査区域に分布する法令、条例等によって定められた重要な地形及び地質として、浜名湖があります。

また、「第 1 回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」(昭和 51 年、環境庁)、「日本の地形レッドデータブック第 2 集ー保存すべき地形ー」(平成 12 年 3 月、小泉武栄、青木賢人)及び「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」

(平成 12 年 3 月、日本ペトロロジー学会)に掲載されている、または(仮称)浜松湖西豊橋道路計画段階環境配慮書(令和 3 年 12 月)に対する静岡県知事意見において重要性が指摘される等、学術上または希少性の観点で重要と判断される地形及び地質として、石灰岩・化石産地(洪積臥骨、哺乳類)、チョコレート褐色土、ナウマンゾウ化石産出地等があります。

なお、調査区域内には、「日本の地形レッドデータブック第 1 集ー危機にある地形ー」(平成 12 年 12 月、小泉武栄、青木賢人)に掲載された危機にある地形は存在しません。

表 4-1-37 重要な地形及び地質の概要

No	名称	概要	重要度の分類基準	出典
1	石灰岩・化石産地 (洪積臥骨、哺乳類)	「第 1 回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」に掲載されている。	②a	1
2	チョコレート褐色土	チョコレート褐色土の母岩である蛇紋岩そのものが局地的に分布しているため、この土壌の分布も極めて局地的かつ小面積である。チョコレート褐色土の属する暗赤色土壌群の成因については他の土壌型と比べて未だ十分に研究されておらず、その保存は学術上極めて重要である。	②b	2
3	ナウマンゾウ化石産出地	計画段階環境配慮書に対する静岡県知事意見において、大型哺乳類等の化石が発掘された貴重な地域(浜松市中央区佐浜町(ナウマンゾウの模式標本発掘地)や浜名区三ヶ日町只木など)の重要性が指摘されている。	②a	3
4	灰色低地土	浜名湖北岸に位置する当該地域は、比較的狭い地形内に地形連鎖が存在し、各種土壌の分布や生成の観察・研究に好適なフィールドである。土壌母材もチャート・石灰岩・蛇紋岩・河成砂礫層等と多様である。近年、該当地域は樹園地の基盤整備、道路や市街地の拡大等により観察しやすい断面(露頭)が少なくなりつつある。	②b	2
5	赤色土、暗赤色土、黄色土		②b	2
6	褐色森林土		②b	2
7	浜名湖	静岡県指定の名勝であり、「日本の地形レッドデータブック第 2 集ー保存すべき地形ー」に掲載されている。 汽水湖としては太平洋側最大の湖であり、引佐細江・猪鼻湖・庄内半島などの内湖や岬が複雑な溺れ谷地形をなす。	①, ②a	4,5

注1) 地点番号は図4-1-22に対応する。

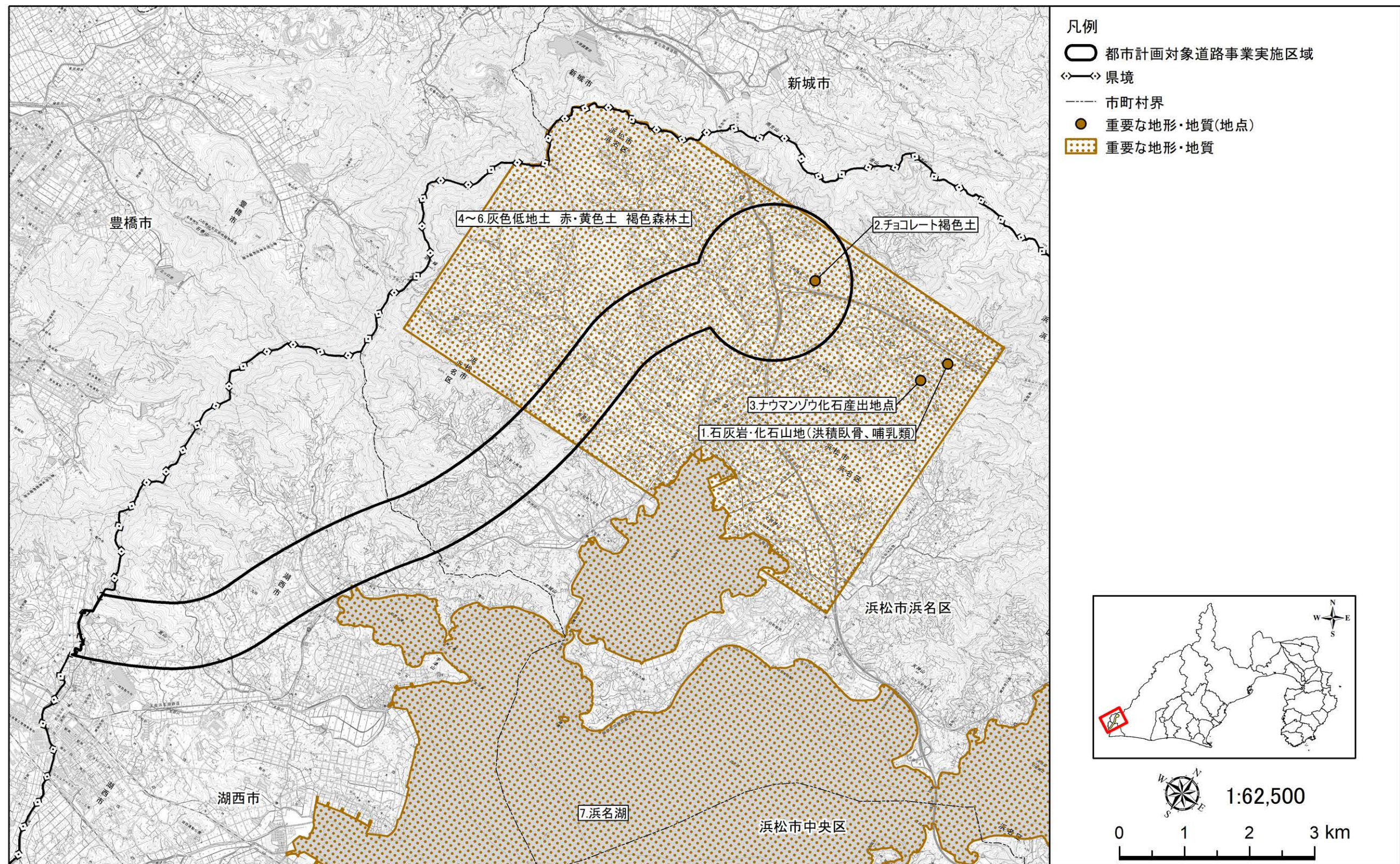
重要度の分類基準：

- ①法律、条例等によって定められた重要な地形及び地質
- ②法令等の規定はないが学術上又は希少性の観点で重要と判断される場合のある地形及び地質
 - a: 公的機関によって定められた重要な地形及び地質
 - b: 学会等で定められた重要な地形及び地質

- 出典：1. 「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)
2. 「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)
3. 「浜名湖周辺地域産出のナウマンゾウ化石 静岡地学第87号(2003)」(静岡県地学会)
4. 「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)
5. 「日本の地形レッドデータブック第2集ー保存すべき地形ー」(平成14年3月、小泉武栄・青木賢人編)

(3) 活断層の状況

「活断層データベース」(国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ)によると、調査区域には活断層は存在していません。



出典：「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)
「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)
「浜名湖周辺地域産出のナウマンゾウ化石 静岡地学第87号(2003)」(静岡県地学会)
「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)
「日本の地形レッドデータブック第2集ー保存すべき地形ー」(平成14年3月、小泉武栄・青木賢人編)

図 4-1-22 重要な地形及び地質

1.5.動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 使用文献一覧

動植物の生息及び生育の状況を把握するため、調査区域における確認種を抽出しました。対象地域は静岡県湖西市、浜松市としました。

使用文献の一覧を表 4-1-38(1)～(2)に示します。

表 4-1-38(1) 動物・植物の生息状況の把握に用いた文献・資料

文献 番号	文献名	発行元/発行年	対象 地域	項目									
				哺乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	魚 類	昆 虫 類	底 生 動 物	ク モ 類	陸 産 貝 類	植 物
1	第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図	環境庁、昭和 51 年	湖西市、浜松市										
2	第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書	環境庁、昭和 57 年 3 月	湖西市、浜松市	●	●	●		●	●				
3	第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境庁、昭和 63 年	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●		●	
4	第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境庁、平成 5 年	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●		●	
5	第5回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省、平成 13～14 年	湖西市、浜松市	●		●	●	●	●	●		●	
6	第6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省、平成 15～16 年	湖西市、浜松市	●	●								
7	まもりたい静岡県の野生生物 2019ー静岡県静岡県レッドデータブック<動物編>ー	静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成 31 年 3 月	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
8	まもりたい静岡県の野生生物 2020ー静岡県静岡県レッドデータブック<植物・菌類編>ー	静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月	湖西市、浜松市										●
9	第 12 次鳥獣保護管理事業計画	静岡県、平成 31 年 3 月	湖西市、浜松市	●	●								
10	ふじのくに生物多様性地域戦略 2018-2027	静岡県、平成 30 年	湖西市、浜松市										●
11	静岡県自然観察ガイドブック 30 湖西連峰	静岡県環境森林部地球環境室、平成 10 年 11 月	湖西市、浜松市						●		●	●	
12	生物多様性はままつ戦略 2018～みんなでツナグ自然の恵み～【資料編】	浜松市、平成 30 年	浜松市	●		●	●			●		●	●

表 4-1-38(2) 動物・植物の生息状況の把握に用いた文献・資料

文献 番号	文 献 名	発行元/発行年	対象 地域	項 目									
				哺乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	魚 類	昆 虫 類	底 生 動 物	ク モ 類	陸 産 貝 類	植 物
13	サイエンスミュージ アムネット	国立科学博物館 HP、閲覧：令和 3 年 2 月	湖西市、 浜松市	●	●			●	●	●	●	●	●
14	東海自然誌ーふじの くに地球環境史ミュ ージアム研究報告ー 第 1 号～第 15 号	ふじのくに地球環 境史ミュージアム HP、閲覧：令和 4 年 5 月	湖西市、 浜松市	●					●	●			●
15	日本のシダ植物図 鑑：分布・生態・分 類	東京大学出版会、 平成 16 年	湖西市、 浜松市										●
16	静岡県の鳥類第 2 版	静岡の鳥編集委員 会、平成 22 年	湖西市、 浜松市		●								
17	静岡県の鳥類第 3 版	静岡の鳥編集委員 会、令和 2 年 6 月	湖西市、 浜松市		●								
18	静岡県産蜂類目録	池田二三高、昭和 51 年	湖西市、 浜松市						●				
19	静岡県産蝶類分布目 録	静岡県昆虫同好 会、平成 15 年	湖西市、 浜松市						●				
20	静岡県の自然環境シ リーズ（哺乳類、淡 水魚類、重要昆虫、 植物群落）	静岡県自然保護 課、昭和 56 年～平 成元年	湖西市、 浜松市	●				●	●	●			●
21	静岡県陸淡水産貝類 相、東海大学自然史博 物館研究報告，(3)， 1-82，	ちりばたん 20(1・ 2)，43，平成元年	湖西市、 浜松市									●	
22	静岡県植物誌	杉本順一、 昭和 59 年	湖西市、 浜松市										●
23	静岡県産希少植物図 鑑	杉野孝雄、平成 21 年	湖西市、 浜松市										●
24	全国鳥類繁殖分布調 査報告 日本の鳥の 今を描こう 2016- 2021 年	鳥類繁殖分布調査 会、令和 3 年	湖西市、 浜松市		●								
25	全国鳥類越冬分布調 査 2016-2022 年	バードリサーチ・ 日本野鳥の会、令 和 5 年	湖西市、 浜松市		●								
26	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック 3 みっかび の野鳥	三ヶ日町教育委員 会、平成 5 年	浜松市		●								
27	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック 4 野の花 みっかび	三ヶ日町教育委員 会、平成 6 年	浜松市										●
28	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック 5 山の花 みっかび	三ヶ日町教育委員 会、平成 10 年	浜松市										●

注1)「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図」は文献を確認したが、調査区域における動植物の生息・生育情報は確認できなかった。

(2) 動物の生息の状況

1) 動物相の状況

① 哺乳類の概況

調査区域において生息記録のある哺乳類として、ホンドアカネズミ、ホンドタヌキ、ホンドイタチ、ニホンイノシシ、ニホンジカ等を含む 7 目 19 科 48 種が確認されています。

② 鳥類の概況

調査区域において生息記録のある鳥類として、ミサゴやオオタカ等の猛禽類をはじめ、カルガモ、キジバト、ダイサギ、シジュウカラ、ホオジロ等を含む 21 目 61 科 252 種が確認されています。

③ 両生類の概況

調査区域において生息記録のある両生類として、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエル等を含む 2 目 8 科 20 種が確認されています。

④ 爬虫類の概況

調査区域において生息記録のある爬虫類として、クサガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ニホンマムシ等を含む 2 目 9 科 15 種が確認されています。

⑤ 魚類の概況

調査区域において生息記録のある魚類として、ニホンウナギ、オイカワ、ドジョウ、ミナミメダカ、ボウズハゼ等を含む 13 目 35 科 103 種が確認されています。

⑥ 昆虫類の概況

調査区域において生息記録のある昆虫類として、シオカラトンボ、ショウリョウバッタ、アゲハ、ノコギリクワガタ、ゲンジボタル等を含む 11 目 107 科 782 種が確認されています。

⑦ 底生動物の概況

調査区域において生息記録のある底生動物として、ヒメタニシ、カワニナ、マメシジミ、ヤマトヌマエビ、モクズガニ等を含む 15 目 62 科 101 種が確認されています。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の概況

調査区域において生息記録のあるクモ類として、ジグモ、カネコトタテグモ、アケボノユウレイグモ、オニグモ、エンシュウナミハグモ等を含む 1 目 8 科 16 種が確認されています。

(b) 陸産貝類の概況

調査区域において生息記録のある陸産貝類として、トウカイヤマトガイ、ミカワギセル、ヤマナメクジ、ヒメカサキビ、トウカイビロウドマイマイ等を含む 3 目 22 科 101 種が確認されています。

2) 動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況

動物の重要な種の選定基準を表 4-1-39(1)～(2)に示します。

表 4-1-39(1) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
1	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日法律第 22 号）に基づく天然記念物及び特別天然記念物	・ 特別天然記念物（特天） ・ 天然記念物（天）
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号、最終改正：令和 2 年 12 月 16 日政令第 352 号）に基づく国内希少野生動植物種等	・ 国内希少野生動植物種（国内） ・ 緊急指定種（緊急）
3	「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号）に基づく指定希少野生動植物種	・ 県指定種（県指）
4	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年 3 月 30 日愛知県条例第 3 号、最終改正：平成 22 年 3 月 26 日愛知県条例第 12 号）に基づく指定希少野生動植物種	・ 県指定種（県指）
5	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：絶滅のおそれのある地域個体群
6	「静岡県版レッドリスト 2020」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群 要注目種：（静岡県独自の 카테고리） ・ N-I：現状不明 ・ N-II：分布上注目種等 ・ N-III：部会注目種
7	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群

表 4-1-39(2) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
8	「静岡県立自然公園条例」（昭和 36 年 10 月 4 日静岡県条例第 53 号、最終改正：令和元年 10 月 25 日静岡県条例第 15 号）に基づく浜名湖県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	・ ○：静岡指定
9	「環境省海洋生物レッドリスト」（環境省、平成 29 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：絶滅のおそれのある地域個体群

① 哺乳類の重要な種

調査区域において確認記録のある哺乳類の重要な種はノレンコウモリ、ヤマネ等の 6 目 11 科 26 種で、表 4-1-40 に示すとおりです。

なお、哺乳類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-40 文献により確認された哺乳類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	モグラ	トガリネズミ	カワネズミ						NT	VU		
2		モグラ	アズマモグラ							VU		
3	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ						NT	NT		
4			キクガシラコウモリ						NT	NT		
5		ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ						N-II			
6			モモジロコウモリ						NT	VU		
7			クロホオヒゲコウモリ					VU	DD			
8			ノレンコウモリ					VU	VU	CR		
9			ヒナコウモリ						DD	EN		
10			チチブコウモリ					LP	VU	CR		
11			ウサギコウモリ						DD			
12			コテングコウモリ						DD	CR		
13			テングコウモリ						DD	EN		
14	ウサギ	ウサギ	ノウサギ							NT		
15	ネズミ	リス	ニホンリス						N-III	NT		
16			ホンドモモンガ						DD	EN		
17			ムササビ						NT	NT		
18		ヤマネ	ヤマネ	天					DD	NT		
19		ネズミ	スミスネズミ							NT		
20			ハタネズミ						N-III	NT		
21			カヤネズミ						NT	VU		
22	ネコ	クマ	ツキノワグマ							CR		
23		イタチ	ホンドテン							NT		
24			オコジョ						DD			
25			ニホンアナグマ							DD		
26	ウシ	ウシ	カモシカ	特天								
計	6目	11科	26種	2種	0種	0種	0種	3種	19種	21種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

② 鳥類の重要な種

調査区域において確認記録のある鳥類の重要な種は、チュウヒ、コノハズク等の 16 目 36 科 111 種で、表 4-1-41(1)～(3)に示すとおりです。

なお、鳥類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-41(1) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7			8	9
										越冬	繁殖	通過		
1	キジ	キジ	ウズラ					VU	VU	EN				
2			ヤマドリ					NT						
3	カモ	カモ	ヒシクイ	天				VU						
4			カリガネ				EN							
5			コクガン	天			VU							
6			ツクシガモ				VU							
7			オシドリ				DD			NT				
8			トモエガモ				VU	VU	VU					
9			シノリガモ					NT	VU					
10			ビロードキンクロ						EN					
11			クロガモ						NT					
12			ミコアイサ						NT					
13			カワアイサ							NT				
14	カイツブリ	カイツブリ	アカエリカイツブリ							EN				
15			ミミカイツブリ							NT				
16	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内			CR						
17	カツオドリ	ウ	ヒメウ					EN		NT				
18	ペリカン	サギ	サンカノゴイ					EN	EN			EN		
19			ヨシゴイ				NT	EN		CR	CR			
20			ミゾゴイ				VU	EN		EN	VU			
21			ゴイサギ					N-III						
22			ササゴイ					EN						
23			チュウサギ				NT							
24			クロサギ						EN					
25			カラシラサギ				NT				NT			
26		トキ	クロツラヘラサギ		国内			EN		VU				
27	ツル	クイナ	シマクイナ		国内			EN						
28			クイナ					NT	NT					
29			ヒクイナ				NT	VU		NT	NT			
30			バン						NT	VU				
31	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ								VU	NT		
32			ツツドリ							VU	NT			
33			カッコウ							VU	NT			
34	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ					NT	VU		EN	VU		
35	チドリ	チドリ	タゲリ						NT					
36			ケリ				DD							
37			イカルチドリ					NT	NT	VU				
38			シロチドリ				VU	VU	VU	VU				
39		セイタカシギ	セイタカシギ					VU	NT	VU	EN			
40		シギ	ヤマシギ						DD	NT				
41			アオシギ							VU				

表 4-1-41(2) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7			8	9
										越冬	繁殖	通過		
42	(チドリ)	(シギ)	オオハシシギ						N- II	EN				
43			オグロシギ					VU				EN		
44			オオソリハシシギ					VU	VU			EN		
45			コシャクシギ					EN				VU		
46			ダイシャクシギ						VU	VU				
47			ホウロクシギ					VU	VU			EN		
48			ツルシギ					VU	EN			EN		
49			アカアシシギ					VU	VU			VU		
50			コアオアシシギ						VU					
51			タカブシギ					VU	VU			EN		
52			メリケンキアシシギ									EN		
53			オバシギ									VU		
54			ミユビシギ						NT	NT				
55			オジロトウネン						VU			VU		
56			ヒバリシギ						VU					
57			ウズラシギ						VU			EN		
58			ハマシギ					NT	VU	VU				
59			キリアイ						VU			EN		
60			エリマキシギ									VU		
61			タマシギ	タマシギ					VU	VU	EN	EN		
62		ツバメチドリ	ツバメチドリ					VU			CR	EN		
63		カモメ	オオセグロカモメ					NT						
64			コアジサシ					VU	EN		EN	VU		
65			ウミスズメ	カンムリウミスズメ	天				VU	CR				
66	タカ	ミサゴ	ミサゴ					NT	N-III		NT			
67		タカ	ハチクマ					NT	VU		VU	NT		
68			オジロワシ	天	国内			VU	EN					
69			オオワシ	天	国内			VU	N- II					
70			チュウヒ		国内			EN	EN	VU	CR			
71			ハイイロチュウヒ						N- II	EN				
72			ツミ								NT			
73			ハイタカ					NT	VU					
74			オオタカ					NT	NT	NT	NT			
75			サシバ					VU	VU		EN	NT		
76			クマタカ		国内			EN	VU	EN	EN			
77	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク						DD	NT	VU			
78			コノハズク				県指		EN		CR	VU		
79			フクロウ						NT	NT	NT			
80			アオバズク						VU		EN	VU		
81			トラフズク						DD					
82			コミミズク						EN	VU				
83	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン						VU		VU	NT		
84			ヤマセミ					EN	EN	CR				
85		ブッポウソウ	ブッポウソウ					EN	CR		EN	VU		
86	キツツキ	キツツキ	アリスイ						NT					
87			オオアカゲラ						NT	NT	VU			

表 4-1-41(3) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7			8	9
										越冬	繁殖	通過		
88	ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ						N-III					
89			ハヤブサ		国内			VU	VU	NT	VU			
90	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内			EN	EN		CR	VU		
91		サンショウクイ	サンショウクイ					VU	EN					
92		カササギヒタキ	サンコウチョウ						NT					
93		ツバメ	コシアカツバメ						VU					
94		ムシクイ	イイジマムシクイ	天				VU	VU					
95		センニュウ	ウチャマセンニュウ					EN	VU					
96			オオセッカ		国内			EN	EN	EN				
97		キバシリ	キバシリ							NT	VU			
98		ミソサザイ	ミソサザイ								NT			
99		カワガラス	カワガラス							VU	VU			
100		ヒタキ	マミジロ						VU		EX	NT		
101			アカハラ								CR			
102			アカコッコ	天	国内			EN	DD					
103			コマドリ								CR	NT		
104			コルリ								NT			
105			ノビタキ						N- II					
106			コサメビタキ						VU		NT			
107		セキレイ	ビンズイ								EX			
108		ホオジロ	ホオアカ								CR			
109			ミヤマホオジロ						NT					
110			ノジコ					NT			EX	VU		
111			コジュリン					VU	VU	VU				
計	16目	36科	111種	8種	11種	0種	1種	52種	72種	37種	43種	34種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

③ 両生類の重要な種

調査区域において確認記録のある両生類の重要な種はアカイシサンショウウオ、ナガレタゴガエル等の2目5科14種で、表4-1-42に示すとおりです。

なお、両生類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-42 文献により確認された両生類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	有尾	サンショウウオ	アカイシサンショウウオ		国内			EN	CR	CR		
2			ヒガシヒダサンショウウオ		国内			VU	VU	NT		
3			ハコネサンショウウオ						VU	NT		
4		イモリ	アカハライモリ					NT	NT	NT ^{注3)}		
5	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル						N-III			
6		アカガエル	タゴガエル						N-III			
7			ナガレタゴガエル				県指		DD	CR		
8			ニホンアカガエル						VU		○	
9			ネバタゴガエル						N-III			
10			トノサマガエル					NT	NT			
11			ナゴヤダルマガエル					EN	CR	VU		
12			ツチガエル						NT			
13		アオガエル	モリアオガエル						NT	NT		
14			カジカガエル						NT	NT		
計	2目	5科	14種	0種	2種	0種	1種	5種	14種	8種	1種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

注3) アカハライモリ中間種族：NTに該当する。

④ 爬虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある爬虫類の重要な種はニホンイシガメ、ニホンスッポン等の2目6科8種で、表4-1-43に示すとおりです。

なお、爬虫類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-43 文献により確認された爬虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ					NT	NT	NT		
2			クサガメ						N-III			
3		スッポン	ニホンスッポン					DD	DD	DD		
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ						N-III			
5		トカゲ	ヒガシニホントカゲ						N-II			
6		タカチホヘビ	タカチホヘビ							DD		
7		ナミヘビ	シロマダラ						DD	DD		
8			ヤマカガシ							DD		
計	2目	6科	8種	0種	0種	0種	0種	2種	6種	5種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑤ 魚類の重要な種

調査区域において確認記録のある魚類の重要な種はヤリタナゴ、カワバタモロコ等の9目19科56種で、表4-1-44(1)～(2)に示すとおりです。

なお、魚類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-44(1) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種					VU	EN			
2			スナヤツメ南方種					VU	EN			
-			スナヤツメ類					VU	EN	EN		
3	カライワシ	イセゴイ	イセゴイ						N-III			
4	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ					EN	EN	EN		
5			オオウナギ						N-III			
6	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ					EN				
7			ヤリタナゴ			県指		NT	CR	CR		
8			アブラボテ					NT	DD	DD		
9			イチモンジタナゴ					CR		DD		
10			ゼニタナゴ					CR				
11			カワバタモロコ		国内	県指		EN	CR	EN		
12			ハス					VU				
13			カワムツ						N-II			
14			タカハヤ						N-II			
15			ウグイ									
16			タモロコ						N-II			
17			イトモロコ							NT		
18			スゴモロコ					VU				
19		ドジョウ	ドジョウ					NT	DD	VU		
20			ニシシマドジョウ						N-II	VU		
21			ヒガシシマドジョウ						N-II			
22			トウカイコガタスジシマドジョウ					EN	EN	EN		
23		フクドジョウ	ホトケドジョウ					EN	EN	EN		
24			ナガレホトケドジョウ					EN				
25			トウカイナガレホトケドジョウ					EN	EN	EN		
26	ナマズ	アカザ	アカザ					VU	EN	NT		
27	サケ	シラウオ	イシカワシラウオ						VU			
28		サケ	ヤマトイワナ						CR			
29			サツキマス (アマゴ)					NT	VU	DD		
30	トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ						N-III			
31			イッセンヨウジ						N-III			
32			テングヨウジ						N-III			
33	ダツ	メダカ	ミナミメダカ					VU	VU	VU		
34		サヨリ	クルマサヨリ					NT	DD	DD		
35	スズキ	アカメ	アカメ					EN	N-III			
36		クロサギ	ヤマトイトヒキサギ									DD
37		ユゴイ	ユゴイ						N-III			

表 4-1-44(2) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
38	(スズキ)	カジカ	カマキリ					VU	VU	EN		
39			カジカ					NT	NT	EN		
40			ウツセミカジカ (回遊型)					EN	VU	VU		
41		ドンコ	ドンコ							EN		
42		カワアナゴ	カワアナゴ						N-III	NT		
43			チチブモドキ						N-III			
44			オカメハゼ						N-III			
45		ハゼ	イドミミズハゼ					NT				
46			ヒモハゼ					NT	VU	VU		
47			チワラスボ属の1種C					EN	EN			
48			トビハゼ					NT	CR	VU		
49			ボウズハゼ							VU		
50			ノボリハゼ						N-III			
51			ヒナハゼ						N-III			
52			クロコハゼ						N-III			
53			カワヨシノボリ						N-II			
54			オオヨシノボリ							NT		
55			ビリング						N-II			
56			エドハゼ					VU	NT	NT		
計	9目	19科	56種	0種	1種	2種	0種	29種	43種	26種	0種	1種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

注3) スナヤツメ類は、スナヤツメ北方種またはスナヤツメ南方種に該当するため、種数にカウントしなかった。

⑥ 昆虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある昆虫類の重要な種はベッコウトンボ、ヒメヒカゲ本州中部亜種等の 8 目 53 科 156 種で、表 4-1-45(1)～(4)に示すとおりです。

なお、調査区域内で詳細な位置を特定できた重要な昆虫類は、ヨツボシトンボ、ハッチョウトンボの 2 種です。確認位置は図 4-1-23 に示すとおりです。

表 4-1-45(1) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ						NT			
2			コバネアオイトトンボ					EN	CR	CR		
3			オツネイトンボ						NT			
4		イトトンボ	ベニイトトンボ					NT	CR	VU		
5			ヒヌマイイトトンボ					EN	CR	EN		
6			モートンイトトンボ					NT	VU	NT		
7			オオイトトンボ						CR	EN		
8		モノサシトンボ	グンバイトンボ					NT	CR	EN		
9		カワトンボ	アオハダトンボ					NT	NT			
10			ニホンカワトンボ						EN			
11		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ					NT	NT	NT		
12			アオヤンマ					NT	VU	EN		
13			カトリヤンマ						NT			
14		サナエトンボ	キイロサナエ					NT	EN	NT		
15			ホンサナエ						VU			
16			タベサナエ					NT	VU			
17			フタスジサナエ					NT	EN	VU		
18			コサナエ						VU	EN		
19		エゾトンボ	トラフトンボ						EN	NT		
20			キイロヤマトンボ					NT	CR	NT		
21			ハネビロエゾトンボ					VU	VU	VU		
22			エゾトンボ						CR	VU		
23		トンボ	ベッコウトンボ		国内			CR	CR	CR		
24			ヨツボシトンボ						NT			
25			ハッチョウトンボ						EN			
26			キトンボ						CR	EN		
27			ノシメトンボ							NT		
28			マイコアカネ						NT			
29			マダラナニワトンボ					EN	N- I	CR		
30			オオキトンボ					EN	CR	CR		
31	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ							NT		
32	カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ					DD	DD			
33	バッタ	クツワムシ	タイワンクツワムシ							NT		
34		キリギリス	スルガツコムシモドキ						N-III			
35		マツムシ	クチキコオロギ							NT		
36		コオロギ	オオオカメコオロギ						DD			
37			クチナガコオロギ						NT			
38												
39		ヒバリモドキ	ハマスズ						NT	EN		
40		バッタ	ヤマトマダラバッタ						NT	NT		
41												
42		イナゴ	ハネナガイナゴ						N-III			
			カケガワフキバッタ						NT			
			テカリダケフキバッタ						DD			

表 4-1-45(2) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
43	(バッタ)	(イナゴ)	セグロイナゴ						N-III			
44	カメムシ	アメンボ	オオアメンボ							NT		
45			エサキアメンボ					NT	N-III	NT		
46			ババアメンボ					NT	DD	VU		
47		ミズムシ (昆)	ミゾナシミズムシ					NT	N-III			
48			ホッケミズムシ					NT	VU	DD		
49			ミヤケミズムシ					NT	NT			
50		コオイムシ	コオイムシ					NT	N-III			
51			タガメ		国内			VU	N-III	EN		
52		タイコウチ	タイコウチ							DD		
53			ヒメタイコウチ						DD	NT		
54			ミズカマキリ							DD		
55		ナベブタムシ	ナベブタムシ							NT		
56	チョウ	セセリチョウ	ホソバセセリ							NT		
57			ギンイチモンジセセリ					NT	N- II	NT		
58			コキマダラセセリ						N- II	VU		
59			ミヤマチャバネセセリ							EN		
60			オオチャバネセセリ						N- II			
61			チャマダラセセリ					EN	EX	CR		
62			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種					NT	EX	EN		
63			ヘリグロチャバネセセリ						CR			
64		シジミチョウ	オナガシジミ						N- II	NT		
65			オオミドリシジミ							NT		
66			ベニモンカラスシジミ					NT	EN			
67			ウラクロシジミ						NT	VU		
68			ウラナミアカシジミ						VU			
69			クロシジミ					EN	VU	CR		
70			ミヤマシジミ					EN	VU			
71			フジミドリシジミ						N-III	VU		
72			クロツバメシジミ東日本亜種					NT	VU	EN		
73		タテハチョウ	コムラサキ						N- II			
74			ウラギンスジヒョウモン					VU	NT	VU		
75			オオウラギンスジヒョウモン							NT		
76			ヒメヒカゲ本州中部亜種			県指	県指	EN	CR	EN	○	
77			クモマベニヒカゲ本州亜種					NT	N- II			
78			ベニヒカゲ本州亜種					NT	N- II			
79			ツマジロウラジャノメ本州亜種						NT	DD		
80			クロヒカゲモドキ					EN	N- II	EN		
81			ウラジャノメ本州亜種						NT	EN		
82			ヒメジャノメ						N-III			
83			サトキマダラヒカゲ						N-III			
84			クモガタヒョウモン						NT			
85			オオミスジ						N- II			

表 4-1-45(3) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
86	(チョウ)	(タテハチョウ)	ホシミスジ東北・中部地方亜種						NT			
87			オオヒカゲ						N- I	NT		
88			オオムラサキ					NT	N-III	NT		
89			ギンボシヒョウモン本州亜種						N-III			
90			ウラナミジャノメ本土亜種					VU	EN	VU		
91		アゲハチョウ	ギフチョウ					VU	VU	VU		
92		シロチョウ	クモマツマキチョウハヶ岳・南アルプス亜種					VU	EN			
93			ツマグロキチョウ					EN		NT		
94			スジボソヤマキチョウ							CR		
95			ヒメシロチョウ北海道・本州亜種					EN	VU			
96		ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種					NT				
97		シャチホコガ	カバイロシャチホコ					NT	NT	NT		
98		ヤガ	クビグロケンモン					NT	NT			
99			コシロシタバ					NT	NT			
100			オオチャバネヨトウ					VU	EN	NT		
101	コウチュウ	オサムシ	タナカツヤハネゴミムシ					DD	N-III			
102			リュウガシメクラチビゴミムシ						N- I			
103			オオヒョウタンゴミムシ					NT	NT	VU		
104		ハンミョウ	カワラハンミョウ					EN	VU	EX		
105			アイヌハンミョウ					NT	N-III	NT		
106		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ					NT	NT	VU		
107			ゲンゴロウ					VU	EN	EN		
108			マルガタゲンゴロウ					VU	N- I	EX		
109			コマルケシゲンゴロウ					NT	NT			
110			オオマルケシゲンゴロウ					NT				
111			ケシゲンゴロウ					NT	N-III			
112			ニセコケシゲンゴロウ					CR	VU			
113			キベリクロヒメゲンゴロウ					NT	NT			
114			コウベツブゲンゴロウ					NT	NT			
115			ルイスツブゲンゴロウ					VU	VU			
116			キタノツブゲンゴロウ					EN	VU			
117			キベリマメゲンゴロウ					NT	N-III			
118		ミズスマシ	オオミズスマシ					NT	VU	NT		
119			ヒメミズスマシ					EN	VU			
120			ミズスマシ					VU	VU	EN		
121			コオナガミズスマシ					VU		NT		
122		コガシラミズムシ	クロホシコガシラミズムシ					VU	DD			
123			コガシラミズムシ						DD			
124		コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ					VU	N-III	NT		

表 4-1-45(4) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
125	(コウチュウ)	(コツブゲンゴロウ)	キボシチビコツブゲンゴロウ					EN	VU	NT		
126		マルドロムシ	ヤマトマルドロムシ						DD			
127		ガムシ	マルヒラタガムシ					NT	N-III			
128			スジヒラタガムシ					NT	N-III			
129			コガムシ					DD	NT			
130			ガムシ					NT	NT	VU		
131		シデムシ	ヤマトモンシデムシ					NT	N- I	VU		
132		クワガタムシ	ツヤハダクワガタ							EN		
133			ヒメオオクワガタ							EN		
134		コガネムシ	オオチャイロハナムグリ					NT	DD	VU		
135			ヒゲコガネ						NT			
136		ヒメドロムシ	アシナガミゾドロムシ						DD			
137		タマムシ	トゲフタオタマムシ							NT		
138		コメツキムシ	アカアシコハナコメツキ							NT		
139		ホタル	ヘイケボタル						N-III			
140		ゴミムシダマシ	ヤマトオサムシダマシ					NT	NT			
141		カミキリムシ	ヒメビロウドカミキリ					NT	DD	EX		
142			ケブカマルクビカミキリ						DD	NT		
143			オオホソコバネカミキリ							NT		
144			ヒゲブトハナカミキリ							NT		
145			フタコブルリハナカミキリ							NT		
146			ヨツボシカミキリ					EN	VU	EN		
147			アサカミキリ					VU	N-III	EX		
148		ハムシ	ガガブタネクイハムシ						NT			
149			ツヤネクイハムシ						DD			
150		ゾウムシ	ハマベゾウムシ						NT	NT		
151			ハバスゲヒメゾウムシ						DD			
152	ハチ	セイボウ	オオセイボウ					DD				
153		スズメバチ	ヤマトアシナガバチ					DD				
154		クモバチ	スギハラクモバチ					DD				
155			アオスジクモバチ					DD				
156		アナバチ	キゴシジガバチ							NT		
計	8目	53科	156種	0種	2種	1種	1種	84種	127種	87種	1種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑦ 底生動物の重要な種

調査区域において確認記録のある底生動物の重要な種はマルタニシ、マシジミ等の 8 目 22 科 34 種で、表 4-1-46 に示すとおりです。

なお、底生動物については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-46 文献により確認された底生動物の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	古腹足	ニシキウズガイ	イボキサゴ					NT		EN		
2	アマオブネガイ	アマオブネガイ	ヒロクチカノコガイ							VU		
3	新生腹足	タニシ	マルタニシ					VU	NT	NT		
4			オオタニシ					NT	NT			
5		ウミニナ	ウミニナ					NT		NT		
6		トゲカワニナ	タケノコカワニナ					VU	CR	EX		
7		カワニナ	クロダカワニナ					NT	NT	NT		
8		キバウミニナ	フトヘナタリガイ					NT		NT		
9			ヘナタリガイ					NT		NT		
10		ワカウラツボ	カワグチツボ					NT		NT		
11		ミズツボ	カワネミジンツボ					DD	DD			
12		カワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ						NT	VU		
13		エゾマメタニシ	マメタニシ					CR	EN	CR		
14		ミズゴマツボ	ウミゴマツボ					NT		NT		
15		タマガイ	サキグロタマツメタガイ					CR+EN				
16	汎有肺	オカミミガイ	オカミミガイ					VU		EN		
17			ウスコミミガイ					NT	VU	VU		
18		モノアラガイ	ヒロクチモノアラガイ					DD				
19			モノアラガイ					NT	NT	DD		
20		ヒラマキガイ	ヒダリマキモノアラガイ					CR+EN	CR	EX		
21			ヒラマキミズマイマイ					DD	NT	NT		
22			クロヒラマキガイ					DD				
23			ミズコハクガイ					VU	VU	VU		
24			ヒラマキガイモドキ					NT	NT	NT		
25		スナガイ	スナガイ					NT		VU		
26	イシガイ	イシガイ	トンガリササノハガイ							CR		
27			イシガイ						NT	CR		
28			マツカサガイ					NT	CR	CR		
29			ドブガイ							NT		
30	マルスダレガイ	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ					NT				
31		シジミ	ヤマトシジミ					NT	NT			
32			マシジミ					VU	NT	DD		
33	ワラジムシ	ウシオワラジムシ	ニッポンヒイロワラジムシ									DD
34	エビ	オサガニ	ヒメヤマトオサガニ									NT
計	8 目	22 科	34 種	0 種	0 種	0 種	0 種	27 種	17 種	25 種	0 種	2 種

注1) 種名及び配列は「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の重要な種

調査区域において確認記録のあるクモ類の重要な種はワスレナグモ、キノボリトタテグモ等の1目6科8種で、表4-1-47に示すとおりです。

なお、クモ類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-47 文献により確認されたクモ類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	クモ	ジグモ	ワスレナグモ					NT	VU	VU		
2		カネコトタテグモ	カネコトタテグモ					NT	NT	VU		
3		トタテグモ	キノボリトタテグモ					NT	NT	VU		
4			キシノウエトタテグモ					NT	NT	VU		
5		ユウレイグモ	アケボノユウレイグモ						N-II	EN		
6		コガネグモ	オニグモ						NT			
7			コガネグモ						NT	NT		
8		ナミハグモ	エンシュウナミハグモ						N-II			
計	1目	6科	8種	0種	0種	0種	0種	4種	8種	6種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

(b) 陸産貝類の重要な種

調査区域において確認記録のある陸産貝類の重要な種はホウライジギセル、オモイガケナマイマイ等の3目17科47種で、表4-1-48(1)～(2)に示すとおりです。

なお、陸産貝類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-48(1) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ					NT		NT		
2			ベニゴマオカタニシ				VU	NT	VU			
3		ヤマキサゴ	ヤマキサゴ						VU			
4	新生腹足	ヤマタニシ	トウカイヤマトガイ					VU	DD	VU		
5		ムシオイガイ	ムシオイガイ							NT		
6		カワザンショウガイ	ホラアナゴマオカチグサガイ					CR+EN	NT			
7	汎有肺	オカミミガイ	ケシガイ					NT		DD		
8		オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ					NT	NT	NT		
9		キバサナギガイ	クチマガリスナガイ					VU	NT			
10			ナタネキバサナギガイ					VU	NT	VU		
11			ヤマトキバサナギガイ					VU	VU	EN		
12		マキゾメガイ	ヒラドマルナタネ							NT		
13		キセルガイモドキ	フトキセルガイモドキ							DD		
14			キセルガイモドキ							NT		
15		キセルガイ	オオギセル					NT				
16			ホウライジギセル					CR+EN	EN	CR		
17			ミカワギセル					NT		NT		
18			オクガタギセル					NT	NT	NT		
19			ホソヤカギセル					NT		NT		
20			ツバクロイワギセル					VU	VU			
21			ハチノコギセル					NT		NT		
22			ツメギセル					NT				
23			チュウゼンジギセル					NT				
24			クビナガギセル					VU		VU		
25			エルベリギセル					DD				
26			ヒメギセル							NT		
27		ナタネガイモドキ	ナタネガイモドキ					NT	NT			
28		オオコウラナメクジ	ヤマコウラナメクジ					NT	DD			
29		ナメクジ	イボイボナメクジ					NT	DD	NT		
30		ベッコウマイマイ	ミドリベッコウ					DD				
31			カントウベッコウ					DD		NT		
32			ヒメハリマキビ					NT		NT		
33	スジキビガイ						NT		NT			

表 4-1-48(2) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
34	(汎有肺)	(ベッコウマイマイ)	カサネシタラガイ					NT	NT	NT		
35			ウメムラシタラガイ					NT		NT		
36			オオウエキビ					DD				
37			タカキビ					NT		NT		
38			ヒメカサキビ					NT		NT		
39			サドタカキビ					DD	DD			
40		ナンバンマイマイ	ミニビロウドマイマイ					VU	DD	VU		
41			ヒメビロウドマイマイ					VU				
42			キヌビロウドマイマイ					NT				
43		オナジマイマイ	オモイガケナマイマイ		国内		県指	CR+EN	CR	CR		
44			コケラマイマイ					NT				
45			ミヤマヒダリマキマイマイ					VU	NT	VU		
46			ミカワマイマイ					CR+EN	EN	CR		
47			イシマキシロマイマイ					VU	NT	VU		
計	3目	17科	47種	0種	1種	0種	1種	41種	21種	31種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「日本陸産貝類総目録」(日本陸産貝類総目録刊行会、昭和63年)に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑨ 注目すべき生息地の状況

調査区域における注目すべき生息地は表 4-1-49、図 4-1-23 に示すとおりです。
環境省が選定している「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（重要湿地）として、「浜名湖周辺湧水湿地群」、「浜名湖」が分布しています。

表 4-1-49 注目すべき生息地

No	生息域		生物分類群	選定基準・理由	選定基準
1	浜名湖 周辺湧水 湿地群	雨生山南東麓	湿原植生	生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合。 ミカワバイケイソウ等東海丘陵要素植物の東限に位置するほか、湿生植物の生育地として重要。	2
2		宇利峠西			
3		梅田北湿地			
4	浜名湖		海草・海藻	生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合。 本州太平洋岸中部の潟湖アマモ場の典型。広大な汽水域に成立したアマモ場。	1
			底生動物	希少種、固有種等が生育・生息している場合。 砂泥底とアマモ場からなる環境に多様なベントスが生息する。イボキサゴが優占し、ナメクジウオやミドリシャミセンガイ、ミサキギボシムシ等が生息する。	2

注1) 選定基準は以下のとおりである。

1. 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、さんご礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合
2. 希少種、固有種等が生育・生息している場合
3. 多様な生物相を有している場合（ただし、外来種を除く）
4. 特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合
5. 生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、繁殖場等）である場合

注2) 浜名湖周辺湧水湿地群の個別の湿地位置は、「東海地方の湧水湿地」（2019年 湧水湿地研究会）を参考に調査区域内に位置するものを図示した。

出典：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省ホームページ）

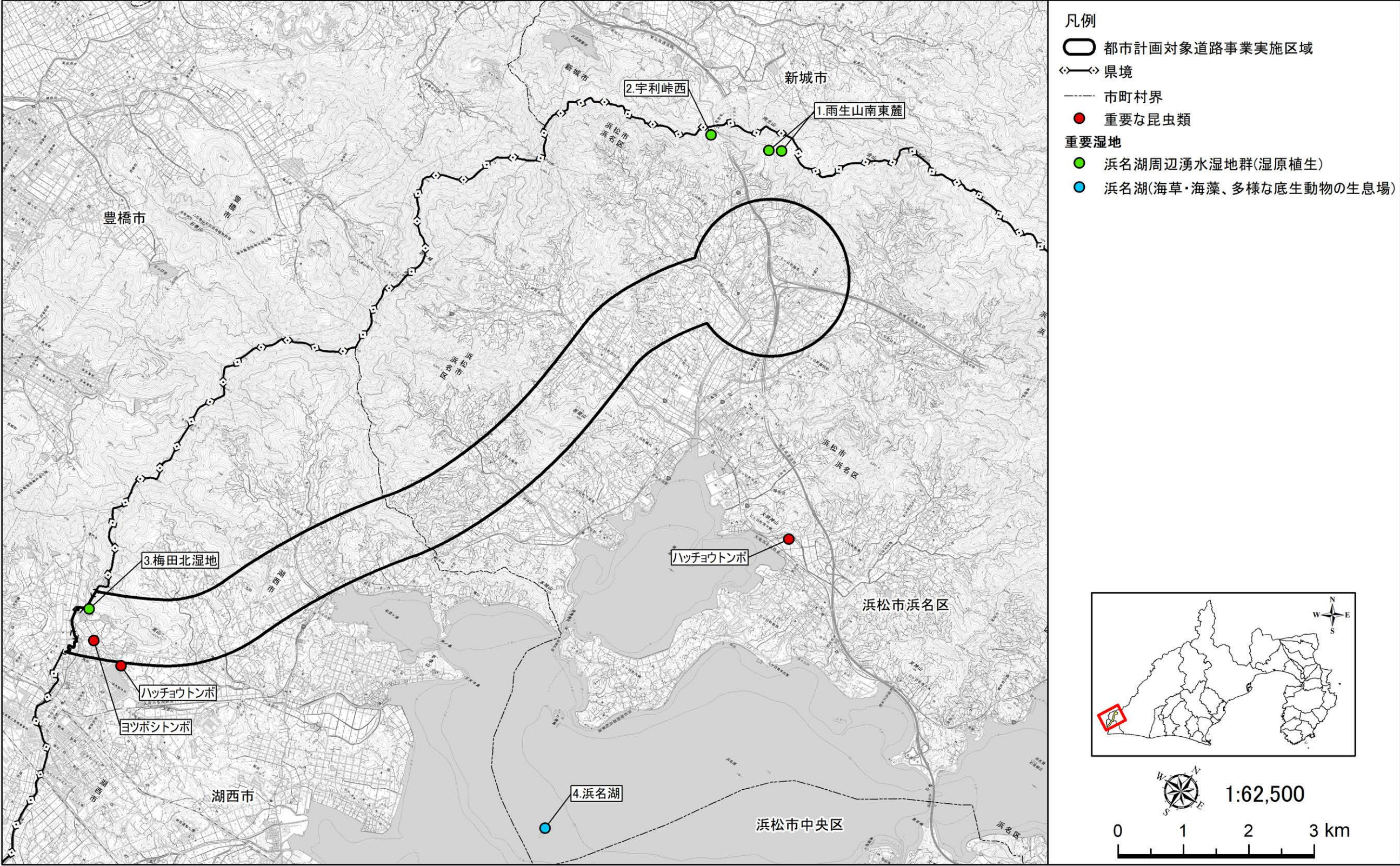


図 4-1-23 文献による重要な動物確認位置及び注目すべき生息地の位置図

(3) 植物の生育及び植生の状況

1) 植物相の状況

既存資料において、調査区域での確認記録のある植物はコシダ、コナギ、スダジイ、クチナシ、ノコンギク等の 185 科 2,619 種です。

当該地域に特徴的な種として、シデコブシ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ等の東海丘陵要素(東海地方の台地や丘陵地に形成された湿地に生育する種)やシライトソウ、ヒメシャラ、モチツツジ等の襲速紀要素(ソハヤキ要素：中央構造線の太平洋側に沿って北上した暖地性の植物が分布する九州中南部・四国南部・紀伊半島・東海地方に分布の中心がある種)の種が含まれています。

2) 植生の状況

環境省が実施した「第 6 回自然環境保全基礎調査植生調査」及び「第 7 回自然環境保全基礎調査植生調査」に基づく植生図を図 4-1-24 に示します。

事業実施区域及びその周囲は、奥浜名湖をとりまく山地・丘陵地となっており、果樹園やスギ・ヒノキ・サワラ植林、コナラ群落 (VII)、シイ・カシ二次林等が分布しています。事業実施区域の北側の丘陵の尾根部には、アカマツ群落 (VII) が分布します。

浜名湖に注ぐ河川周辺には水田雑草群落、浜名湖岸にはわずかにヨシクラスの植生が見られます。その他、低地部や丘陵地下部では、市街地や緑の多い住宅地、畑雑草群落が分布します。

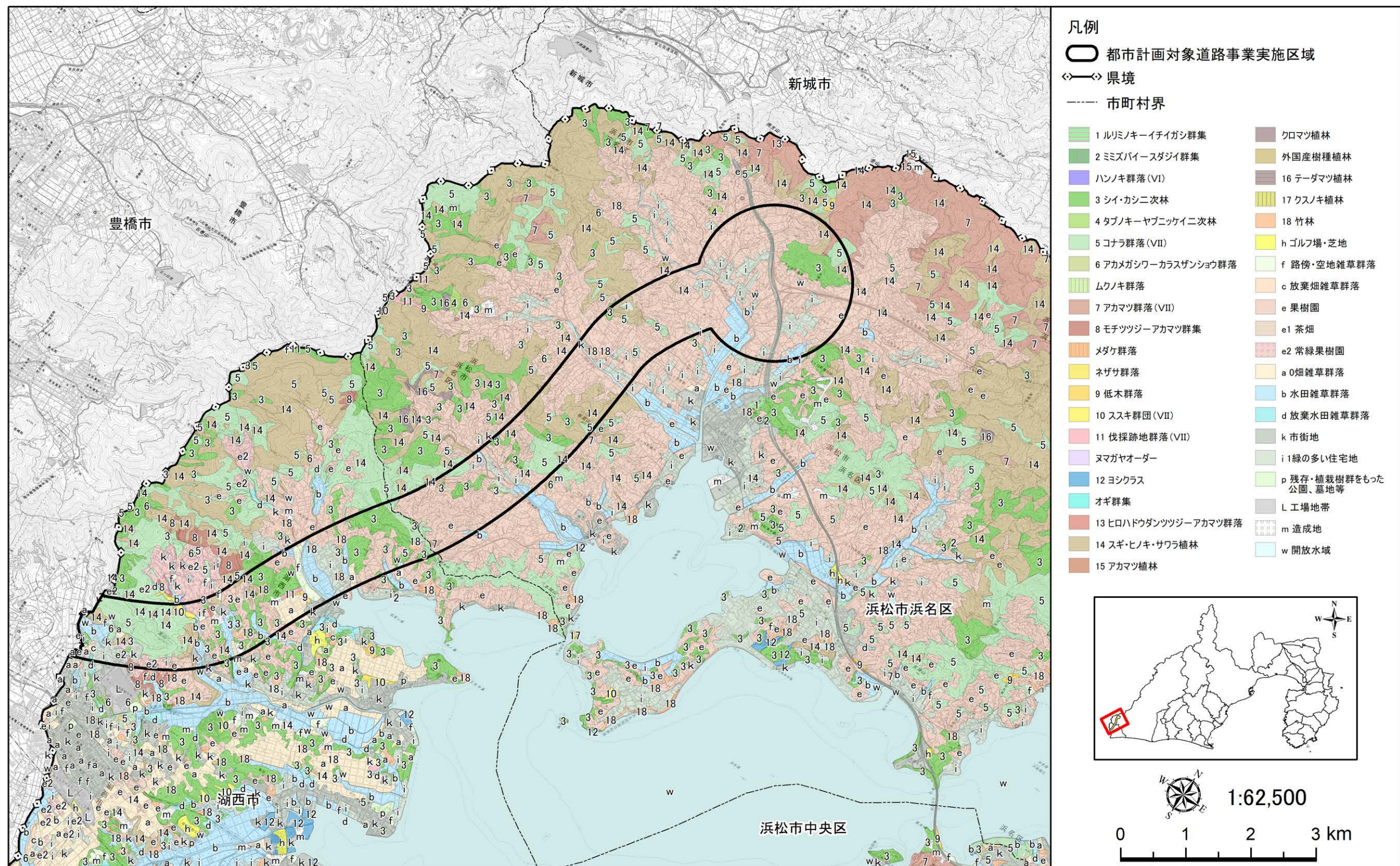


図 4-1-24 植生図

3) 植物の重要な種

植物の重要な種の選定基準を表 4-1-50(1)～(2)に示します。

調査区域において確認記録のある植物の重要な種はホテイラン、ナガバノイシモチソウ等の 126 科 638 種で、表 4-1-51(1)～(13)に示すとおりです。

なお、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-50(1) 植物の重要な種の選定基準

植物の重要な種の選定基準		
1	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日法律第 22 号）に基づく天然記念物及び特別天然記念物	・特別天然記念物（特天） ・天然記念物（天）
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号、最終改正：令和 2 年 12 月 16 日政令第 352 号）に基づく国内希少野生動植物種等	・国内希少野生動植物種（国内） ・緊急指定種（緊急）
3	「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号）に基づく指定希少野生動植物種	・県指定種（県指）
4	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年 3 月 30 日愛知県条例第 3 号、最終改正：平成 22 年 3 月 26 日愛知県条例第 12 号）に基づく指定希少野生動植物種	・県指定種（県指）
5	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年 3 月）の掲載種	・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・CR：絶滅危惧ⅠA類 ・EN：絶滅危惧ⅠB類 ・VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：絶滅のおそれのある地域個体群
6	「まもりたい静岡県の野生生物 2020－静岡県レッドデータブック<植物・菌類編>」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月）の掲載種	・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・CR：絶滅危惧ⅠA類 ・EN：絶滅危惧ⅠB類 ・VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：地域個体群 要注目種：（静岡県独自の 카테고리） ・N-I：現状不明 ・N-II：分布上注目種等 ・N-III：部会注目種

表 4-1-50(2) 植物の重要な種の選定基準

植物の重要な種の選定基準		
7	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2020-植物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群
8	「静岡県立自然公園条例」（昭和 36 年 10 月 4 日静岡県条例第 53 号、最終改正：令和元年 10 月 25 日静岡県条例第 15 号）に基づく浜名湖県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	・ ○：静岡指定

表 4-1-51(1) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
1	ヒカゲノカズラ	ミズスギ								○
2		アスヒカズラ						N-III	VU	
3		スギラン					VU	VU	VU	○
4		ヒモラン					EN	CR	CR	
5	イワヒバ	エゾノヒメクラマゴケ							EN	
6		イワヒバ								○
7	ミズニラ	ミズニラ					NT	VU	NT	○
8	トクサ	イヌスギナ							VU	
9	ハナヤスリ	ナガホノナツノハナワラビ							NT	
10		ハマハナヤスリ						N-III		○
11		ヒロハハナヤスリ							VU	
12	マツバラン	マツバラン					NT	VU	VU	○
13	コケシノブ	コホラゴケ					NT		VU	
14		チチブホラゴケ						N-III	EN	
15		オオハイホラゴケ						N-III		
16	デンジソウ	デンジソウ					VU	CR	CR	○
17	サンショウモ	オオアカウキクサ					EN	VU	CR	○
18		アカウキクサ					EN	VU	CR	○
19		サンショウモ					VU	VU	CR	○
20	キジノオシダ	ヤマソテツ						CR	VU	
21	ホングウシダ	エダウチホングウシダ						N-III		○
22	コバノイシカグマ	ユノミネシダ						VU		○
23		イシカグマ							NT	○
24	イノモトソウ	タキミシダ					EN	VU	EN	
25		ナカミシラン						VU	EN	
26		アイコハチジョウシダ						VU		
27		マツサカシダ							EN	
28		ナチシダ								○
29	ナヨシダ	エビラシダ							EN	
30	チャセンシダ	カミガモシダ						EN	EN	○
31		ヒノキシダ						VU	EN	
32		オクタマシダ					VU		VU	
33		イチョウシダ					NT	EN		
34		コタニワタリ						N-III	EN	
35		テンリュウヌリトラノオ					VU	NT	EN	
36		アオチャセンシダ						N- I		
37		ホウビシダ							VU	
38	ヒメシダ	ミヤマワラビ							NT	
39		ヒメハシゴシダ						N- II		
40		テツホシダ						N-III	EX	○
41		ミゾシダモドキ						N-III		
42		オオバショリマ							CR	
43	イワデンダ	コガネシダ						EN	VU	
44	メシダ	テバコワラビ					VU	VU		
45		ミヤマメシダ							CR	
46		ルリデライヌワラビ						EN		
47		コヒロハシケシダ							VU	
48		ミドリワラビ						EN	CR	
49		ニセコクモウクジャク						VU	EN	○
50		ウスバミヤマノコギリシダ						N-III	VU	
51		ミヤマシダ							EX	
52		コクモウクジャク							VU	

表 4-1-51(2) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
53	オンダ	ヒロハヤブソテツ						VU	VU	
54		ツクシヤブソテツ						VU		
55		ツクシイワヘゴ						N-III	NT	○
56		タカサゴシダ					NT	N-II	EN	○
57		サクライカグマ							EN	
58		ヌカイタチシダ							NT	
59		ヌカイタチシダモドキ						N-III		
60		ワカナシダ							EN	
61		アツギノヌカイタチシダマガイ						VU		○
62		ヌカイタチシダマガイ						VU		○
63		タニヘゴ						VU		○
64		ナンカイイタチシダ							NT	
65		ヒロハアツイタ					VU	EN		
66		ホソイノデ							EN	
67		オリヅルシダ							EX	
68		フジイノデ						N-II		
69	ウラボシ	アオネカズラ						N-III		
70		ミョウギシダ					EN	EN		
71		ホテイシダ							NT	
72		クラガリシダ					EN	EN	EN	
73		コウラボシ								○
74		イシガギコウラボシ							VU	
75		イワヒトデ								○
76		オオクボシダ							NT	
77		ヒロハヒメウラボシ					CR	CR		
78		イワオモダカ							EN	
79	マツ	タカノハウラボシ						VU		
80		ウラジロモミ							NT	
81	コウヤマキ	ハリモミ							VU	
82		コウヤマキ							NT	
83	ヒノキ	ハイネズ							VU	
84		ネズミサシ							NT	
85	イチイ	イチイ							EN	
86	ジュンサイ	ジュンサイ						NT		○
87	スイレン	オニバス					VU	VU	CR	
88		コウホネ							EN	
89		ヒメコウホネ					VU	DD	CR	
90		ヒツジグサ						EN		○
91	ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ							VU	
92		ヒメカンアオイ								○
93		イワタカンアオイ					VU	VU	EN	○
94		ウスバサイシン						N-III		
95		テンリュウカンアオイ						DD		
96	モクレン	オオヤマレンゲ						EN		
97		シデコブシ					NT		VU	
98	クスノキ	バリバリノキ						N-III	VU	○
99		シロモジ						VU		
100		アオガシ						DD		
101	サトイモ	シコクヒロハテンナンショウ					EN	EN		
102		ヒトツバテンナンショウ						VU	CR	
103		ユモトマムシグサ							EN	
104		ミツバテンナンショウ						N-III		
105		ヒンジモ					VU	VU		○

表 4-1-51(3) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
106	チシマゼキショウ	イワショウブ							VU	○
107	オモダカ	マルバオモダカ					VU	CR	EN	○
108		アギナシ					NT	VU		○
109	トチカガミ	マルミスブタ					VU	VU	VU	○
110		スブタ					VU	VU	CR	○
111		トチカガミ					NT	VU	EN	○
112		ムサシモ					EN	EN	EN	○
113		ヒロハトリゲモ					VU		VU	○
114		イトトリゲモ					NT	VU	NT	○
115		イバラモ						N- I	CR	○
116		トリゲモ					VU	VU		○
117		ミズオオバコ					VU	N-III		
118	シバナ	シバナ					NT	CR	NT	○
119	アマモ	コアマモ						NT		○
120	ヒルムシロ	イトモ					NT	VU	NT	○
121		ヒルムシロ							NT	
122		オヒルムシロ							VU	
123		ヒロハノエビモ						N- I		
124		ツツイトモ					VU	VU		○
125		リュウノヒゲモ					NT	EN		
126		イトクズモ					VU	VU	CR	○
127	カワツルモ	カワツルモ					NT	VU	NT	○
128	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ						N-III	NT	○
129	ヤマノイモ	キクバドコロ							VU	
130	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ					VU	EN		○
131	シュロソウ	シライトソウ								○
132		チャボシライトソウ					VU	EN	EN	
133		エンレイソウ							EN	
134		ミカワバイケイソウ					VU	EN	EN	○
135	ユリ	ヒロハノアマナ					VU	CR	EN	○
136		カタクリ						N-III		○
137		ミノコバイモ					VU		EN	
138		コシノコバイモ						EN	CR	
139		ヒメアマナ					EN	EN		
140		キバナノアマナ						VU	EN	
141		ササユリ								○
142		スカシユリ								○
143		ホソバナノアマナ						N-III	EN	
144		チャボホトトギス						VU		
145		アマナ						N-III		
146	ラン	ヒナラン					EN	EN	EX	
147		イワチドリ					EN	CR	EX	
148		シラン					NT	NT	NT	○
149		マメヅタラン					NT	NT		○
150		ムギラン					NT	NT		
151		ミヤマムギラン					NT	NT	NT	○
152		キソエビネ					CR	CR		
153		キエビネ					EN	CR		
154		エビネ					NT	NT	NT	○
155		キンセイラン				県指	VU	CR	CR	
156		ナツエビネ					VU	VU	VU	○
157		ホテイラン			県指		EN	CR		
158		ギンラン						N-III		○

表 4-1-51(4) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
159	(ラン)	キンラン					VU	NT	NT	○
160		ササバギンラン							NT	
161		ユウシュンラン					VU	EN	VU	
162		シュンラン								○
163		マヤラン					VU	EN	CR	
164		ナギラン					VU	VU	CR	○
165		コアツモリソウ					NT	VU	EN	
166		クマガイソウ					VU	VU	VU	○
167		イチヨウラン						VU	NT	
168		セッコク						NT	NT	
169		サワラン						CR	CR	○
170		ハコネラン					VU	EN		
171		コイチヨウラン							VU	
172		カキラン								○
173		タシロラン					NT	NT	NT	○
174		カモメラン					NT	EN		
175		カシノキラン					VU	EN	CR	
176		マツラン					VU	VU	EN	
177		モミラン					VU	VU		
178		アキザキヤツシロラン							VU	○
179		ナヨテンマ					EN	EN	CR	
180		ハルザキヤツシロラン					VU	VU		○
181		クロヤツシロラン						NT		○
182		ベニシュスラン						N-III	VU	
183		アケボノシュスラン						N-III		○
184		ヒロハツリシュスラン					EN	EN		
185		ミヤマウズラ								○
186		シュスラン						N-III	VU	○
187		ダイサギソウ					EN	EN		
188		オオミズトンボ					EN	EN	EX	
189		ミズトンボ					VU	VU	VU	○
190		ムカゴソウ					EN	VU	EX	
191		ムヨウラン								○
192		ウスキムヨウラン					NT	NT	VU	○
193		クロムヨウラン							VU	○
194		エンシュウムヨウラン						VU		
195		セイタカスズムシソウ						EN	EN	
196		ジガバチソウ								○
197		クモキリソウ								○
198		スズムシソウ						VU	CR	
199		コ克蘭								○
200		クモイジガバチ					CR	CR		
201		ホザキイチヨウラン						N-III		
202		アリドオシラン						N-III		
203		フウラン					VU	VU	EN	
204		ノビネチドリ						N-III	EN	
205		コフタバラン							VU	
206		ヒメフタバラン						N-III		○
207		アオフタバラン						N-III		
208		ムカゴサイシン					EN	CR		
209		ヨウラクラン								○
210		コハ克蘭		国内			CR	N-III		
211		サギソウ					NT	VU	VU	○

表 4-1-51(5) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
212	(ラン)	ムカデラン					VU	VU	EN	
213		ムカゴトンボ					EN	CR	EX	
214		ガンゼキラン					VU	CR		
215		イイヌマムカゴ					EN	EN	EN	
216		ツレサギソウ						VU	CR	
217		ヤマサギソウ							VU	○
218		タカネサギソウ						N- II		
219		コバノトンボソウ								○
220		オオヤマサギソウ						VU	VU	
221		トンボソウ								○
222		トキソウ					NT	EN	EN	○
223		ヤマトキソウ						VU	VU	○
224		ヒナチドリ					VU	EN		
225		ウチョウラン					VU	VU	EN	
226		ニョホウチドリ					NT	VU		
227		クモラン								○
228		カヤラン								○
229		ヒトツボクロ						N-III		○
230		キバナノショウキラン					EN	VU		
231		カゲロウラン					NT	VU		○
232	アヤメ	ヒオウギ							EN	○
233		ノハナショウブ								○
234		ヒメシャガ					NT	EN		
235		カキツバタ					NT	VU	VU	○
236	ススキノキ	ユウスゲ								○
237		ゼンテイカ							EN	
238		ハマカンゾウ								○
239	ヒガンバナ	ステゴビル					VU	EN	EN	○
240		ヒメニラ						N-III	NT	
241		オオキツネノカミソリ						N-III		
242	クサスギカズラ	ウラジロギボウシ				県指	EN	DD	CR	
243		アキギボウシ							VU	
244		ミズギボウシ								○
245		マイヅルソウ							NT	
246		ワニグチソウ							EN	
247	ツユクサ	マルバツユクサ								○
248	ミズアオイ	ミズアオイ					NT	VU	CR	○
249	ガマ	ミクリ					NT	NT	EN	○
250		オオミクリ					VU	VU		○
251		ヤマトミクリ					NT	VU	VU	
252		ナガエミクリ					NT	NT		○
253		ヒメミクリ					VU	VU	CR	○
254	ホシクサ	クロイヌノヒゲ					NT	NT		
255		ゴマシオホシクサ					EN	EN		
256		シラタマホシクサ					VU	VU	VU	○
257		クロホシクサ					VU	EN	EN	○
258	イグサ	イヌイ						N- I	CR	
259	カヤツリグサ	コウキヤガラ						N-III		○
260		イトテンツキ					NT	VU	NT	
261		トダスゲ					CR	EN	EX	
262		ハリガネスゲ						VU		○
263		ヤマアゼスゲ						N-III		
264		ホソバヒカゲスゲ						VU		○

表 4-1-51(6) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
265	(カヤツリグサ)	サワヒメスゲ						VU		○
266		キシウナキリスゲ					VU	VU	NT	○
267		タカネマスキサ							EN	
268		ヒメモエギスゲ							VU	
269		オオクグ					NT	EN		○
270		ジングウスゲ					NT	VU	NT	○
271		ニシノホンモンジスゲ						N- II	VU	
272		アオヒエスゲ							VU	
273		ヒメアオガヤツリ						N-III	CR	
274		ヌマガヤツリ							NT	
275		シロガヤツリ						N-III		○
276		ヒメガヤツリ							VU	
277		カガシラ					VU	VU	CR	○
278		セイタカハリイ							VU	
279		マシカクイ						N- II	VU	○
280		クグテンツキ							VU	
281		イッスンテンツキ					CR	CR	CR	○
282		ナガボテンツキ							CR	
283		ピロードテンツキ							VU	
284		トネテンツキ					VU	EN	VU	
285		トラノハナヒゲ							EN	
286		オオイヌノハナヒゲ							VU	
287		ミクリガヤ					EN	EN	CR	○
288		ハタベカンガレイ					VU	VU	CR	
289		タイワンヤマイ						N- I		
290		ノグサ							EN	
291		コマツカサススキ						N-III		○
292		マツカサススキ						N-III		
293		ミカワシンジュガヤ					VU	EN	VU	○
294		コシンジュガヤ							VU	
295		ケシンジュガヤ						N-III		
296	イネ	ヒロハノハネガヤ							VU	
297		ヒメコヌカグサ					NT	NT		○
298		ミギワトダシバ					VU	VU		
299		コウヤザサ						N-III		○
300		ヒナザサ					NT	VU	VU	
301		コゴメカゼクサ							VU	
302		ウンヌケモドキ					NT	VU	VU	○
303		ウンヌケ					VU	VU	NT	○
304		オオトボシガラ						N-III		
305		アズマガヤ						VU		
306		カモノハシ							VU	
307		ナリヒラダケ							VU	
308		ハマエノコロ							NT	
309		ヒゲシバ							VU	
310		オニシバ							NT	
311	ケシ	ツルケマン						EN		
312		ヤマキケマン						N- I	EN	
313	ツヅラフジ	ハスノハカズラ						N-III		○
314	メギ	ヒロハヘビノボラズ						EN		
315		ルイヨウボタン							VU	
316		イカリソウ							VU	○

表 4-1-51(7) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
317	キンポウゲ	ヤマトリカブト							EN	
318		キタザワブシ					VU	N-III		
319		ルイヨウショウマ							EN	
320		フクジュソウ						VU		
321		イチリンソウ						N-III		
322		キクザキイチゲ						N-III		
323		アズマイチゲ						N-III	NT	
324		レンゲショウマ						N-III	EN	
325		フジセンニンソウ							VU	
326		カザグルマ					NT	VU	EN	○
327		クサボタン							VU	
328		ハコネシロカネソウ					NT	VU		
329		セツブンソウ					NT	VU	VU	
330		ミスミソウ					NT	VU	NT	○
331		オキナグサ					VU	EN	CR	○
332		シギンカラマツ							NT	
333		ヒメカラマツ						N- II		
334		オオカラマツ						N-III		
335		タマカラマツ					VU	VU	CR	
336	アワブキ	ヤマビワ							EN	
337	ヤマモガシ	ヤマモガシ							VU	
338	ツゲ	ツゲ						N-III	VU	○
339	ボタン	ヤマシャクヤク					NT	NT	VU	
340		ベニバナヤマシャクヤク					VU	CR	EN	○
341	マンサク	コウヤミズキ						VU		○
342		マンサク								○
343		トキワマンサク					EN	EN		○
344	スグリ	ヤシャビシャク					NT	VU	EN	
345		ヤブサンザシ						VU	VU	
346	ユキノシタ	キバナハナネコノメ					NT	NT	NT	
347		ツルネコノメソウ							VU	
348		ミカワチャルメルソウ						N- II		
349	ベンケイソウ	ツメレンゲ					NT	NT	NT	
350		マツノハマネンゲサ					VU	VU		
351		アズマツメクサ					NT	N-III		
352	タコノアシ	タコノアシ					NT	NT	NT	
353	アリノトウグサ	タチモ					NT	EN	NT	○
354		フサモ						N-III		
355	マメ	モメンヅル						N- I		
356		ハマナタマメ							EN	
357		シバハギ							CR	
358		ミヤマトベラ						VU	EN	
359		サイカチ							VU	
360		オオバヌスビトハギ							VU	
361		イタチササゲ							VU	
362		レンリソウ						VU	VU	
363		イヌハギ					VU	EN	VU	○
364		マキエハギ								○
365		ミゾナオシ							VU	
366		ノハラクサフジ							EN	
367		ヨツバハギ							VU	
368		オオバクサフジ							NT	
369	ヒメハギ	ヒナノカンザシ						VU		○

表 4-1-51(8) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
370	グミ	アリマグミ							VU	○
371	クロウメモドキ	ケンボナシ							EN	
372	アサ	コバノチョウセンエノキ						EN	EN	
373		カラハナソウ						N-III		
374	クワ	カジノキ							EN	
375	イラクサ	ヤナギイチゴ							NT	
376	バラ	ヤマブキショウマ							VU	
377		ミヤマザクラ							NT	
378		シモツケソウ							EN	
379		イワキンバイ							VU	
380		ヒロハノカワラサイコ					VU	N- I	CR	
381		ミヤコイバラ								○
382		ミヤマモミジイチゴ					NT	N-III		
383		ミヤマワレモコウ						VU	EN	
384		ナガボノワレモコウ						N-III		
385		アイズシモツケ							EN	
386		イワシモツケ							CR	
387	ブナ	ナラガシワ							EN	
388	カバノキ	サクラバハシノキ					NT	NT		○
389		ウダイカンバ							VU	
390		オノオレカンバ							VU	
391	ニシキギ	ウメバチソウ								○
392	カタバミ	コミヤマカタバミ							NT	
393		ミヤマカタバミ							NT	
394	ホルトノキ	ホルトノキ							VU	
395	トウダイグサ	ノウルシ					NT	VU		○
396	コミカンソウ	ヒトツバハギ						EN		○
397	ヤナギ	キヌヤナギ							NT	
398	スミレ	アリアケスミレ								○
399		ナガバノスミレサイシン								○
400		ヒゴスミレ						N-III		
401		エイザンスミレ								○
402		サクラスミレ						VU	NT	
403		ヒメスミレ								○
404		コスミレ								○
405		マルバースミレ								○
406		スミレ								○
407		ニオイタチツボスミレ								○
408		キスミレ						VU	CR	○
409		ナガバタチツボスミレ								○
410		シロスミレ							CR	
411		アカネスミレ								○
412		オカスミレ								○
413		ミヤマスミレ						EN		
414		フモトスミレ								○
415		フジスミレ						N- I		
416		マキノスミレ								○
417		シハイスミレ								○
418		ノジスミレ								○
419	オトギリソウ	コオトギリ						NT		
420		アゼオトギリ					EN	EN	EN	
421	フウロソウ	イヨフウロ					NT	N-III		
422		ミツバフウロ							EN	

表 4-1-51(9) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
423	ミソハギ	ヒメミソハギ							NT	
424		ミズスギナ					CR	DD	EX	
425		ミズマツバ					VU	NT		○
426		ミズキカシグサ					VU	EN	VU	○
427		ヒメビシ					VU	EN	EN	○
428	アカバナ	ウスゲチョウジタデ					NT	NT		
429	ムクロジ	ホソエカエデ							VU	
430		カジカエデ							NT	
431		ハウチワカエデ							VU	
432	アオイ	ハマボウ							VU	○
433	ジンチョウゲ	コショウノキ								○
434		チョウセンナニワズ					VU	VU		
435		ガンピ								○
436	アブラナ	カンラン					EN	CR	CR	
437		コンロンソウ							EN	
438		ミズタガラシ							NT	
439		エゾハタザオ						VU		
440	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ					VU	VU	CR	
441	タデ	オオツルイタドリ							CR	
442		サイコクヌカボ					VU	VU	NT	
443		ヤナギヌカボ					VU	NT		○
444		ナガバノウナギツカミ					NT	N-III	NT	
445		ヌカボタデ					VU	VU	VU	○
446		オオミゾソバ							NT	
447		コギシギシ					VU	EN		○
448		マダイオウ							EN	
449	モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ				県指	VU	EN	CR	○
450		シロバナナガバノイシモチソウ				県指			CR	
451		イシモチソウ					NT	VU	EN	○
452		モウセンゴケ								○
453		コモウセンゴケ								○
454		トウカイコモウセンゴケ								○
455	ナデシコ	オオヤマフスマ							VU	
456		ヒゲネワチガイソウ						N-III	EN	
457		オオビランジ					NT	VU		
458	ヒユ	ホソバハマアカザ						N-III		
459		マルバアカザ							NT	
460		カワラアカザ							NT	
461		ミドリアカザ					CR	N-III		
462		イワアカザ					CR		CR	
463	アジサイ	ビロードノリウツギ							VU	
464		バイカアマチャ							NT	
465	ツリフネソウ	エンシュウツリフネソウ					EN	VU		
466	カキノキ	トキワガキ								○
467	サクラソウ	オオツルコウジ					EN	EN	DD	
468		クリンソウ						EN	NT	
469		コイワザクラ					VU	VU		
470		シナノコザクラ					NT	VU		
471	ハイノキ	クロミノニシゴリ						NT		○
472		カンザブロウノキ							VU	○
473	イワウメ	ヤマイワカガミ								○
474		イワウチワ						N- I		

表 4-1-51(10) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
475	ツツジ	サラサドウダン							NT	
476		カイナンサラサドウダン						VU		
477		シャクジョウソウ							NT	○
478		ハナヒリノキ							VU	
479		ギンリョウソウモドキ								○
480		ギンリョウソウ								○
481		ベニバナイチヤクソウ							CR	
482		ミツバツツジ								○
483		サツキ								○
484		ヤマツツジ								○
485		モチツツジ								○
486		ホソバシャクナゲ					VU	NT	VU	
487		コバノミツバツツジ								○
488		ジングウツツジ					VU	VU	EN	
489		オオヤマツツジ						VU		○
490		ナガボナツハゼ				県指	CR	EN	CR	○
491	アカネ	ナガバジュズネノキ						VU	EN	○
492		キクムグラ							NT	
493		ルリミノキ							NT	○
494		ヒロハコンロンカ						N-II		
495		イナモリソウ						N-III		○
496		オオキヌタソウ							EN	
497	リンドウ	リンドウ								○
498		コケリンドウ							VU	
499		ハレリンドウ								○
500		ホソバノツルリンドウ						VU		
501		センブリ								○
502		ムラサキセンブリ					NT	VU	VU	○
503		イヌセンブリ					VU	NT	NT	○
504		ヒメナエ					VU	VU	CR	○
505	キョウチクトウ	コイケマ							NT	
506		シタキシソウ							VU	○
507		キジョラン								○
508		クサタチバナ					NT	EN	CR	
509		フナバラソウ					VU	N-III	EN	○
510		クサナギオゴケ					VU	NT	NT	○
511		タチガシワ							CR	
512		スズサイコ					NT	NT		○
513		マメダオシ					CR	N-III	EX	
514	ナス	ヤマホオズキ					EN	EN	VU	
515		アオホオズキ					VU	NT	VU	
516	ムラサキ	ホタルカズラ							EN	
517		ムラサキ					EN	EN	EX	○
518		ミズタビラコ							NT	
519	モクセイ	ミヤマアオダモ							VU	
520		トネリコ						N-I	EN	
521		ハシドイ						VU	NT	
522	オオバコ	マルバノサワトウガラシ					VU	EN	NT	○
523		オオアブノメ					VU	VU	VU	○
524		トウオオバコ							EN	
525		ハマクワガタ					VU	N-III		
526		イヌノフグリ					VU	NT		○
527		カワヂシャ					NT			

表 4-1-51(11) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
528	ゴマノハグサ	サツキヒナノウスツボ						N- I		
529	シソ	タチキランソウ					NT	NT		○
530		タニジャコウソウ					NT		EN	
531		ジャコウソウ							VU	
532		アシタカジャコウソウ						N-III	EN	
533		セキヤノアキチョウジ								○
534		オドリコソウ								○
535		キセワタ					VU	EN	CR	
536		マネキグサ					NT	NT		○
537		ラショウモンカズラ						VU		
538		ヤマジソ					NT	VU	VU	○
539		ミズネコノオ					NT	EN	VU	○
540		ミズトラノオ					VU	EN	VU	○
541		シマジタムラソウ					VU	VU	NT	○
542		ミゾコウジュ					NT	NT		○
543		ヤマジノタツナミソウ						VU		
544		ヒメナミキ						VU	NT	○
545		コバノタツナミ								○
546		シソバタツナミ						N-III		
547		ホナガタツナミソウ								○
548		イブキジャコウソウ							CR	
549		カリガネソウ						NT		○
550	ハエドクソウ	スズメノハコベ					VU	VU	NT	○
551	ハマウツボ	オオナンバンギセル							EX	
552		ゴマクサ					VU	EN	VU	○
553		イズコゴメグサ					EN	VU	EX	○
554		シコクママコナ								○
555		クチナシグサ								○
556		ハマウツボ					VU	VU	CR	○
557		ミカワシオガマ					VU	EX	EN	
558		シオガマガク							EN	
559		キヨスミウツボ						N-III	VU	
560		センリゴマ					CR			
561		ヒキヨモギ						N-III	NT	
562		オオヒキヨモギ					VU	NT		○
563	タヌキモ	ノタヌキモ					VU	VU	VU	○
564		イヌタヌキモ					NT	VU		
565		ミミカキグサ								○
566		ホザキノミミカキグサ								○
567		フサタヌキモ					EN	CR	EX	○
568		ミカワタヌキモ					VU	EN	EN	○
569		タヌキモ					NT	VU		
570		ヒメタヌキモ					NT	EN	EN	○
571		ヒメミミカキグサ					EN	EN	EN	○
572		ムラサキミミカキグサ					NT	VU	NT	○
573	モチノキ	ナナミノキ							VU	
574	キキョウ	ソバナ							NT	
575		イワシャジン						N-III	VU	
576		シデシャジン						N-III		○
577		ツルギキョウ					VU	VU		○
578		シブカワニンジン						N- II		
579		バアソブ					VU	VU	EX	○
580		サワギキョウ						NT		○

表 4-1-51(12) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
581	(キキョウ)	キキョウ					VU	VU	VU	○
582	ミツガシワ	ヒメシロアサザ					VU	EN	EN	○
583		ガガブタ					NT	VU	NT	○
584	キク	エンシュウハグマ								○
585		ヒメヨモギ							CR	
586		ヒメシオン							VU	
587		ヤマジノギク							CR	○
588		ヤナギノギク					VU	VU	VU	
589		シブカワシロギク					EN	VU		○
590		オオガンクビソウ							EN	
591		イソギク							CR	○
592		フジアザミ							EX	
593		ワタムキアザミ					VU	NT		
594		イズハハコ					VU	NT	VU	○
595		フジバカマ					NT	VU	EN	
596		スイラン								○
597		ミズギク						N-III	NT	○
598		カセンソウ							EN	
599		ホソバニガナ					EN	VU		
600		クモマニガナ						VU		
601		タカサゴソウ					VU	VU		
602		ノニガナ						N-III		
603		カワラニガナ					NT	NT		
604		ミコシギク					VU	CR	CR	○
605		オタカラコウ								○
606		ハンカイソウ								○
607		ネコノシタ							NT	○
608		ミヤマコウモリソウ							VU	
609		オクヤマコウモリ							EN	
610		アキノハハコグサ					EN	VU	EN	
611		ホクチアザミ						N- II	VU	
612		ミヤコアザミ							VU	
613		ネコヤマヒゴタイ					VU	EN		○
614		ヒメヒゴタイ					VU	EN	EX	○
615		ヤハズトウヒレン						VU		
616		キクアザミ							EN	
617		アオヤギバナ							VU	
618		サワオグルマ								○
619		タカネコウリンカ					NT	NT		
620		ウラギク					NT	VU		○
621	セリ	イワニンジン							VU	
622		ミシマサイコ					VU	VU	EN	○
623		ホタルサイコ							EX	
624		ドクゼリ						N- I		○
625		ハマボウフウ								○
626		イブキボウフウ							VU	
627		カワラボウフウ						N- I		
628		フキヤミツバ					VU	EN	CR	○
629		ヌマゼリ					VU		EX	○
630	ガマズミ	レンプクソウ						N-III		
631		ミヤマシグレ							EN	
632	スイカズラ	ベニバナノツクバネウツギ							NT	
633		ナベナ						N-III	VU	

表 4-1-51(13) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
634	(スイカズラ)	キダチニンドウ							VU	○
635		ヤマヒョウタンボク						N-III		○
636		キンレイカ							DD	
637		マツムシソウ							NT	○
638		イワツクバネウツギ					VU	EN	EN	
計	126 科	638 種	0 種	1 種	1 種	5 種	236 種	385 種	383 種	266 種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-50に示すとおりである。

4) 重要な植物群落等

① 特定植物群落

「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)、
「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)及び「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)によると、調査区域では、特定植物群落として表4-1-52に示すとおり、浜松市で「尾奈のマンサク群落」等の2件、湖西市で「多米峠の照葉樹林」の1件が確認されています。確認位置は図4-1-25に示すとおりです。

事業実施区域においては、特定植物群落は存在しません。

表 4-1-52 特定植物群落

No.	市	調査回	名称	選定基準	相観区分	面積(ha)
1	浜松市	2	尾奈のマンサク群落	C,H	個体群	0.5
2		2	本坂峠の照葉樹林	A	暖温帯常緑広葉高木林	10.0
3	湖西市	3	多米峠の照葉樹林	E	暖温帯常緑広葉高木林	7.0

注1) 選定基準は以下のとおりである。

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群

C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

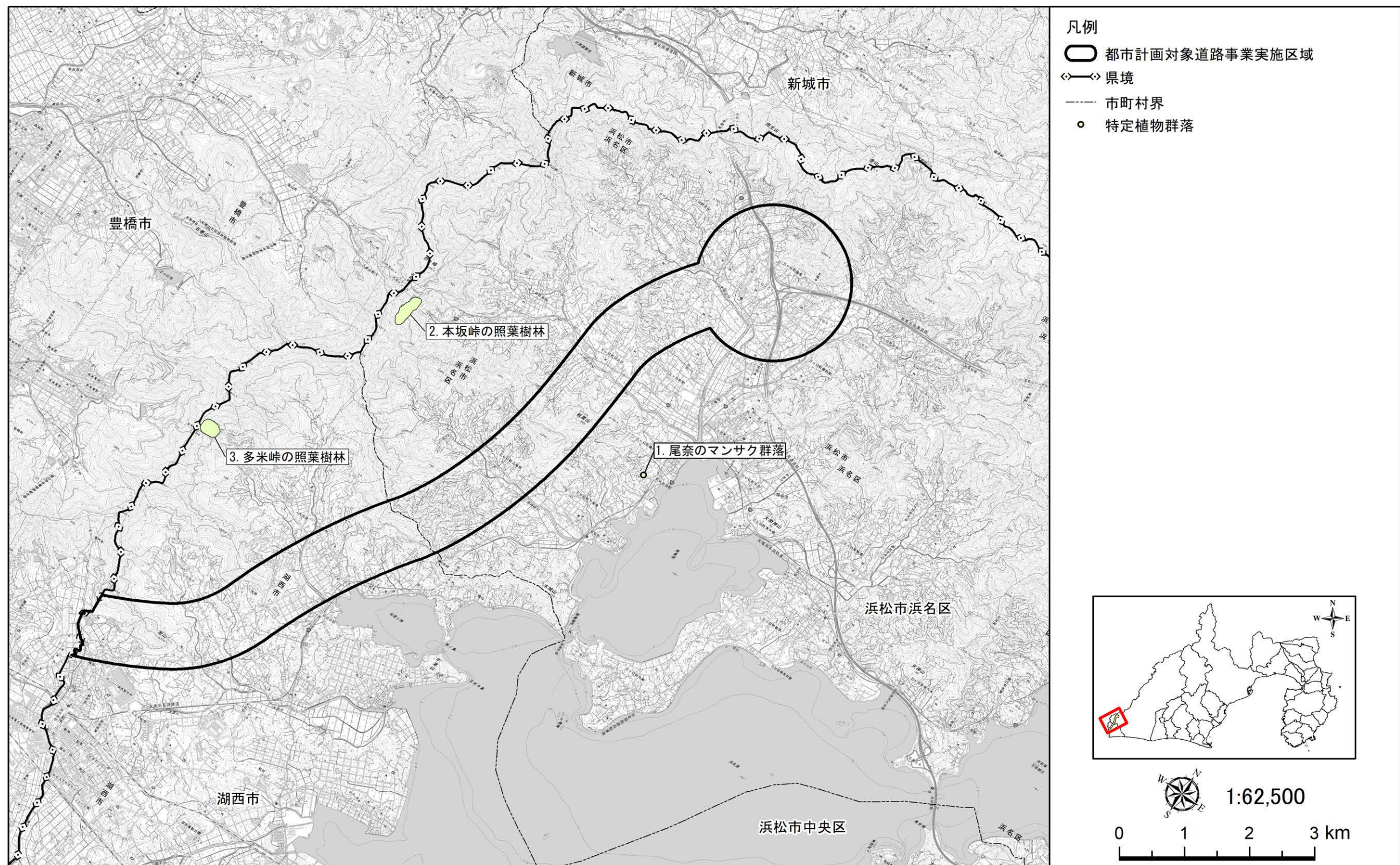
G：乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群

H：その他、学術上重要な植物群落又は個体群

出典：「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)

「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)

「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)



出典：「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」（昭和57年、環境庁）
「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成元年、環境庁）
「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」（平成12年、環境庁）

図 4-1-25 特定植物群落

② 巨樹・巨木林

「第４回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成７年、環境庁）、「第６回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」（平成１３年３月、環境省自然環境局生物多様性センター）によると、調査区域では、巨樹・巨木林として表４-1-53に示す２２件が確認されています。確認位置は図４-1-26に示すとおりです。

事業実施区域においては、「No.1 三ヶ日福長のイチョウ」「No.5 スギ」「No.6 スダジイ」「No.7 スダジイ」の４件の巨樹・巨木林が存在します。

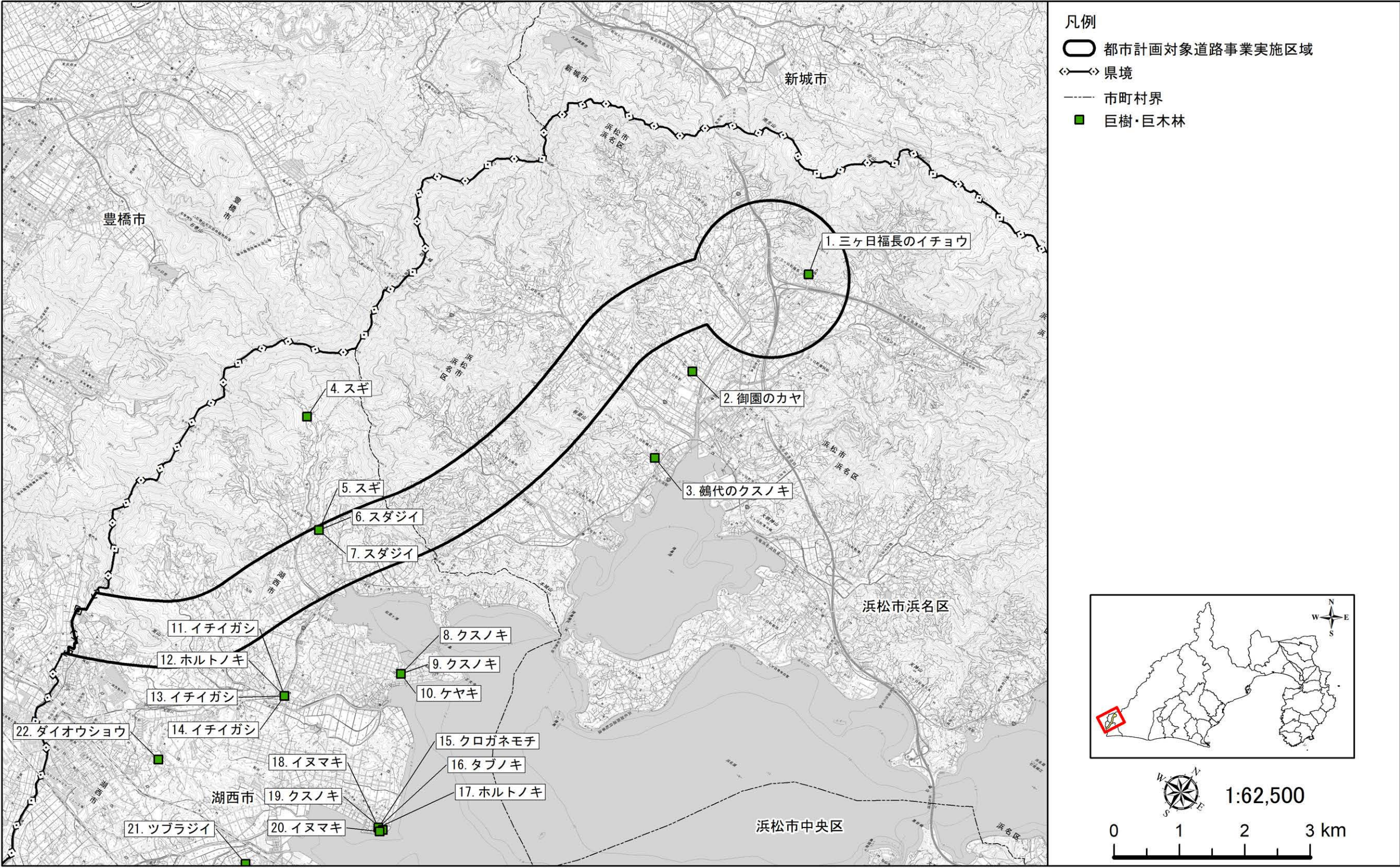
表 4-1-53 巨樹・巨木林

No.	所在地	名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	浜松市	三ヶ日福長	イチョウ	360	35
2		御園	カヤ	440	15
3		鶴代	クスノキ	440	40
4	湖西市	-	スギ	430	20
5		-	スギ	355	15
6		-	スダジイ	349	15
7		-	スダジイ	370	15
8		-	クスノキ	390	17
9		-	クスノキ	409	15
10		-	ケヤキ	320	13
11		-	イチイガシ	319	15
12		-	ホルトノキ	300	13
13		-	イチイガシ	319	10
14		-	イチイガシ	326	13
15		-	クロガネモチ	320	15
16		-	タブノキ	334	15
17		-	ホルトノキ	326	15
18		-	イヌマキ	317	15
19		-	クスノキ	330	15
20		-	イヌマキ	300	18
21		-	ツブラジイ	365	13
22		-	ダイオウショウ	202	17

注）地点番号は図4-1-26に対応する。

出典：「第４回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成７年、環境庁）

「第６回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」（平成１３年３月、環境省自然環境局生物多様性センター）



出典：「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成7年、環境庁）
「第6回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」（平成13年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）

図 4-1-26 巨樹・巨木林位置図

③ 文化財指定されている樹木等(天然記念物)

調査区域では、天然記念物（植物）として表 4-1-54 に示す 3 件が確認されています。
確認位置は図 4-1-27 に示すとおりです。

事業実施区域においては、「玉洞寺のサザンカ」「トキワマンサク北限群生地」の 2 件の天然記念物が存在します。

表 4-1-54 植物に係る天然記念物

No	市	指定	名称	所在地	指定年月日
1	浜松市	県	鶴代のマンサク群落	浜松市浜名区 三ヶ日町鶴代	昭和 46 年 8 月 3 日
2		市	玉洞寺のサザンカ	浜松市浜名区 三ヶ日町上尾 奈 589	平成 8 年 4 月 19 日
3	湖西市	県	トキワマンサク北限群生地	湖西市神座 242	昭和 52 年 12 月 20 日

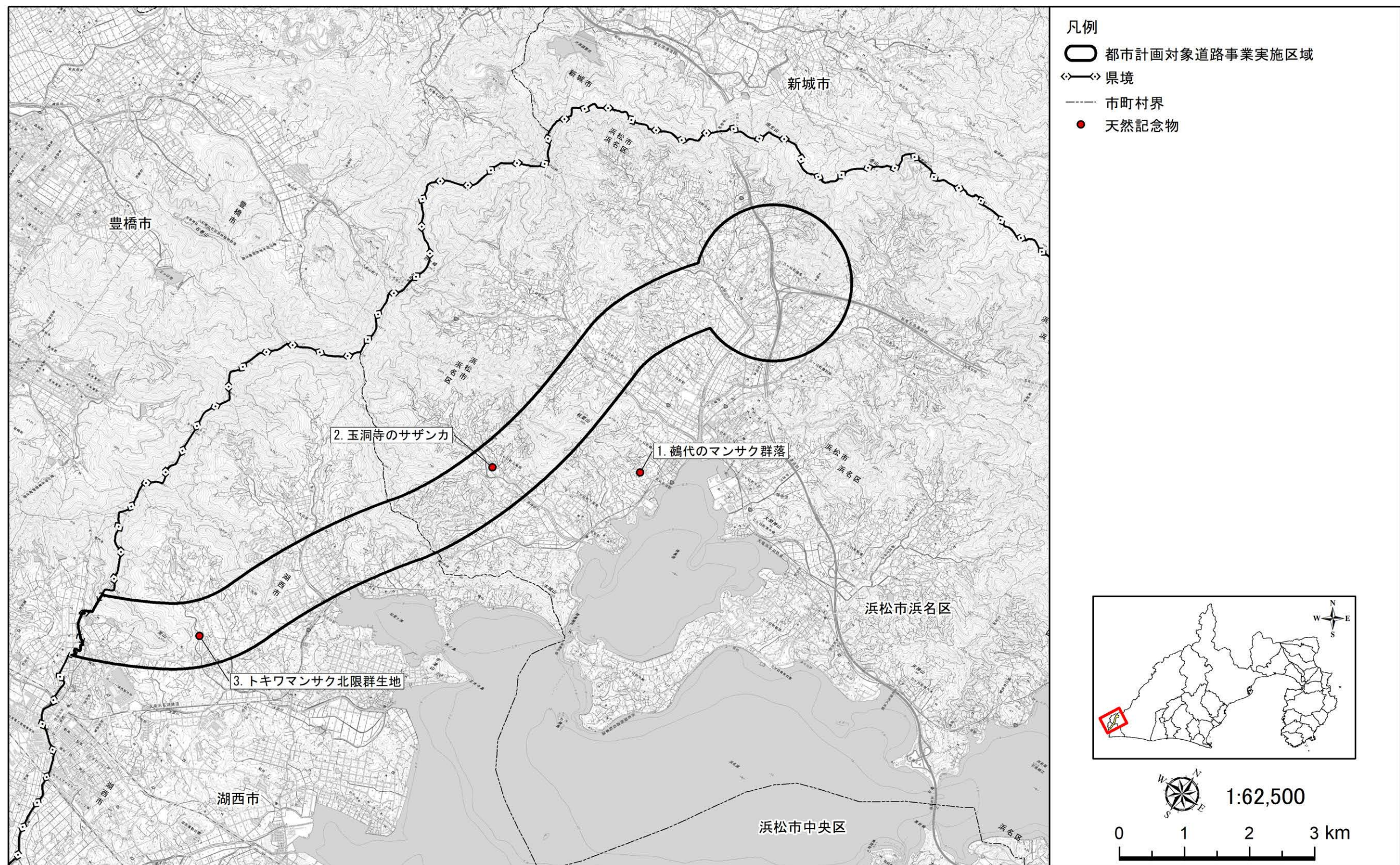
注) 地点番号は図4-1-27に対応する。

出典：「はままつ文化財」（浜松市ホームページ）

「浜松市文化財分布地図」（平成 30 年 10 月、浜松市教育委員会）

「湖西市文化財案内マップ」（湖西市教育委員会）

「しずおか文化財ナビ」（静岡県ホームページ）



出典：「はままつ文化財」（浜松市ホームページ）、「浜松市文化財分布地図」（平成30年10月、浜松市教育委員会）、
「湖西市文化財案内マップ」（湖西市教育委員会）、「しずおか文化財ナビ」（静岡県ホームページ）

図 4-1-27 文化財指定されている樹木・生育地等(天然記念物)位置図

(4) 生態系の状況

1) 自然環境の類型化

事業実施区域及びその周囲は、奥浜名湖をとりまく山地・丘陵地となっており、果樹園や植林地、二次林等が広がっています。

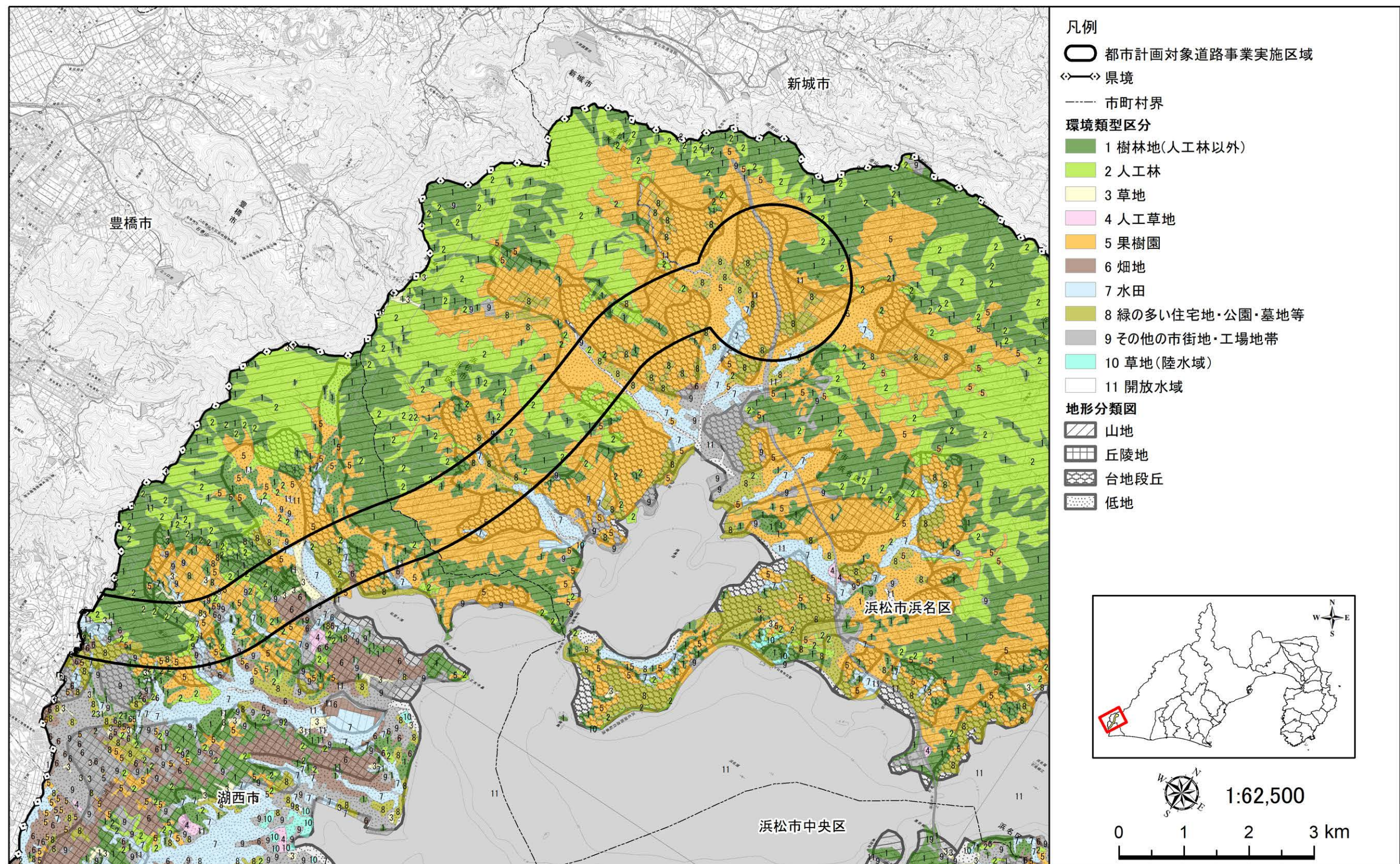
事業実施区域周辺の植生や土地利用の現況を踏まえた自然環境区分を表 4-1-55 のとおり類型化しました。自然環境類型区分図を図 4-1-28 に、代表的な箇所における自然環境類型区分の横断模式図を図 4-1-29 に示します。

地形については、静岡県と愛知県の県境付近の弓張山地一帯の「山地」、その周囲の山裾に広がる「丘陵地」、「台地段丘」、浜名湖に注ぐ河川周辺の「低地」の 4 つに区分されます。

植生については、弓張山地を中心に樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園等が主に見られ、河川周辺には畑地、草地、水田等が、浜名湖湖岸や調査区域南側の湖西市では、その他の市街地・工場地帯が見られます。

表 4-1-55 自然環境の類型区分の概況

No	地形区分	植生の類型区分	植生区分
1	山地	樹林地（人工林以外）	ミミズバイースダジイ群集 タブノキ・ヤブニッケイ二次林 コナラ群落（Ⅶ） アカメガシワ・カラスザンショウ群落 アカマツ群落（Ⅶ） 低木群落 ヒロハドウダンツツジ・アカマツ群落 など
2		人工林	スギ・ヒノキ・サワラ植林 クスノキ植林 など
3		果樹園	果樹園 常緑果樹園
4	丘陵地	人工草地	ゴルフ場・芝地 牧草地
5		畑地	畑雑草群落 放棄畑雑草群落
6	台地段丘	緑の多い住宅地・公園・墓地等	緑の多い住宅地 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
7	低地	その他の市街地・工場地帯	市街地 工場地帯 造成地
8		草地	ススキ群団（Ⅶ） 路傍・空地雑草群落 など
9		水田	水田雑草群落 放棄水田雑草群落
10	-	草地（陸水域）	ツルヨシ群集 など
11	-	開放水域	開放水域



注1) 「第6回自然環境保全基礎調査植生調査」、「第7回自然環境保全基礎調査植生調査」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)及び「20万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)を基に作成。

図 4-1-28 自然環境類型区分

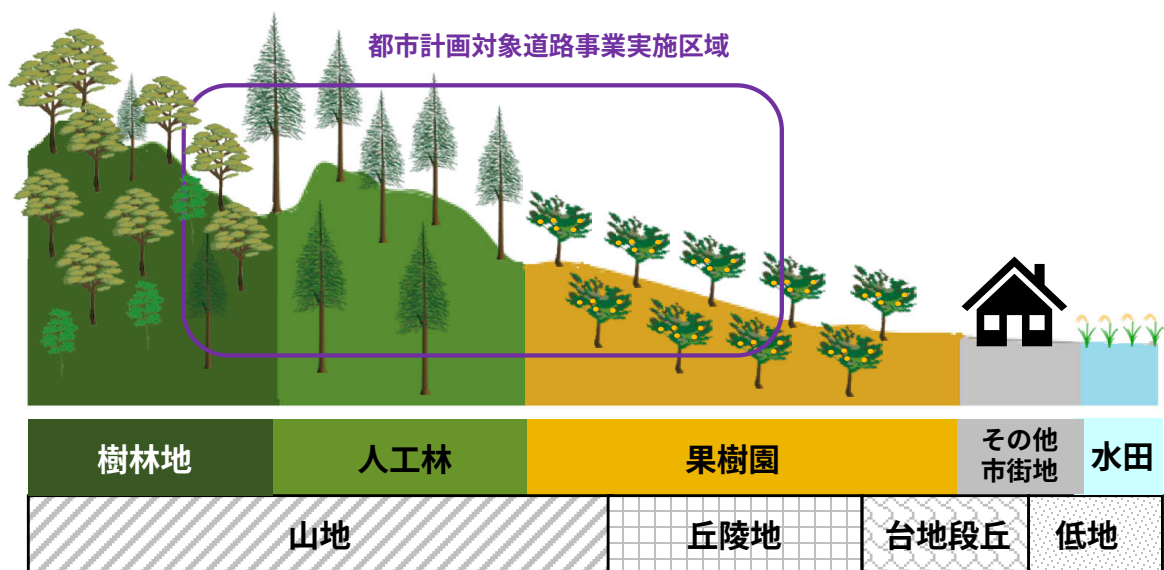


図 4-1-29 代表的な箇所における自然環境類型区分の横断模式図

2) 生態系エリア

自然環境類型区分図と地形を参考に、調査区域における生態系エリアを表 4-1-56 のとおり区分しました。生態系エリア区分図を図 4-1-30 に示します。

生態系区分は、静岡県・愛知県県境の弓張山地一帯を中心とした「山地－樹林主体の生態系」、弓張山地山麓から丘陵地に広がる果樹園を中心とした「山地・丘陵地－果樹園の生態系」、河川周辺の水田を中心とした「低地・台地－里山の生態系」、湖西市南部の台地段丘を中心とした「低地・台地－耕作地の生態系」及び浜名湖を中心とした「汽水域の生態系」の 5 区分となりました。

これらのうち事業実施区域が通過する 4 つの生態系エリアについて、注目すべき種を抽出することとしました。

表 4-1-56 生態系エリアの区分の概況

No	生態系区分	注目種の選定対象
①	山地－樹林主体の生態系	○
②	山地・丘陵地－果樹園の生態系	○
③	低地・台地－里山の生態系	○
④	低地・台地－耕作地の生態系	○
⑤	汽水域の生態系	×

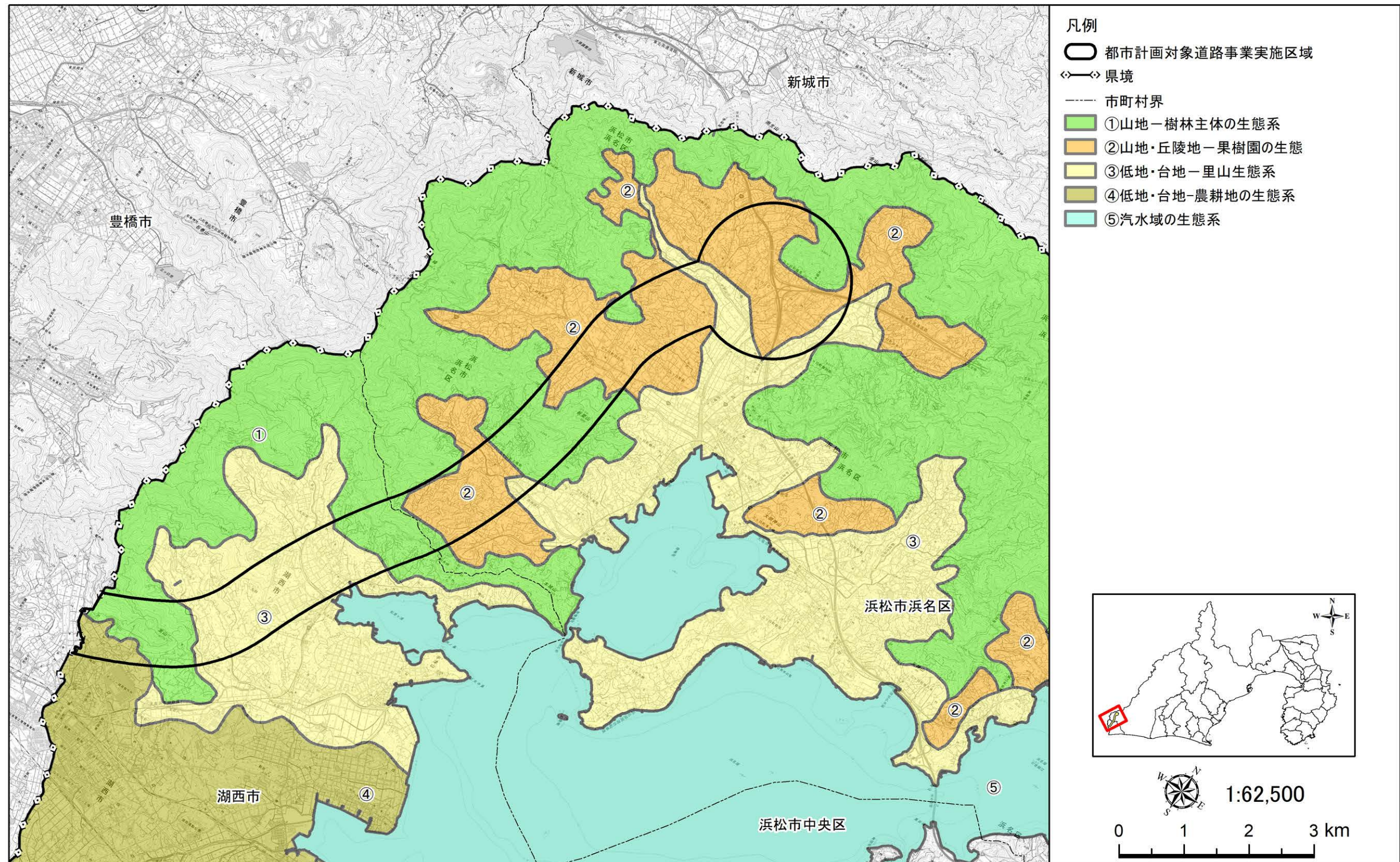


図 4-1-30 生態系エリア区分図

3) 主な動物相・植物相の状況

自然環境の生態系区分を基に、調査区域に生息又は生育が想定される代表的な動植物を表 4-1-57 に示します。

表 4-1-57 自然環境の類型区分と生息・生育が想定される動植物

生態系区分	主な生息・生育基盤	主な動物種	主な植物種
山地－樹林主体	・ミミズパイ－スダジイ群集 ・タブノキ－ヤブニッケイ二次林 ・アカメガシワ－カラスザンショウ群落	アズマモグラ、ニホンリス、ノウサギ、ホンドヒメネズミ、 <u>ホンドアカネズミ</u> 、 <u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、ニホンアナグマ、 <u>テン</u> 、ニホンイノシシ、ニホンジカ、カモシカ、 <u>オオタカ</u> 、ノスリ、ハチクマ、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジュウカラ</u> 、サンコウチョウ、オオルリ、 <u>ホオジロ</u> 、ヒガシニホントカゲ、タカチホヘビ、ジムグリ、シロマダラ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ネバタゴガエル、ヤマアカガエル、トウカイナガレホトケドジョウ、カジカ、オニヤンマ、エゾゼミ、アブラゼミ、 <u>モンキアゲハ</u> 、ジャノメチョウ、コムラサキ、ミスジチョウ、 <u>ミドリシジミ</u> 、 <u>ウラゴマダラシジミ</u> 、カブトムシ、 <u>ノコギリクワガタ</u> 、コガネグモ、キノボリトタテグモ、ヤマキサゴ、ヤマタニシ	タブノキ、スダジイ、コナラ、ヒサカキ、モミ、アカマツ、スギ、ヒノキ、キンラン、ヒメカンアオイ、ウツギ、ガマズミ、ヤマハツカ、ヤマツツジ、ヤマウルシ、 <u>ヌマガヤ</u> 、 <u>ミカワバイケイソウ</u> 等
山地・丘陵地－果樹園	・果樹園	アズマモグラ、ノウサギ、ホンドアカネズミ、 <u>ハタネズミ</u> 、 <u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、 <u>テン</u> 、ニホンイノシシ、 <u>オオタカ</u> 、フクロウ、コゲラ、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジュウカラ</u> 、モズ、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、オイカワ、カワムツ、シマヨシノボリ、アブラゼミ、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>カラスアゲハ</u> 、サトキマダラヒカゲ、 <u>シオカラトンボ</u> 、クロスズメバチ、オニグモ、ゴミグモ、ナミコギセル、ニッポンマイマイ	ミカン、サンショウ、モウソウチク、カヤ、スギ、ヒノキ、ヤマノイモ、ヒガンバナ、フキ、タラノキ、ノアザミ
低地・台地－里山	・水田雑草群落 ・畑雑草群落 ・緑の多い住宅地	アズマモグラ、 <u>ハタネズミ</u> 、 <u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>オオタカ</u> 、ゴイサギ、チュウサギ、 <u>ダイサギ</u> 、 <u>アオサギ</u> 、コサギ、 <u>カルガモ</u> 、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジュウカラ</u> 、スズメ、ムクドリ、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、アオダイショウ、シマヘビ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、 <u>オイカワ</u> 、カワムツ、ウナギ、 <u>マハゼ</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>ゲンジボタル</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、オオカマキリ、アオマツムシ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、ヤマトシジミ、スジグロシロチョウ、キアシナガバチ、ジグモ、オニグモ、オオタニシ	ジュズダマ、シナダレスズメガヤ、ヤブガラシ、クズ、コナギ、イタドリ、ツユクサ、ヒルガオ、セイヨウタンポポ
低地・台地－耕作地の生態系		アズマモグラ、 <u>ハタネズミ</u> 、 <u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>オオタカ</u> 、チュウサギ、 <u>ダイサギ</u> 、 <u>アオサギ</u> 、コサギ、 <u>カルガモ</u> 、スズメ、ムクドリ、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、アオダイショウ、 <u>ニホンアマガエル</u> 、 <u>オイカワ</u> 、 <u>マハゼ</u> 、トノサマガエル、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、オオカマキリ、アオマツムシ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、ジグモ、オニグモ、オオタニシ	ヤブガラシ、クズ、コナギ、イタドリ、ツユクサ、ヒルガオ、セイヨウタンポポ
汽水域	・開放水面	マガモ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、ニホンウナギ、オイカワ、ボラ、スズキ、マハゼ、ヒメハゼ、ヒヌマイトトンボ、イボキサゴ、ウミニナ、ムラサキイガイ、ヤマトヌマエビ、モクズガニ、ヤマトオサガニ	シバナ、コアマモ、アマモ、シオクグ、マコモ、ウラギク

注) 下線は注目すべき種・群集を示す。

4) 注目すべき種・群集の候補の抽出

調査区域に生息・生育すると想定される動植物のうち上位性、典型性、特殊性の視点から注目される動植物の種または生物群集（以下、「注目種・群集」とします。）を抽出しました。

注目種・群集の抽出視点は、表 4-1-58 に示すとおりです。

自然環境の類型区分に従って選定した注目種を表 4-1-59 に示します。

表 4-1-58 注目種・群集の抽出視点

抽出基準	注目種・群集の抽出視点
上位性	生態系の上位に位置する動物が対象となります。 上位性の視点から抽出される指標種・群集の例として、ワシ・タカ等の猛禽類やホンドキツネ、ツキノワグマ等の中・大型哺乳類等があげられます。
典型性	生態系の特徴を典型的に表す種が対象となります。 調査区域に優占する植物種または植物群落、それらを捕食する動物（一次消費者程度）、個体数が多い動物などが対象となります。
特殊性	生態系において特殊な環境であることを示す指標となる種が対象となります。 相対的に分布範囲が狭い環境、または質的に特殊な環境に生息・生育する動植物が対象となります。

表 4-1-59 地域の注目種・群集

No	区分	分類	種群・種名	生態系区分			
				山地―樹林主体	山地・丘陵地―果樹園	低地・台地―里山	低地・台地―耕作地の生態系
1	上位性	哺乳類	ホンドキツネ	●	●	●	●
2			テン	●	●	●	●
3		鳥類	オオタカ	●	●	●	●
4			サギ類 ダイサギ			●	●
5			アオサギ				
6	典型性	哺乳類	ホンドアカネズミ	●			
7			ホンドタヌキ	●	●	●	●
8			ハタネズミ		●	●	●
9		鳥類	カラ ヤマガラ	●	●	●	
10			シジュウカラ				
11			カルガモ			●	●
12			ホオジロ	●	●	●	●
13		両生類	ニホンアマガエル			●	●
14		爬虫類	ニホンカナヘビ		●	●	●
15			ヒガシニホントカゲ		●	●	●
16		魚類	オイカワ			●	●
17			マハゼ			●	●
18		昆虫類	アゲハ		●	●	●
19			モンキアゲハ	●	●	●	●
20			イチモンジセセリ		●	●	●
21			ゲンジボタル 成虫			●	
22			ゲンジボタル 幼虫				
23			シオカラトンボ 成虫		●	●	●
24			シオカラトンボ 幼虫				
25			ノコギリクワガタ	●			
26			ミドリシジミ ミドリシジミ	●			
27			ウラゴマダラシジミ	●			
28	特殊性	湿地性の植物	ヌマガヤ	●			
29		浜名湖沿岸の湧水湿地群落	ミカワバイケイソウ等	●			

1.6. 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観の状況

1) 地域の景観特性

浜松市から湖西市にかけて弓張山地が広がっており、弓張山地の東側には浜名湖の眺望が得られます。また、湖西市には遠州灘の眺望が得られます。浜松市、湖西市内には里山が広がり、起伏のある自然景観が見られます。

弓張山地、浜名湖、遠州灘等の自然景観が地域の景観特性を構成する要素となっています。

2) 主要な眺望点及び景観資源

調査区域における主要な眺望点及び景観資源の分布状況は、表 4-1-60(1)～(2)及び図 4-1-31 に示すとおりです。

調査区域において、22 地点の眺望点及び 34 箇所の景観資源が確認されています。

表 4-1-60(1) 主要な眺望点及び景観資源

市	種別	No	名称	規定根拠
浜松市	眺望点	1	雨生山	C
		2	雨生山コース眺望点	C
		3	千頭峯城跡駐車場	E
		4	津島神社	E
		5	高山ふれあいの森展望台（みかんの丘景観展望所）	A
		6	奥浜名湖展望公園	C
		7	浜名湖佐久米駅	A
		8	浜名湖サービスエリア（恋人岬）	A
		9	沖の瀬御殿	A
		10	JA 三ヶ日ふれあい広場	E
		11	乎那の峯	A
		12	白山神社	E
		13	富士見岩	C
	景観資源	14	みかん畑	d
		15	開墾記念碑	d
		16	共開園記念碑	d
		17	大福寺庭園	a, d
		18	旧三ヶ日小学校大福寺分教場	d
		19	千頭峯城跡	d
		20	三ヶ日時計台	d
		21	摩訶耶寺庭園	a, d
		22	才の神宿場の景観	d
		23	奥平山振興会館	d
		24	山田弥右衛門家墓所	d
		25	三ヶ日のみかん樹園	d
		26	加藤権兵衛家墓所	d
		27	初生衣神社	d
		28	浜名惣社神明宮	d
		29	柑橘頌徳碑	d
		30	みかん工房(閉店 202205)	d
		31	浜松市立三ヶ日図書館とみかん畑	d
		32	三ヶ日町農協柑橘選果場	d
		33	三ヶ日町農協会館	d
		34	JA みっかび特産品直売所	d
		35	つづさき観光みかん直売所	d
		36	猪鼻湖	a, c
		37	寸座落雁	d
		38	館山秋月	d
		39	新穴	c
		40	開拓記念碑	d
		41	高平農園直売所	d
		42	マルウ外山農園	d
		43	みかん型観光トイレ	d
		44	カネカみかん狩り園	d
浜松市・湖西市	景観資源	45	浜名湖	a, c
		46	瀬戸夜雨	d

表 4-1-60(2) 主要な眺望点及び景観資源

市	種別	No	名称	規定根拠
湖西市	眺望点	47	宇津山城址	A
		48	大知波峠廃寺跡	C
		49	多米峠	B
		50	雨やどり岩	C
		51	神石山	C
		52	ラクダ岩	C
		53	仏岩	C
		54	神座古墳群	C
		55	嵩山	C
	景観資源	56	浜名湖西岸の船が並ぶ景観	d

注1) 地点番号は図4-1-31に対応する。

注2) 「主要な眺望点」とは、「不特定かつ多数のものが利用している景観資源を眺望する場所」を指し、以下を抽出の基準としている。

A：地形図及び地方公共団体等の観光便覧等の資料に展望地、展望台としてあげられているもの

B：地形図に記載されている峠で、眺望の良い場所

C：キャンプ場、ハイキングコース、自然歩道等の野外レクリエーション地で眺望の良い場所

D：観光道路（〇〇ライン等）上で眺望の良い場所

E：集落周辺の眺望の良い場所、寺社等地域に密接した眺望の良い場所

F：文化財保護法、条例で指定された自然的構成要素と一体をなす名勝のうち展望地点として指定されるもの

G：自治体への聞き取りによる眺望点

注3) 「主要な景観資源」は以下の抽出基準により抽出した。

a：文化財保護法、条例で指定された自然的構成要素と一体をなす名勝

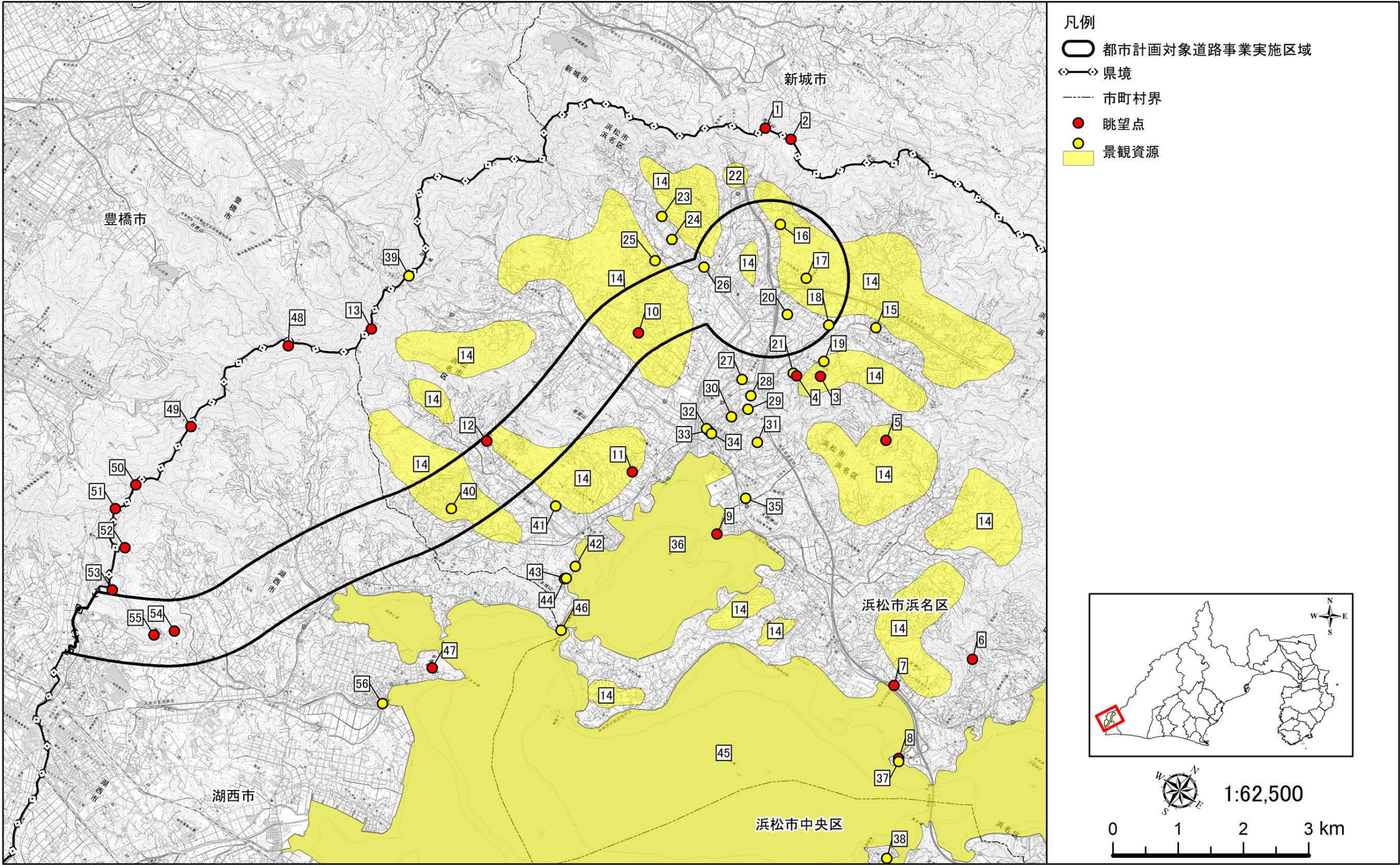
b：世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）で登録されている文化遺産及び自然遺産

c：「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書」（環境庁）で選定されている景観資源

d：地方公共団体の条例で指定されている自然景観資源、市町村要覧・観光関連資料・地方公共団体により選定された景観100選等で記載されている自然景観資源

e：「文化財保護法」で選定された重要文化的景観を構成する自然景観資源

出典：「雨生山ふしぎ発見コース」（新城市産業・立地部観光課）、「北区直虎ビューポイント」（浜松市ホームページ）、「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」（浜松市ホームページ）、「スポット 自然を浴びる・歴史を訪ねる」（三ヶ日観光協会ホームページ）、「湖西連峰ハイキングマップ」（湖西・新居観光協会ホームページ）、「浜松市歴史的風致維持向上計画」（令和4年3月、浜松市）、「しずおか文化財ナビ 名勝」、「第1回～第20回（昭和63年度～平成19年度）都市景観賞受賞地区」（静岡県ホームページ）、「遠江八景」（平成26年3月、静岡県文化・観光部 交流政策課）、「令和5年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）の概要（浜松市地域遺産センター・浜松市文化財課）」、「静岡県の文化財調査報告書 第72集「静岡県の文化的景観総合調査報告書」（静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課）、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（平成元年、環境庁）、「全国旅行情報サイト「JAPAN 47 GO」（日本観光振興協会ホームページ）、「湖西市ガイドマップ」（湖西・新居観光協会ホームページ）、「その他現地踏査により視対象の眺望が確認できた箇所



出典：「雨生山ふしぎ発見コース」（新城市産業・立地部観光課）、「北区直虎ビューポイント」（浜松市ホームページ）、「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」（浜松市ホームページ）、「スポット 自然を浴びる・歴史を訪ねる」（三ヶ日観光協会ホームページ）、「湖西連峰ハイキングマップ」（湖西・新居観光協会ホームページ）、「浜松市歴史的風致維持向上計画」（令和4年3月、浜松市）、「しずおか文化財ナビ 名勝」、「第1回～第20回（昭和63年度～平成19年度）都市景観賞受賞地区」（静岡県ホームページ）、「遠江八景」（平成26年3月、静岡県文化・観光部 交流政策課）、「令和5年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）の概要（浜松市地域遺産センター・浜松市文化財課）」、「静岡県文化財調査報告書 第72集「静岡県の文化的景観総合調査報告書」（静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課）」、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（平成元年、環境庁）、「全国旅行情報サイト「JAPAN 47 GO」（日本観光振興協会ホームページ）」、その他現地踏査により視対象の眺望が確認できた箇所

※事業実施区域内の眺望点・景観資源の名称					
No.	名称	No.	名称	No.	名称
10	JA 三ヶ日ふれあい広場	17	大福寺庭園	40	開拓記念碑
12	白山神社	18	旧三ヶ日小学校大福寺分教場	45	浜名湖
14	みかん畑	20	三ヶ日時計台	54	神座古墳群
16	共開園記念碑	26	加藤権兵衛家墓所	55	嵩山

図 4-1-31 主要な眺望点及び景観資源位置図

(2) 人と自然との触れ合いの活動の状況

調査区域の人と自然との触れ合いの活動の場は、表4-1-61(1)～(2)及び図4-1-32に示すとおりです。

調査区域において、19箇所の人と自然との触れ合いの活動の場が確認されています。

表 4-1-61(1) 人と自然との触れ合いの活動の場

No.	市	名称	概要
1	浜松市	奥浜名自然歩道 只木コース	奥浜名自然休養林内に整備されたハイキングコースの1つで、只木集落センター～富幕山までの約4.2kmのコース。コースの中間地点には浜松市指定史跡の幡教寺跡がある。富幕山は奥浜名自然休養林で一番高い山で、浜名湖や遠州灘、三河湾も眺望できる。富幕山では細江コースと合流している。
2		奥浜名自然歩道 細江コース	奥浜名自然休養林内に整備されたハイキングコースの1つで、細江公園～富幕山までの約4.7kmのコース。コースの途中にはおもかる大師や展望の優れた国民宿舎奥浜名湖、二三月峠等がある。尉ヶ峰から風越峠を経て、富幕山に到着する。尉ヶ峰では佐久米コースと合流している。
3		奥浜名自然歩道 佐久米コース	奥浜名自然休養林内に整備されたハイキングコースの1つで、天竜浜名湖鉄道浜名湖佐久米駅～尉ヶ峰までの約5.7kmのコース。コースの途中には浜名湖や遠州灘をはじめ、富士山、中央アルプス、伊豆半島、三河湾を望むことができる奥浜名湖展望公園や、東海道の脇街道である姫街道と交わる引佐峠、獅子落とし等の見所がある。尉ヶ峰では細江コースと合流している。
4		大谷不動滝	落差およそ6メートルの、二段に落ちる滝。傍の洞穴には不動明王が祀られている。
5		雨生山ふしぎ発見コース	雨生山は愛知県新城市と静岡県浜松市の境に位置しており、誰にでも登れる一般・家族向けの登山コース。低山ながら、浜名湖方面と豊橋方面の眺望をほしきままにできる。
6		大福寺	仁王寺や裏山の斜面を利用し全面に池を配した廻遊式の庭園、10月から2月まで咲く半蔵桜が見もの。
7		みかんの里農村公園	基幹作物として地域を支え続けている「三ヶ日みかん」を来訪者にPRする施設であり、みかんの丘景観展望所からは、みかん園と浜名湖の景観を眺めることができる。三ヶ日のみかん園は「新・浜松の自然100選」に選定されている。
8		乎那の峯	マンサクの群落と三ヶ日桜、万葉の歌碑がある。マンサク群落は「新・浜松の自然100選」に選定されている。春になると桜が咲き、自然を楽しみながら運動することができる。
9		大崎海水浴場	浜名湖北岸に面した海水浴場。
10		本坂峠のツバキ原生林	古道沿いに広がるヤブツバキ原生林です。樹齢200年を超えるものもあるといわれている。「新・浜松の自然100選」に選定されている。
11		浜名湖周遊自転車道	自転車の利用増大に対処して、自転車交通の安全を確保し、あわせて“心身の健全な発達に資すること”を目的とし昭和48年度より日本各地において「大規模自転車道」の整備が始められた。浜名湖周遊自転車道は、浜松市三ヶ日町三ヶ日から同市舞阪町弁天島に至る全長48.0kmの区間を東岸ルートとしている。
12		ハマイチコース	浜名湖畔を一周する約67.1kmのサイクリング基本コース。浜名湖を眺めながらサイクリングができる。コース周辺にはサイクリングのサポートショップやレンタサイクルのほか、サイクリストを歓迎する宿泊施設や飲食店等が多数ある。
13		ハマイチ・バイパスコース	浜名湖畔を一周する約51.1kmのサイクリングサブコース。湖の凹凸を一部ショートカットするコースであり、浜名湖のサイクリングコースで一番距離が短い。

表 4-1-61(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

No.	市	名称	概要
14	湖西市	ハマイチ・ブルーコース	浜名湖畔を一周する約 71.1km のサイクリングサブコース。基本コースであるハマイチコースよりも湖西市側の湖岸近くを回るコースである。
15		ハマイチ・グリーンコース	浜名湖から湖西市を大きく回る約 82km のサイクリングサブコース。高低差が 105m と起伏のあるコースで、コース途中にある道の駅潮見坂からは遠州灘を望むことができる。
16		おちばの里親水公園	大知波登山口。サワガニやメダカが生息する今川上流部に位置し、澄み切った水が流れる親水公園として人気である。駐車場やトイレが整備され、ハイキングコースマップも設置されている。
17		湖西連峰ハイキングコース	湖西連峰は静岡県と愛知県の県境に南北に連なる低い山々で、ハイキングコースや浜名湖の好展望台として人気がある。コースの途中には嵩山、仏岩、ラクダ岩、雨宿り岩等の眺望点や、神座古墳群、大知波峠廃寺跡といった史跡、イヌツゲ群生林や不動の滝等の自然豊かな見所がある。愛知県側の自然歩道が多数合流している。
18		梅田親水公園	梅田登山口近くにある、山・田園・水辺を楽しむことができる親水公園。ハイカーの駐車場としてだけでなく、池の周りがある散策路は地元住民の散歩コースとしても利用されている。
19		トキワマンサクロード	天竜浜名湖鉄道天浜線「大森駅」から県の天然記念物である「トキワマンサク北限群生地」までを結んだ散策コース。

注) 地点番号は図4-1-32に対応する。

出典：「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」（浜松市ホームページ）

「スポット 自然を浴びる」（三ヶ日観光協会ホームページ）

「雨生山ふしぎ発見コース」（新城市ホームページ）

「浜松・浜名湖の旅サポートブック」（公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューローホームページ）

「奥浜名湖」（農林水産省ホームページ）

「「新・浜松の自然 100 選」決定について」（一般財団法人 浜松公園緑地協会ホームページ）

「周辺の自然」（静岡県立森林公園ホームページ）

「ゆうゆうサイクリングマップ」（静岡県ホームページ）

「浜名湖一周サイクリングハマイチ WEB」（公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューローホームページ）

「湖西連峰ハイキングマップ」、「湖西市ガイドマップ」（湖西・新居観光協会ホームページ）

湖西市文化観光課聴き取り

「トキワマンサクロード駅周辺 MAP」（大森駅前案内看板）

1.7.一般環境中の放射性物質の状況

調査区域において、放射性物質の測定は行われていません。

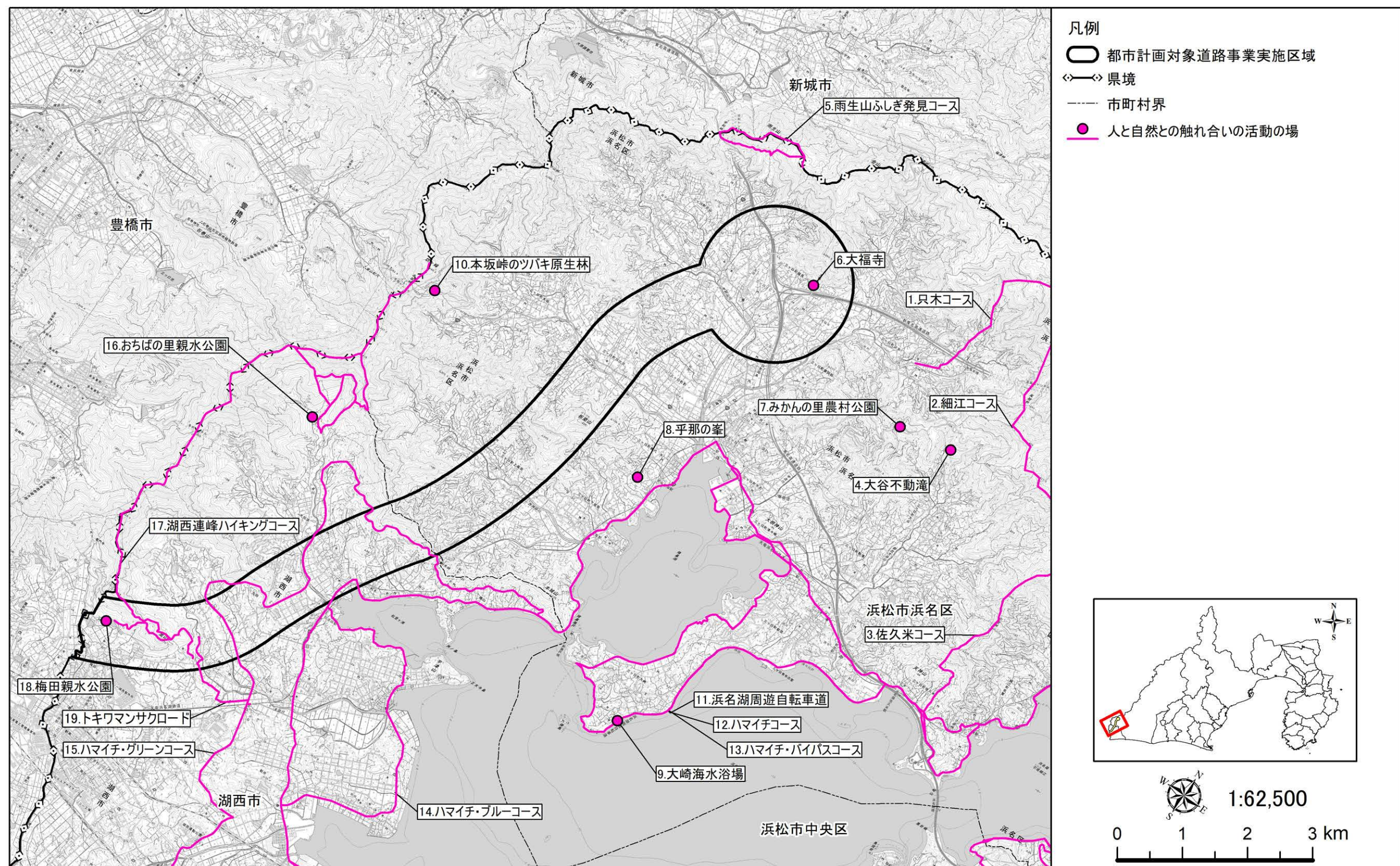


図 4-1-32 人と自然との触れ合いの活動の場位置図